一、駐在人ハ媒介人ノ面前ニ於テ開封シ送達證ト個數ノ物合ヲ確ムヘシ

二、驛長ヨリ受取タル行嚢ハ直チニ封緘ヲ取調ヘ異狀ナキヲ確メタル後集配所ニ持込開封シ送達帳ト個數ノ物合ヲ確ムヘシ若封緘ニ異狀アルトキハ驛長立會ノ上開封スヘシ

三、二以上ノ媒介ヲ經テ受授スヘキ場合ハ總テ前各號ニ準シ取扱フヘシ

第十一條　前條ニ依リ受授シタル郵便物其ノ他ニ過不足又ハ破損等ノ事故アルコトヲ發見シタルトキハ駐在人ヲシテ當該送達證摘要欄ニ其ノ旨記載セシメ且最先媒介便ニヨリ屆出テシムヘシ駐在人ニ於テ集配中郵便物其ノ他ニ事故アルヲ認知シタル場合亦同シ

第十二條　駐在人ヨリ受持局ニ送付スヘキ郵便物其ノ他ノ引渡ニ際シテハ駐在人ニ於テ送達證ニ定式ノ記入ヲ爲シ第九條ニ準シ取扱ハシムヘシ

第十三條　驛長ヲシテ媒介セシムル受授行嚢ノ受授ハ總テ閉嚢便取扱ノ例ニ準スヘシ

但シ駐在人ニ在リテハ閉嚢便差立郵便物受授證及同到著郵便物領收證ニ集配所名及月日ヲ夫々記載シ所名ノ下ニ集配所取扱人又ハ駐在人ノ認印ヲ押捺スヘシ

第十四條　第九條第十三條ノ行嚢締切方法ハ郵便行嚢規程ニ據ル、但シ駐在人ニ於テ使用スル封印紙日附印欄ニハ月日ヲ記入スヘシ

第十五條　受持局ヨリ駐在集配區内ノ無集配局ニ送達スヘキ行嚢ハ一般規定ニ據ルノ外其ノ局名ヲ記載シタル票札ヲ附シ無集配局送受簿ハ口紐ニ結付シ置クヘシ無集配局ヨリ受持局ヘ送付ノ場合亦同シ

第十六條　媒介人ト駐在人間ノ受授ハ十分以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十七條　媒介人若ハ駐在人ノ一方カ概定時刻迄ニ集配所ニ參著セサル場合ハ左記各號ニ依リ處理スヘシ但シ對手者カ待合スヘキ時間内ニ到著セサルコトヲ豫知シ得タル場合ハ此ノ限リニ在ラス

一、媒介人タル集配通信手ハ其ノ受持區ノ集配上支障ナキ限度ニ於テ二時間以内待合スヘシ

二、媒介人タル遞送衆掌ノ通信手ハ遞送時間ニ遲滯ヲ來ササル限度ニ於テ適宜待合スヘシ

三、駐在人ハ二時間以内待合スヘシ

四、前各號ニ據ルモ尚郵便物其ノ他ヲ受授シ能ハサル場合ニ於テハ集配所取扱人又ハ其ノ家族ニ受取方ヲ依賴シ便宜ノ受取證ヲ徵スヘシ若集配所取扱人又ハ其ノ家族不在ノ場合ハ遞送衆掌往復便ニアリテハ復便ニ受授シ其ノ他ハ之ヲ持戻ルヘシ

第十八條　前條ニ依ルモ尚受授シ能ハサル場合ハ左記ニ據リ處理スヘシ

一、前條第一號ノ媒介人ヒニ通過後又ハ同第三號ニ依ル待合時間經過後更ニ一時間ヲ待合ハスモ尚媒介人參著セサルトキハ駐在人ハ取集ノミヲ執行シ次便服務ニ差支ヘナキ限リ受持局又ハ媒介通信手ヘ自身送達スヘシ

二、駐在人カ集配所ヘ遲著ノ爲前條第二號ノ媒介人ヒニ出發後ナリシトキハ其ノ歸便迄待合ハスヘシ

第十九條　受持局郵便主任ニ於テ媒介者ヨリ第十二條ノ行嚢ヲ受領シタルトキハ媒介者立會開披シ在裡送達證ト現物トヲ對照受領ノ上現金ハ

出納官吏又ハ關係主任ヘ其ノ他交付ヲ要スルモノハ夫々關係者ヘ交付シ送達證相當欄ニ受領證印ヲ受クヘシ

前項送達證ハ番號順ニヨリ送達帳上部ニ貼付整理保存スヘシ

第二十條　前條ニ依リ取集貯金ヲ受授シタル場合ハ特定局ニ限リ貯金取扱規程第五十五條ニ依ル集配手日記簿（貯第二十五條）ヲ省略スル事ヲ得

第三章　處理手續

第二十一條　媒介人ト駐在人又ハ驛長トノ間ニ於テ郵便物其ノ他ノ受授ヲ了シ能ハサルトキ又ハ駐在集配ヲ執行シ能ハサリシ場合ハ當該駐在人ハ即時受持局ニ其ノ事由ヲ通報シ受持局ハ適宜ノ書式ニ據リ直ニ内務部遞信課ヘ報告スヘシ

第二十二條　事故持戻郵便物ニシテ次便配達ノ見込アルモノハ其ノ物數竝ニ特殊取扱ノモノニアリテハ其ノ引受局名引受番號及事由ヲ送達證摘要欄ニ記入ノ上之ヲ保管シ次便ニ更ニ配達ヲ爲スヘシ此ノ場合配達證餘白ニ何月何日配達ト記載スヘシ

第二十三條　現金取立又ハ保險料ノ徵收ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テ證書、證券及集金票ヲ受持局ヘ返送スルモ次ノ取立期日カ受持局ヨリ更ニ之カ送付ヲ受クル日ヨリ二日以内ノ餘日アルニ過キサル場合ハ該證書證券及集金票ハ其儘保管シ集金郵便仕拂人又ハ保險契約者ノ申出或ハ受持局指定ノ日ニ取立又ハ集金ヲ爲スヘシ此場合送達證餘白ニ其ノ旨記載スヘシ

第二十四條　駐在人ノ取扱ニ係ル閉嚢便差立郵便物領收證及同到著郵便物引渡證ハ當該諸書番號ヲ送達證摘要欄ニ記載ノ上最近便ニテ受持局ヘ送付スヘシ

第二十類　通信　電氣　瓦斯　第一章　通信

第二十五條　郵便物保管箱ハ駐在人ヲシテ左記各號ノ物件ヲ格納セシメ鎖鑰ヲ施シタル上集配所ニ嚴重保管セシムヘシ

一、第九條第一項ノ郵便物及其ノ他ノ物件ニシテ翌日ノ取扱ニ附スヘキモノ

二、第二十三條ニ依リ保管スルモノ

三、駐在人ノ取集タル郵便物

四、事故持戻郵便物

五、郵便配達證、料金取立書、取集貯金集金郵便ノ取立ニ關スル現金、證書、證券、保險料及其ノ他書類

六、第十七條第四號ノ受授行嚢

七、郵便函鍵、帳簿用紙類及其ノ他重要ト認ムルモノ

郵便集配所ト通信手ノ駐在地トヲ異ニスル場合ニ在リテハ前項ノ例ニ依リ駐在人ヲシテ自宅ニ於テ嚴重保管セシムヘシ

第二十六條　受持局ニ於テ駐在集配區内ニ配達スヘキ郵便物及其ノ他ノ物件ニシテ規定上通信手ノ認印ヲ要スル場合ハ關係帳簿摘要欄若ハ餘白ニ「媒介」ト記入シ第一次媒介人（驛長媒介ノモノハ當該受渡線擔當通信手トス）ヲシテ證印セシムヘシ

第二十七條　受持局ハ駐在人及媒人ノ集配所著發時刻（規定時刻ニ依ラサル時ハ其ノ事由ヲモ附記）ヲ送達證摘要欄ニ記載セシメ常ニ服務狀況ヲ監視スヘシ

第二十八條　受持局ニ於テ遞送衆掌ノ媒介人ニ依ル第九條ノ受授行嚢ハ秤量ノ上關係遞送記相當欄ニ個數量目ヲ記載スヘシ

第二十九條　遞送衆掌媒介人往便ニ於テ駐在人ト受授不能ノ爲持越シタ

ル場合ハ到著局（集配所極端局間ニ立寄局アル場合ハ其ノ立寄局トス以下同シ）ヘ一旦受授行嚢其ノ他ヲ引渡スヘシ

此ノ場合到著局ハ其ノ事故ヲ遞送記餘白ニ朱書スヘシ

第三十條　前條ノ場合到著局ハ受授行嚢個數ヲ關係遞送記ト對照シ行嚢封緘及其ノ他ニ異狀ノ有無ヲ確メ保管シ第二十八條ニ準シ次ノ最先便ニテ差出スヘシ

附　則

第三十一條　本令ハ昭和三年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條　本令ニ抵觸スル從前ノ通達ハ之ヲ廢止ス

樣式

集配郵便物送達帳

集配	日附印	受授行嚢在中 第號 第區番號								受授行嚢在外	取扱者印	媒介者印
		區別	特殊通常	特殊小包	未納又ハ不足	集金郵便金票	保險集通帳又ハ領收證	切手類買受委託	送達個數			
受持局	摘要											
												摘要

受授行嚢在中										受授行嚢在外
區別	通常普通把束	小包	取集貯金行嚢	送達個數	又ハ 金額	無集配局宛行嚢	小包行嚢又ハ結束	駐在人ノ媒介スヘキ受授行嚢其ノ他		受授行嚢在外

集配	日附印	受授行嚢在中 第號 第區番號								受授行嚢在外	取集通數	送達證票枚數
		區別	特殊通常	特殊小包	未納又ハ不足	集金郵便金票	保險集通帳又ハ領收證	切手類買受委託	送達個數			
受持局	摘要										持戻通數	同上金額
												事故戻返枚數

受授行嚢在中										受授行嚢在外	駐在	次便送達證番號及受領證印
區別	通常普通把束	小包	取集貯金行嚢	送達個數	又ハ 金額	無集配局宛行嚢	小包行嚢又ハ結束	駐在人ノ媒介スヘキ受授行嚢其ノ他		受授行嚢在外		摘要

記入心得

甲、集配受持局記入心得

一、第　號ノ欄ニハ駐在區毎ニ逐次番號ヲ附シ月ノ更新ト共ニ更ニ一號ヨリ始ムヘシ

二、第　區ノ欄ニハ駐在集配區名ヲ記入スヘシ

三、送達個數欄ニハ各別ニ送達ノ數量ヲ記入スヘシ

四、保險領收帳ヲ郵便ニ依ラスシテ交付又ハ引揚ノ場合ハ保險集金票欄ニ記入スヘシ

五、通帳又ハ受領證欄ニハ貯金取扱規程第五十六條ニ依リ返付スル通帳ヲ記入スヘシ

六、切手類賣受委託欄ニハ賣捌人毎ニ區別シタル個數ヲ記入スヘシ

七、受授行嚢在外欄ニハ受授行嚢ニ納メサルモノヲ夫々記入スヘシ

八、駐在通信手ノ媒介スヘキ受授行嚢其ノ他トハ駐在通信手カ更ニ他ノ駐在通信手ニ媒介送達スヘキ受授行嚢ヲ指ス

九、摘要欄ニハ送達上參考トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ

乙、駐在通信手記入心得

一、取集通數欄ニハ取集通常通數ヲ記入スヘシ

二、送付證票枚數欄ニハ特殊郵便物配達證、料金取立書、取立濟集金郵便委託書及振替貯金拂込書、集金濟集金票、通帳ト引替ニ徵收シタル貯金受領書等ノ枚數ヲ夫々記入スヘシ

三、同上金額欄ニハ集金郵便ノ取立並ニ徵收保險料ノ口數金額、郵便切手類賣捌人ヨリ切手類又ハ收入印紙賣受委託請求書金額ヲ夫々記入スヘシ

四、事故持戻枚數欄ニハ事故ノ爲メ持戻トナリ受持局ヘ返戻スル數ヲ記入スヘシ

五、次便送達證番號及受領證印欄ニハ當該送達證ヲ受取後（受持局ヘ返戻ノ爲メ媒介人ヘ引渡迄ノ間ニ於テ）受持局ヨリ受領シタル受授行嚢在中送達證ノ番號ヲ記入シ其ノ直下ニ認印スヘシ

六、摘要欄ニハ送達證ト現物ト對照相違アル場合ハ其ノ旨及其ノ他參考事項ヲ記入スヘシ

●郵便私書函設備竝貸與手續

昭和三年四月十八日
訓令第六十六號

内務部　郵便局

郵便私書函設備竝貸與手續左ノ通定ム

郵便私書函設備竝貸與手續

第一條　郵便私書函（以下單ニ私書函ト稱ス）ノ設備竝貸與ニ關シテハ郵便私書函使用規則（以下單ニ使用規則ト稱ス）及郵便私書函構造圖式ニ依ルノ外本令ニ依ルヘシ

第二條　私書函ノ新設又ハ增設ヲ要スルトキハ左記事項ヲ具シ棒太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

一　所用函數（内部區切數ヲモ記入スルコト）

二　現在設備數竝貸與數

三　使用申請者ノ有無及使用申請者アラハ其ノ使用見込期間

四　將來使用申請見込數

五　設置場所（窓口正面圖ニ設置スヘキ位置ヲ表示シ尙其ノ取付方法ヲ附記スヘシ）

第三條　使用規則第一條ニ依リ私書函ヲ使用セムトスル者アルトキハ私書函使用申請書（第一號樣式）ヲ差出サシメ貸與上支障ナキコトヲ確認シタル上相當料金ヲ徵收シ許可書（第二號樣式）交付ト共ニ鍵ヲ貸與シ郵便物發著時刻ヲ通知スヘシ

第四條　使用規則第三條但書ニ依リ鍵二個以上貸與方請求スルモノアルトキハ別ニ請求書（樣式適宜）ヲ差出サシメ相當料金ヲ徵收ノ上貸與スヘシ

私書函貸與方申請ト同時ニ前項ノ請求ヲ爲ス場合ニ在リテハ之ヲ使用

〔棒法〕

申請書ニ附記セシメ本請求書ヲ省略スルコトヲ得

第五條　私書函使用者ニ鍵ヲ貸與シタルトキハ預リ證（樣式適宜）ヲ徵シ返納シタルトキハ之ヲ還付スヘシ

第六條　使用規則ニ依リ料金ヲ徵收スルトキハ相當切手ヲ差出サシメタル上郵便料金取立帳及同取立書ヲ調製シ取立書ハ之ヲ取放シ受領證トシテ使用者ニ交付シ取立帳ハ其ノ摘要欄ニ郵便切手ヲ貼附消印スヘシ前項ノ郵便料金取立帳及同取立書ハ徵收種別欄ニ「私書函使用料」又ハ「私書函鍵增額貸付料」等ト摘要欄ニハ「何年度何期分（期ノ中通ヨリ使用ヲ開始シタルモノハ　自何年何月分至何年何月分）」又ハ「鍵何箇」ト記入スヘシ

第七條　次期使用料ヲ納期日（前月十日）三日前迄ニ納付セサル使用人ニ對シテハ一應納付方通告スヘシ

第八條　使用規則第十一條ニ依リ使用料還付ノ請求ヲ受ケタルトキハ郵便取扱規程第四百四十五條ニ準シ處理スヘシ

第九條　使用者ノ氏名ヲ改メ又ハ居所ニ異動ヲ生シタルトキハ屆書（樣式適宜）ヲ差出サシムヘシ

第十條　使用規則第七條ニ依リ私書函使用ノ許可ヲ取消サムトスルトキハ許可取消書（第三號樣式）ヲ交付スヘシ

第十一條　使用者私書函ヲ毀損シ又ハ鍵ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ顚末書及損害高任意辨償ノ諾否ヲ記載シタル書面ヲ差出サシメ物品會計官吏ヲ置ク局ニ在リテハ直ニ相當處理シ其ノ他ノ局ニ在リテハ一件書類ヲ添ヘ指揮ヲ受クヘシ

第十二條　私書函ヲ設置シタル局ニ於テハ私書函原簿（第四號樣式）ヲ設ケ定式ノ記入ヲ爲スヘシ

第十三條　私書函ヲ新設シ又ハ設備數ヲ增減シ若ハ撤廢シタルトキハ第五號樣式ニ依リ直ニ内務部遞信課ニ報告スヘシ

第十四條　私書函貸與局ニ於テハ郵便物發著時刻ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度使用人ニ通知スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ牴觸スル從前ノ通達ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式

郵便私書函使用申請書

貴局設置郵便私書函使用致度ニ付許可相成度申請ス

居所
職業　氏名

年　月　日

何郵便局宛

第二號樣式

許可書

使用申請者　氏名

何年何月何日申請郵便私書函使用ノ件許可ス

但シ第何號私書函ヲ使用スヘシ

年　月　日

何郵便局印

第三號樣式

許可取消書

〔棒法〕

居所、職業
郵便私書函第何號使用者　氏　名

右者郵便私書函使用規則第七條ニ依リ郵便私書函使用ノ許可ヲ取消ス

年　月　日

何郵便局印

第四號樣式

郵便私書函原簿

私書函番號	第　號	一期間使用料	圓	設置及文書番號	認可年月日	年月日
使用許可年月日	使用許可取消又ハ廢止年月日	貸與鍵數	使用者	居所	職業	氏名	備考

第五號樣式

郵便私書函原簿

料金	徴収			徴収		
期間	年月日	主任印	摘要	期間	年月日	主任印	摘要

記入心得

一　本簿ハ私書函番號毎ニ口座ヲ設ケ使用許可取消廢止及使用者ノ居所氏名ノ異動等ヲ記入スルモノトス

二　備考欄ニハ鍵增貸及其ノ返納年月日使用停止及其ノ解除年月日等參考トナルヘキ事項ヲ記入スルモノトス

三　使用取消又ハ使用廢止ノ場合ハ其ノ年月日ハ朱書シ使用者欄ニハ朱線ヲ施スモノトス

四　料金徴収表摘要欄ニハ期間ノ中途ヨリノ使用許可、取消及廢止等ノ場合ニ於ケル徴収或ハ還付金額、鍵ノ增貸ニ對スル料金徴収ノ場合其ノ金額徴収年月日等ヲ記入スルモノトス

第五號樣式

郵便私書函新設（增設、撤廢）報告

新設增設撤廢年月日	私書函番號	箇數	現在設備數	合計	備考

●郵便私書函使用料ノ件

明治四十三年十月五日
遞令第二十八號

明治四十三年九月遞信省令第八十六號郵便私書函使用規則第十六條ニ依ル使用料ハ樺太廳郵便局ハ金壹圓トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

【樺法】

●樺太ニ於テハ別使配達艀船配達ヲ爲ササル件

明治四十三年十一月一日
遞信省告示第千百六十九號

樺太ニ於テハ別使配達及艀船配達ヲ爲サス

●內地ヨリ朝鮮及樺太ニ宛テタル郵便物ノ配達及集金郵便ニ依ル現金取立ニ關スル取扱方

改正　大三年一〇月通信省告示第六八九號、昭三年二月三八一號

明治四十四年十月十九日
遞信省告示第千百八十八號

內地ヨリ朝鮮及樺太ニ宛テタル郵便物ノ配達及集金郵便ニ依ル現金取立ニ關スル取扱方左ノ如シ

一　樺太ニ於テハ郵便局ノ郵便區市內及遞送沿線地竝樺太廳ニ於テ指定スル地域ノ外郵便物ノ配達ヲ爲ササルコトアルヘシ

二　前項ニ依リ配達ヲ爲ササル郵便物ハ郵便局ニ留置キ受取人ノ出頭ヲ待ッテ之ヲ交付ス

三　樺太ニ於テハ當分ノ內郵便物ノ別配達ヲ取扱ハス

四　朝鮮及樺太ニ於テハ郵便局所ノ郵便區市內ノ外集金郵便ニ依ル現金取立ヲ爲サス

【樺法】

●郵便集配度數及時刻規定ノ件

明治四十二年七月二十八日
遞信省告示第百四十六號

各郵便局（西能登呂大泊本町局ヲ除ク）

郵便集配度數及其ノ時刻ハ其局ニ於テ之ヲ定メ即時報告スヘシ但之カ爲別ニ經費ヲ要スルモノハ此ノ限ニ非ス

●速達郵便物ヲ取扱ハサルノ件

昭和四年十二月十八日
廳令第四十四號

明治四十四年二月樺太廳令第三號（速達郵便物ヲ取扱ハサルノ件）ヲ左ノ通改正シ昭和五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年二月遞信省令第三號速達郵便規則ニ依ル速達郵便物ハ樺太廳郵便局ニ於テハ之ヲ取扱ハス但シ昭和四年三月遞信省令第八號航空郵便規則ニ依ル郵便物ニシテ速達取扱トナスモノハ此ノ限ニ非ス

●特殊通信日附印使用

昭和七年六月二十八日
告示第百四十九號

樺太廳郵便局ニ於テハ明治四十二年十二月遞信省告示第千三百八十六號

ニ依ルモノノ外左記ニ依リ名勝史蹟等ニ因メル圖案ヲ挿入シタル通信日附印ヲ使用ス

一　使用方法

料金ヲ完納シタル書狀無封ノ書狀ヲ除ク及郵便繪葉書ノ引受ニ使用ス但シ其ノ希望ヲ以テ郵便局窓口ニ差出シタルモノニ限ル

料金ヲ完納シタル郵便葉書竝記念ノ目的ヲ以テ一錢五厘以上ノ郵便切手ヲ貼付シタル物件ニ對シ消印ノ需ニ應ス

二　使用局、形式、使用開始期日

使用局　日附印形式　使用開始年月日

大泊

昭和七年七月一日

豐原

昭和七年七月一日

眞岡

昭和七年七月一日

郵便函、郵便切手類及收入印紙賣捌所配置手續

大正十五年十月三十日
訓令第二百八十號

內務部　郵便局（無集配局ヲ除ク）

郵便函及郵便切手類賣捌所配置手續左ノ通改正ス

右訓令ス

郵便函、郵便切手類及收入印紙賣捌所配置手續

第一章　總則

第一條　郵便函、郵便切手類及收入印紙賣捌所（以下單ニ賣捌所ト稱ス）ノ配置竝郵便切手類及收入印紙賣捌人（以下單ニ賣捌人ト稱ス）ノ異動ニ關シテハ郵便切手類及收入印紙賣捌規則竝郵便切手類及收入印紙賣捌所規程ニ依ルノ外本手續ニ依リ處理スヘシ

第二條　本手續ニ依リ難キ特殊ノ事情アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ指揮ヲ受クヘシ

第三條　天災事變其ノ他急遽ノ場合臨時措置ヲ要スルトキハ本手續ノ標準ニ拘ラス適宜施行スルコトヲ得

第二章　郵便函ノ配置

第四條　郵便函相互ノ距離ハ二丁以上トス但シ必要ニ應シ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第五條　左記各號ノ一ニ該當スル個所ハ前條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一、無集配局前

二、停車場構內、船客待合所及郵便物ヲ搭載スル船舶內

三、官公署、學校、工場、病院、其ノ他之ニ準スル營造物ノ附近

四、多數公衆ノ集合スル場所

第六條　郵便函ハ柱函、掛函ノ二種トシ柱函ハ左記各號ニ該當スル地ニ設置ス

一、無集配局前

二、集配度數二度以上ノ市內ニ於ケル主要ノ場所

三、右ノ外特殊ノ事由ニ依リ必要ト認メタル地掛函ハ前項以外ノ土地トス

第七條　郵便函ノ設置場所ハ交通ノ要路ニ衝リ衆目ニ觸レ易ク郵便物ノ保護上安全ニシテ且郵便物ノ投入及開函ニ利便ナル場所トシ特ニ柱函ハ通行上又ハ道路取締上支障ナキ場所ニ設置シ掛函ハ賣捌人居宅ノ店頭、門柱又ハ壁等ニシテ地上凡ソ四尺五寸（上端ノ位置ヲ示ス）ノ高サニ取付クヘシ

第三章　賣捌所配置

第八條　郵便切手賣捌所ハ郵便函ニ接近シ衆目ニ觸レ易キ位置ニシテ買受上利便ナル場所ヲ選定スヘシ

第九條　收入印紙賣捌所ハ裁判所、同出張所構內又ハ其ノ附近ニ於テ特ニ收入印紙賣捌ノ必要アル場所ニ限リ設置ス

第四章　賣捌人選定

第十條　賣捌人ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ選定スルコトヲ得

一、郵便切手類及收入印紙ヲ相當準備スヘキ資力ナキ者

二、身元確實ナラサル者及風評宜シカラサル者

三、賣捌時間內何時ニテモ公衆ノ需ニ應シ得サル者
四、禁治產者及準禁治產者
五、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
六、故意ヲ以テ通信事業ニ關スル罪ヲ犯シタル者
七、賣捌所ニ常住セサル者但シ停車場及裁判所構內ハ此ノ限リニ在ラス
八、擧家不在勝ノ者
九、公衆ノ出入ヲ憚ル業務ヲ營ム者
一〇、郵便切手類及收入印紙ヲ汚損スヘキ虞アル業務ヲ營ム者
一一、本人又ハ同居者ニ於テ公衆ノ嫌忌スル疾病ニ罹リ居ル者
一二、商業ヲ營ムコトヲ得サル官職ニアル者但シ本屬長官ノ許可ヲ得タル者ヲ除ク

第十一條　郵便切手賣捌人ヲ要スヘキ郵便函ノ設ケアル船舶內ニ於テハ當該營業代理人ヲ官公署又ハ購買組合ニ在リテハ其ノ管理者ヲ賣捌人ニ選定スルコトヲ得

第十二條　官衙、病院、會社又ハ鐵道停車場等ノ構內ニ於テ賣捌ヲ爲サムトスル者アルトキハ當該管理者ノ承諾ヲ受ケ其ノ旨申請書ニ附記セシムヘシ

第五章　廢置手續

第十三條　郵便函及賣捌所ノ新設移轉又ハ廢止セムトスルトキハ附錄第一號樣式ニ依ル上申書及同第三號圖面添附提出スヘシ但シ賣捌所ノ新設移轉又ハ廢止ノ場合ハ之カ申請書又ハ屆書ヲ添付スヘシ

第十四條　內務部遞信課（以下單ニ遞信課ト稱ス）及各局ニハ附錄第二號樣式ニ依リ郵便函及賣捌所原簿ヲ備ヘ置クヘシ

第十五條　賣捌人廢業セムトスルトキハ三十日前ニ賣捌人ヨリ屆書ヲ提出セシムヘシ若シ引續賣捌所設置ノ要アルトキハ速ニ新賣捌人ヲ選定シ第十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條　郵便函及賣捌所ノ新設、移轉又ハ廢止ノ場合ハ左記ニ依リ處理スヘシ

一、郵便函ハ速ニ取付又ハ撤去シ不要ニ屬スルモノハ遞信課ニ返納スヘシ
二、新賣捌人ニ對シ賣捌許可證及同規則書ヲ交付ト共ニ左記各項ヲ指示シ請書ヲ徵シ廻送スヘシ
　(イ)賣捌所ノ屬スル郵便函ノ位置、番號及保護上ノ注意
　(ロ)賣捌人ノ平素心得ヘキ主要事項
　(ハ)買受方法
　(ニ)標札調製方法及之カ揭示方位置ノ注意
三、賣捌人賣捌許可ヲ取消サレタルカ又ハ廢業ノ場合ハ許可證ヲ引揚ケ遞信課ニ廻送シ規則書ハ自局ニ保管ノ上新賣捌人ニ交付スヘシ
四、賣捌人許可證ヲ亡失又ハ毀損シタル爲再渡ヲ申請シタルトキ又ハ轉居若ハ改氏名ノ爲許可證ノ書換ヲ申請スルトキハ亡失ノ場合ヲ除クノ外舊許可證ヲ添附シ事由ヲ具シ上申スヘシ

第六章　雜則

第十七條　郵便區劃變更ノ爲郵便函又ハ賣捌所所在地カ他局ノ所轄ニ移リタルトキハ其ノ郵便函及賣捌所位置、郵便函ノ種類賣捌人氏名、設置年月日及番號其ノ他必要事項ヲ當該局ニ通知シ所要物品ハ引繼ノ手續ヲ爲シ新舊保管者連署ノ物品引繼書ヲ遞信課宛提出スヘシ

第十八條　豐原、大泊、眞岡及泊居各局ニ於テハ其ノ局限リ郵便函及賣捌所ノ廢置變更ヲナスヘシ但シ之カ爲定員ニ異動ヲ來ス場合ハ認可ヲ受ケ處理スヘシ

第十九條　前條各局ニ於テ郵便函及賣捌所ヲ廢置變更シタルトキハ附錄第二號樣式ニ準シ實施後三日以內ニ報告スヘシ但シ取集區劃ニ異動ヲ生スル場合ハ取集區制圖ヲ添附スヘシ

第二十條　第十三條及第十六條ノ規定ハ豐原、大泊、眞岡及泊居ノ各局ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ大正十五年十月三十日ヨリ之ヲ施行ス現ニ設置セル郵便函ニシテ本手續ニ牴觸セルモノハ將來異動ノ際之ヲ整理スヘシ

明治四十三年六月樺太廳訓令第二十一號郵便函及郵便切手類賣捌所配置手續ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附錄第一號樣式

第　號

年　月　日　　郵便局長

樺太廳內務部長宛

郵便函及賣捌所新設（移轉、廢止）ノ件

種別	記事
事由	何々ノ事由ニ依リ新設（廢止、移轉）ヲ要ス

第二十類　通信　電氣　瓦斯　第一章　通信

郵便函ノ位置及其附近ノ地況
同市內外及種別
設置地ノ戶數及平均一日ノ取集物數
賣捌所ノ位置及其ノ附近ノ地況
賣捌人身元並ニ職業及住所氏名
隣接郵便函及賣捌所又ハ局所トノ距離
備考

何々市內（市外）柱函又ハ掛函

注意

一、本書式ハ郵便函及賣捌所ノ設置（廢止移轉）ヲ要スル場合ヲ示シタルモノニ付郵便函又ハ賣捌所ノミノ場合ニハ其ノ必要ニ應シ相當記載シ不要ノ部ニ斜線ヲ施スヘシ
一、備考欄ニハ豫備郵便函ノ有無又ハ賣捌人ノ適否等其ノ他參考事項記入ノコト

附錄第二號樣式

何　局郵便函及賣捌所原簿

市內外ノ別	郵便函			賣捌所				郵便函及賣捌所附近ノ地況	異動年月日	備考
	證印番號	種別	設置年月日	位置	許可書番號	免許年月日	位置	賣捌人職業氏名		

●郵便切手類及收入印紙買受代金取扱ノ件

大正二年十二月十一日
廳令第四十四號

郵便切手類及收入印紙買受代金ハ樺太廳長官ニ於テ必要ト認メタル郵便局ニ限リ特ニ無料電信爲替トシテ取扱フコトヲ得

●郵便切手及收入印紙類ノ配給局及配給區域ニ關スル件

大正五年六月十日
廳訓令第十六號

改正　大七年一一月廳訓令五六號

內務部　樺太廳郵便局

郵便切手類及收入印紙配給局及其ノ配給區域左ノ通定ム

配給局	配給區域
豐原郵便局	豐原郡、榮濱郡、元泊郡、新問郡、敷香郡、散江郡
大泊郵便局	大泊郡、留多加郡、長濱郡、富內郡
眞岡郵便局	眞岡郡、本斗郡、野田寒郡
泊居郵便局	泊居郡、久春內郡、鵜城郡、名好郡

●郵便切手及收入印紙類ノ賣捌方ニ關スル件

大正五年六月十六日
廳令第十九號

改正　大七年一一月廳令七七號・九年一〇月四一號、一二年三月七號

郵便切手及收入印紙ノ賣捌ニ關シテハ大正十二年二月遞信省令第四十一號郵便切手類及收入印紙賣捌規則ヲ準用ス但シ豐原、大泊、眞岡、泊居ノ各郵便局ハ二等郵便局特定郵便局ハ三等郵便局ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十二月樺太廳令第四十四號ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正十二年廳令第七號）

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便切手類及收入印紙類買受郵便局指定ニ關スル件

大正十二年三月三十日
廳令第九號

大正十二年三月遞信省令第四十一號郵便切手類及收入印紙賣捌規則第十一條第三項但書ニ依ル買受郵便局ノ指定ハ土地ノ狀況ニ依リ當該郵便局長限リ之ヲ無集配郵便局以外ニ指定スルコトヲ得

〔樺法〕

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●僞造變造ノ郵便切手類官沒處分ノ件

大正五年八月一日
廳令第二十四號

改正　大七年六月廳令六一號

郵便法第五十五條ノ三ニ依ル官沒處分ハ樺太廳長官、警察署長、警察分署長又ハ郵便局長（特定郵便局長ヲ除ク）命令書ヲ交付シテ之ヲ爲ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●僞造變造ノ郵便切手類官沒處分規程

大正五年八月一日
廳訓令第二十八號

內務部　支廳　郵便局

僞造、變造郵便切手類官沒處分規程左ノ通定ム

僞造、變造郵便切手類官沒處分規程

第一條　郵便法第五十五條ノ三ニ依ル官沒處分命令書ハ左ノ例ニ依ルヘシ

命令書

第二十類　通信　電氣　瓦斯　第一章　通信

住（居）所
氏　名

〔樺法〕

一　僞造（變造）郵便切手類（又ハ何々）　何程
但シ何々

右ハ郵便法第五十五條ノ三ニ該當スルモノト認ムルニ付之ヲ沒收ス

年　月　日

官職氏名

第二條　特定郵便局ニ於テ郵便法第五十五條ノ三ニ依ル官沒處分ヲ要スルモノアリト認ムルトキハ樺太廳長官ニ稟申スヘシ

第三條　郵便官署ノ取扱中ニ屬スル物件ニシテ官沒處分ヲ爲シタルモノハ總テ之ヲ內務部ニ送付スヘシ但シ郵便物ニ貼付シタルモノ又ハ他物ト分離スルコト能ハサルモノハ其ノ側ニ「官沒」ト朱書シ通信日附印等ヲ以テ之ヲ消印スヘシ

●繪葉書發賣ニ關スル件

大正四年十一月七日
廳令第二十九號

改正　大一二年四月廳令一一號

自今樺太廳及遞信省ニ於テ發賣スル繪葉書ハ發賣期日、種類及賣捌價格等ヲ郵便局前ニ揭示ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十二年勅令第十一號）

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太廳發行ノ郵便繪葉書ノ件

大正十二年四月一日
勅令第十號

樺太廳發行ノ郵便繪葉書ハ大正十二年三月遞信省令第四十一號郵便切手類及收入印紙賣捌規則第二條ニ稱スル郵便切手トス

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ施行ス

●年賀郵便物引受期間

昭和六年十一月二十日
勅令第四十五號

年賀郵便物引受期間左ノ通定ム

年賀特別郵便規則ニ依リ特別取扱ヲ爲ス年賀郵便物ノ引受期間ハ每年左ノ通トス

引受期間	引受局
自十二月十五日 至同　月三十日	名好郡、敷香郡ノ各局
自十二月二十日 至同　月三十日	前記以外ノ各局

●年末年首普通通常郵便物取扱規程

昭和六年十一月二十日
訓令第二百七十四號

改正　昭七年一一月訓令二七一號、八年一二月六〇號

内務部　郵便局

年末年首普通通常郵便物取扱規程左ノ通定ム

年末年首普通通常郵便物取扱規程

第一條　年賀特別郵便規則ニ依ル郵便物（以下單ニ年賀郵便物ト稱ス）及十二月三十一日ヨリ翌年一月五日迄ノ期間ニ於ケル普通通常郵便物ノ內左記各號ノ郵便物ヲ除キタルモノ（以下單ニ期間扱郵便物ト稱ス）ノ取扱方ハ本令ノ定ムル所ニ依ルベシ

一　島內各局相互間ニ發著スル郵便物

二　有封書狀、封緘葉書、官報、遞信公報及日刊新聞紙

三　前各號ノ外中華民國、滿洲國以外ノ外國宛郵便物

第二條　年賀郵便物ハ第十二條及第二十五條ニ依ルノ外他ノ郵便物ト各別ニ之ヲ取扱フヘシ

第三條　各局ニ於テハ年賀郵便物特別取扱期間竝其ノ要旨ヲ適宜ノ方法ニ依リ公衆ニ周知セシムヘシ

第四條　年賀郵便物引受期間中ニ在リテハ引受郵便物中ニ年賀郵便物ノ有無ヲ精密ニ檢査スヘシ

第五條　無集配局ニ於テ引受タル年賀郵便物ハ他ノ郵便物ト區別シ取集ノ郡度之ヲ通信手ニ引渡スヘシ

第六條　年賀郵便物ニ押捺スヘキ引受日附印ハ一月一日最初ノモノヲ使用スヘシ

第七條　年賀郵便物及期間扱郵便物ノ繼越事務ヲ取扱ハシムル爲ノ集中局及分配局ヲ設ク

一　島內集中局

島內各局相互間ニ發著スル年賀郵便物ノ繼越事務ヲ取扱フ

二　島外集中局

島外ニ達スル年賀郵便物及期間扱郵便物ノ繼越事務ヲ取扱フ

三　分配局

島外ヨリ到著セル年賀郵便物及期間扱郵便物ノ繼越事務ヲ取扱フ

第八條　集中局及分配局名竝其ノ受持區域左ノ如シ

一　島內集中局

集中局名	受持區域
大泊	大泊郡、留多加郡、長濱郡、富內郡ノ各局
豐原	豐原郡、榮濱郡ノ各局
知取	元泊郡、敷香郡、散江郡ノ各局
本斗	本斗郡各局

二　島外集中局

集中局名	受持區域
大泊	大泊郡、富內郡、長濱郡、留多加郡、豐原郡、榮濱郡、元泊郡、敷香郡、散江郡ノ各局
眞岡	眞岡郡ノ各局
泊居	泊居郡、久春內郡、鵜城郡ノ各局
惠須取	名好郡各局

三　分配局

分配局名	受持區域
大泊	大泊郡、富內郡、長濱郡、留多加郡、榮濱郡、元泊郡、敷香郡、散江郡
豐原	豐原郡
眞岡	眞岡郡、野田郡、泊居郡、久春內郡、鵜城郡、名好郡
本斗	本斗郡

第九條　前條分配局ニ於ケル事務ノ一部ヲ分擔セシムル爲補助分配局ヲ設ク其ノ局名及受持區域左ノ如シ

分配局名	上記分配局ニ對スル補助分配局名	受持區域
眞岡	泊居	泊居郡、久春內郡、鵜城郡、名好郡

第十條　左ノ各局ハ島外集中局ト同一ノ取扱ヲ爲スヘシ

豐原局
泊居局

第十一條　期間扱郵便物ハ第一條ニ於テ除外シタル郵便物ト各別ニ取扱フヘシ但シ後者ヲ前者ト合セ配達局毎ニ區分スルヲ利便トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　一月一日以降年賀郵便物ハ期間扱郵便物ト看做シ取扱フヘシ

第十三條　一般局ニ於テハ左記各號ニ依リ取扱フヘシ

一　島內各局ニ達スル年賀郵便物ハ第八條ノ島內集中局ニ宛送付スヘシ但シ所屬集中局ヲ經由セシムルトキハ遲送上ノ順路ヲ失シ著シク遲延スルモノハ配達局毎ニ區分シ各其ノ局ニ宛送付スヘシ

二　島外ニ達スルモノハ左記ニ依ルヘシ

(イ)　東京及大阪市內ニ達スルモノ合セ凡十通以上アルトキハ別ニ區分スヘシ

(ロ)　北海道ニ達スルモノ凡二十通以上アルトキハ別ニ區分スヘシ

(ハ)　前各號ニ依リ區分シタルモノ及其ノ區分通數ニ滿タサルモノハ所屬集中局ニ宛送付スヘシ

第十四條　留多加、落合、知取、敷香、野田、惠須取ノ各局ニ於テハ島外ニ達スルモノハ特ニ左記各號ニ依リ取扱フヘシ

一　東京又ハ大阪市內ニ達スルモノ凡十通以上アルトキハ各市每ニ區分スヘシ

二　艦船宛郵便物遞送規程ニ依リ取扱フヘキモノ及同一ノ道府縣（朝鮮、臺灣、滿洲「本邦局所所在地ニ限ル」及南洋群島ハ各一ノ府縣ト看做ス以下同シ）又ハ中華民國、滿洲國ニ達スルモノ各凡二十通以上アルトキハ各別ニ區分スヘシ

三　前各號ニ依リ區分シタルモノ及其ノ區分通數ニ滿タサルモノハ所屬集中局ニ宛送付スヘシ

第十五條　島內集中局ニ於テハ配達局每ニ區分シ其ノ局ニ宛送付スヘシ但シ其ノ差立數量少ク且十二月三十一日迄ニ配達局ニ到著スルコトヲ確認シ得ラルル場合ハ相當期間留置差立ツルコトヲ得

第十六條　島外集中局ニ於テハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ

一　東京及大阪市內ニ達スルモノハ左ノ區域每ニ區分シ各其ノ局ニ名宛スヘシ

區域	宛名
イ　麴町區、深川區、芝區、麻布區、赤坂區、四谷區、牛込區、小石川區、本所區、城東區、江戶川區、大森區、蒲田區、品川區、荏原區、目黑區、世田谷區、澁谷區、淀橋區、中野區、杉並區、豐島區、板橋區	東京中央局
ロ　神田區	神田局
ハ　日本橋區	日本橋局

〔棒法〕

ニ　京橋區
ホ　本鄉區、下谷區、淺草區、向島區、葛飾區、王子區、豐野川區、荒川區、足立區
ヘ　北區、東淀川區、西淀川區、此花區、東成區、旭區
ト　東區
チ　西區、港區、大正區
リ　南區、天王子區
ヌ　浪速區、西成區、住吉區

京橋局	
下谷局	
大阪中央局	
大阪東局	
大阪西局	
大阪南局	
浪速局	

二　前號以外ノモノハ左ノ區別ニ依ルヘシ

イ　北海道ニ達スルモノ凡二十通以上アルトキハ別ニ區分シ稚內局ニ名宛スヘシ

ロ　同一ノ府縣ニ達スルモノ凡二十通以上アルトキハ各府縣每ニ區分シ各其ノ分配局（昭和三年十一月遞信省公達第九百六十八號年末年首普通通常郵便物特別取扱規程第十條ノ分配局）ニ名宛スヘシ

ハ　艦船宛郵便物遞送規程ニ依リ取扱フヘキモノハ別ニ區分シ橫須賀局ニ名宛スヘシ

ニ　中華民國、滿洲國ニ達スルモノハ別ニ區分シ東京中央局ニ名宛スヘシ

三　前各號ニ依リ區分シタルモノニシテ一局ニ達スルモノ大行嚢ニ納ムル數量アルトキハ其ノ局每ニ締切トナシ其ノ區分通數ニ滿タサルモノ及六行嚢締切トナス數量ナキモノハ合セテ稚內局ニ送付スヘシ

第十七條　十二月二十日前ニ島外集中局ニ到著シタル年賀郵便物ハ十二月二十日ノ最先便ヲ俟テ之ヲ差立ツヘシ

第十八條　分配局ニ於テハ補助分配局受持區域內ニ達スルモノハ其ノ區域每ニ其ノ他ノモノハ各配達局每ニ區分シ各其ノ局宛送付スヘシ

第十九條　補助分配局ニ於テハ配達局每ニ區分シ各其ノ局ニ宛送付スヘシ

第二十條　本令ニ依リ取扱ヒタル郵便物ノ　把束方ハ左ノ　各號ニ依ルヘシ

一　第三種以下ノ郵便物ト其ノ他ノ郵便物ト各別ニ把束スル數量アルトキハ各別ニ之ヲ把束スヘシ

二　把束ハ十字形ニ緊約スヘシ但シ郵便物ノ形體ニ依リ之ヲ不適當トスルモノハ遞送途中散亂セサル樣緊約スヘシ

三　物數少キカ若ハ郵便物ノ形體細小ニシテ遞送途中散亂ノ惧アル郵便物ハ適當ノ封筒ニ納ムヘシ

封筒ニ納メタル郵便物ハ把束ト看做シ取扱フヘシ

第二十一條　把束記票ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ前條第一項第三號ニ依ル封筒ノ記載方亦同シ

一　島內發著年賀郵便物

イ　一般局ヨリ島内集中局ニ宛ツルモノ

朱書（以下各雛形之ニ同シ）
約一三、三糎（以下各雛形之ニ同シ）

白紙（以下各雛形之ニ同シ）

年賀郵便
（自局ノ屬スル島内集中局名）局　日附印
島内

局名印ヲ以テ代フルコトヲ得（以下各雛形之ニ同シ）

約六、三糎（以下各雛形之ニ同シ）

ロ　直接配達局ニ宛ツルモノ

年賀郵便
（配達局名）局　日附印

二　島外宛年賀及期間扱郵便物

（一）一般局ヨリ島外集中局ニ宛ツルモノ

イ　第十三條第二號イ、ニ依リ區分シタルモノ

（自局ノ屬スル集中局名）局　日附印
島外

（二）留多加、落合、知取、數香、野田、恵須取ノ各局ヨリ島外集中局ニ宛ツルモノ

イ　第十四條第一號ニ依リ區分シタルモノ

（自局ノ屬スル集中局名）局　日附印
東京市内（又ハ大阪市内）

〔棒法〕

年賀郵便物ニ限リ記載スヘシ（以下各雛形之ニ同シ）

年賀郵便
（自局ノ屬スル集中局名）局　日附印
東京及大阪市内

ロ　第十三條第二號ロ、ニ依リ區分シタルモノ

（自局ノ屬スル集中局名）局　日附印
北海道

ハ　第十三條第二號ハ、ニ依リ區分シタルモノ

（自局ノ屬スル集中局名）局　日附印
島外

（二）留多加、落合、知取、數香、野田、恵須取ノ各局ヨリ島外集中局ニ宛ツルモノ

イ　第十四條第一號ニ依リ區分シタルモノ

（自局ノ屬スル集中局名）局　日附印
東京市内（又ハ大阪市内）

〔棒法〕

ロ　第十四條第二號ニ依リ區分シタルモノ

（自局ノ屬スル集中局名）局　日附印
何縣（又ハ「艦船」、「北海道」）

ハ　第十四條第三號ニ依リ區分シタルモノ

（自局ノ屬スル集中局名）局　日附印
島外

（三）島外集中局及豐原、泊居ノ各局ヨリ内地ノ各局ニ宛ツルモノ
第十六條ニ依リ區分シタルモノ

（宛局又ハ各府縣ノ分配局名）局　日附印
（雛）

三　島外ヨリ到著セル年賀及期間扱郵便物

イ　第十八條前段ニ依リ區分シタルモノ

（補助分配局名）局　日附印
島内

第十六條第三號ニ依ル區分通數ニ滿タサルモノニ限ル

ロ　第十八條後段及第十九條ニ依リ區分シタルモノ

（配達局名）局　日附印

〔棒法〕

第二十二條　本令ニ依リ取扱ヒタル郵便物ノミヲ納メタル行嚢ハ封緘竝郵便取扱規程第百七十一條ノ郵便送達帳及同送達證ノ調製ヲ省略シ其ノ行嚢記票ニハ「特別扱」ト朱書シ日附印ヲ押捺スベシ但シ左ノ雛形ノ印章ヲ押捺シ「特別扱」ノ朱書ト日附印ノ押捺ニ代フルコトヲ得

第二十三條　自局配達ニ係ル年賀郵便物ハ到著ノ際精密ニ檢査ノ上配達上支障ナキ樣手配シ置クヘシ

第二十四條　年賀郵便物中紛來及配達不能ノ事實明瞭ナルモノアルトキハ左ノ各號ニ依リ取扱フヘシ

一　紛來郵便物ハ直ニ正當配達局ニ還送スヘシ此ノ場合ニ於テハ日附印ノ押捺ヲ省略スヘシ

二　配達不能郵便物ハ年賀郵便物ト同一ノ還送方法ニヨリ直ニ差出人居所ノ集配局ニ送付シ一月一日以後ニ於テ還付スヘシ

第二十五條　年賀郵便物ハ其ノ他ノ郵便物ト合セ一月一日ヲ俟テ配達スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

年末年首普通通常郵便物取扱手續昭和三年十一月訓令第五百六十號（年末年首普通通常郵便物取扱手續ニ依ル補助分配局竝其ノ受持區域、同年同月訓令第五百六十一號（年賀郵便物及期間扱郵便物ノ取扱方ノ件）及昭和四年十一月訓令第五百四十五號（年末年首普通通常郵便物取扱手續第二條ニ依ル島内集中局竝其ノ受持區域ノ件）ハ之ヲ廢止ス

●「クリスマス」及新年祝賀特別外國電報ノ郵便送達ヲ爲ス電信官署名及其ノ受持區域

昭和八年十二月二十四日
告示第二百四十九號

「クリスマス」及新年祝賀特別外國電報ノ郵便送達ヲ爲ス電信官署名及其ノ受持區域左ノ如シ

電信官署名	受持區域
豐原郵便局	〔敷江郡、敷香郡、元泊郡、榮濱郡、豐原郡、大泊郡、富内郡、留多加郡、長濱郡
眞岡郵便局	〔名好郡、鵜城郡、久春内郡、泊居郡、野田郡、眞岡郡、本斗郡

●郵便取扱規程附錄第二十三號ノ件

昭和六年八月十九日
訓令第百九十五號

内務部　郵便局

大正八年四月棒太廳訓令第十六號郵便取扱規程附錄第二十三號ヲ左ノ通改正ス

〔準法〕

附錄第二十三號（樣式二七關係）

用紙ヲ法（縦約二五糎横約一七糎）

送達記			
送達	局	午	時　分
差立	局	午	時　分
到著	局	午	時　分
差立	局	午	時　分

○

○

到著局 ＼ 差立局	差立大行書數 計	途中配達 通數	常 重量	包 小 個數	重量	人又ハ車馬數
局	個					
局	個					
局	個					
局	個					
局	個					
計	個					
到著時刻	午 時 分					
差立時刻	午 時 分					
到著局						
受領印						

記事

〔準法〕

附日立差局點谷

附　則

本令ハ昭和六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

備　考

一、到著局欄ニハ始點局ヨリ極端局ニ至ル各局名往復便ニアリヲ又便名及遞送種別ハ孰モ始點局ニ於テ豫メ記入スルコト
テハ往復トモ

二、差立大行嚢數欄ニハ差立局ニ於テ遞送人ニ引渡スヘキ大行嚢及空行嚢結束ヲ到著局別ニ其ノ箇數ヲ記入シ且差立大行嚢計欄ニハ其ノ總箇數竝ニ重量往便ハ下欄ヲ記入スルコト
復便ハ上欄

但シ空行嚢結束ニハ「空」小包締切大行嚢ニハ「小」ノ文字ヲ冠シ其ノ箇數ヲ對照シ相違ナキコトヲ確メタル上其ノ受領總箇數竝ニ總

三、到著局ニ於テ大行嚢及空行嚢結束ヲ受取ルトキハ差立局ニテ記入ノ箇數竝ニ總重量ヲ計ノ欄ニ記入スルコト

四、差立到著時刻欄ニハ各局毎ニ交換所ニ在リテハ交換所取扱人ニ於テ交換ノ實際到著及差立日時ヲ記入ノコト

五、途中配達ノ欄ニハ其ノ數ノ多少ニ拘ラス通常及小包ノ別ニ從ヒ遞送人ト受授スル數竝ニ重量ヲ記スルコト

但シ交換所間往復便ニアリテハ交換所迄ノ分トヲ各別ニ記入スルコト

六、人夫又ハ車馬數ノ欄ニハ始點局ニ於テ差立ツル人夫又ハ車馬數往便ハ下欄ヲ記入スルコト
復便ハ上欄

立寄局及往復便ニ於ケル極端局ニ於テハ臨時人夫、車馬數ヲ增加シタル場合ニ限リ始點局同樣記入スルコト

但シ始點局ト雖規定ノ荷量以內ナルトキハ之カ記入ヲ省略スルコトヲ得

七、遞送途中ノ事故其ノ他後日參考トナルヘキ事項ノ要領ハ各局毎ニ簡明ニ記事欄ニ記入スルコト

尙始點局ニ於テ規定上其ノ遞送便ニ結束スヘキ他線路便カ遲延ノ爲結束ヲ缺キタルトキ及極端局ニ於テ其ノ遞送便遲延ノ爲他線路ニ對スル規定上ノ結束ヲ缺キタルトキハ孰モ其ノ旨朱記スルコト

八、往復便ニアリテハ一通ノ遞送記二枚以上ニ渉ルトキハ始點局ニ於テ往復各一枚ヲ綴合セ其ノ綴目ニ日附印ヲ押捺シ置クコト

九、重量ハ總テ瓩ヲ單位トシ瓩以下ハ四捨五入ノコト

第三節　郵便爲替　郵便貯金

●郵便爲替法

明治三十三年三月十三日
法律第五十五號

改正　大五年一月法律一號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル郵便爲替法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總、遞、大臣副署）

郵便爲替法

第一條　郵便爲替ハ通常爲替電信爲替及小爲替ノ三種トス

第二條　通常爲替證書及小爲替證書ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外差出人ニ於テ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス

電信爲替證書ハ郵便官署ニ於テ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス

第三條　郵便官署ハ差出人ノ請求ニ因リ通常爲替證書及電信爲替證書ニ對スル郵便爲替金ノ拂渡前ニ於テ其ノ拂渡ヲ停止シ又ハ其ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得

第四條　郵便爲替ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第五條　郵便官署ハ受取人ノ眞僞ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條　郵便爲替ニ關スル書類ニ付テハ印紙稅ヲ課セス

第七條　郵便爲替金額ノ制限及郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第八條　郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第九條　郵便爲替ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第十條　郵便爲替證書ノ有效期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ六十日トス

前項ノ期間ハ交通不便ノ地方ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條　郵便官署ニ於テ郵便爲替金ノ拂渡ヲ遲延シタル爲經過シタル日數ハ前條ノ有效期間ニ算入セス

第十二條　郵便爲替證書ノ有效期間ヲ經過シタルトキ又ハ郵便爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ差出人又ハ受取人ニ於テ再度證書ノ交付又ハ爲替金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

再度證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無效トス

第十三條　郵便爲替證書ノ有效期間滿了ノ日ヨリ三箇年間前條ノ請求ヲ爲ササルトキハ其ノ郵便爲替金ハ國庫ノ所有ニ歸ス

第十四條　成規ノ手續ヲ經テ爲替金ヲ交付シタルトキハ正當ノ拂渡ヲ爲シタルモノト看做ス

第十五條　郵便官署ハ郵便爲替金拂渡ノ遲延ニ因リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任セス

第十六條　郵便爲替ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル

附　則

第十七條　本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便條例第十二章及第二百四十二條ハ之ヲ廢止ス

第十八條　本法施行前ニ發行シタル郵便爲替證書及郵便小爲替證書ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用ス但シ本法施行前其ノ有效期間滿了シタルモノニ在リテハ第十三條ノ期間ハ五箇年トシ其ノ有效期間滿了セサルモノニ在リテハ第十條第一項ノ期間ハ郵便爲替證書ニ付テハ百二十日郵便小爲替證書ニ付テハ六十日トス

●郵便貯金法

明治三十八年二月十六日
法律第二十三號

改正　大九年八月法律三三號、一二年四月四五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル郵便貯金法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總、遞、大臣副署）

郵便貯金法

第一條　郵便貯金ハ政府之ヲ管掌ス

第二條　郵便貯金ノ預入ハ郵便貯金通帳ニ依リ其ノ拂戻ハ拂戻證書ニ依リ之ヲ爲ス但シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　一人ノ郵便貯金制限額ハ左ノ如シ

一　一度ノ預入額　十錢以上
二　貯金總額　二千圓以下
一度ノ預入額ノ端數ハ錢位ヲ限トス

第四條　左ニ揭ケル預入金ニ付テハ前條第一項第二號ノ制限ヲ適用セス

一　公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ノ預入金
二　命令ノ規定ニ依ル共同貯金ノ預入金
三　產業組合又ハ產業組合中央金庫ノ預入金
四　振替計算ノ爲ニスル預入金

第五條　郵便貯金通帳ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク外一人一冊ヲ限トス

前項ノ規定ニ違反シ二冊以上ノ通帳ヲ以テ貯金ノ預入ヲ爲シタル者アルトキハ最初ノ通帳、通帳ノ日附同一ナルトキハ貯金ノ最多額ナルモノニ記入シタル貯金ノ外利子ヲ付セス

前項ニ依リ利子ヲ付スヘカラサル貯金ニ付既ニ拂戻シタル利子アルトキハ現ニ存在スル貯金ヨリ之ヲ控除シ又ハ別ニ之ヲ追徵ス

第六條　郵便貯金額第三條第一項第二號ノ制限ヲ超過シタル場合ニ於テ郵便貯金預ケ人之ヲ其ノ制限以內ニ減額セサルトキハ郵便官署ハ其ノ制限以內ニ減額スルニ必要ナル限度ニ於テ貯金ノ一部ヲ以テ國債證券ヲ購入シ之ヲ保管スヘシ

第七條　郵便切手及支拂期ノ開始セル證券ハ命令ノ定ムル所ニ依リ郵便貯金ニ預入スルコトヲ得

第八條　郵便貯金ノ利子ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ請求ニ因リ其ノ貯金ノ一部ヲ以テ國債證券其ノ他ノ證券ヲ購入保管シ又ハ之ヲ賣却スルコトヲ得其ノ證券ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　郵便貯金拂出ニ關スル證書ノ有效期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　郵便貯金ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十二條　郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク外之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十三條　成規ノ手續ヲ經テ郵便貯金ヲ拂出シ又ハ保管ニ係ル證券ヲ交付シタルトキハ正當ノ拂出又ハ交付ヲ爲シタルモノト看做ス

第十四條　郵便官署ハ郵便貯金ニ關スル取扱ノ遲延ニ因リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任セス

第十五條　郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ眞僞ヲ調査スル爲預ケ人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條　郵便官署ハ必要ナル場合ニ於テ郵便貯金通帳ヲ檢閱スルコトヲ得

第十七條　郵便貯金ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第十八條　十年間郵便貯金ノ預入及拂出ナク且利子記入又ハ檢閱ノ爲ニスル通帳ノ提出ナキ場合ニ於テハ郵便官署ハ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ノ提出又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シ其ノ催告ノ日ヨリ六十日內ニ通帳ヲ提出セス又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルトキハ其ノ郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ國庫ノ所有ニ歸ス

郵便貯金拂出ニ關スル證書ノ有效期間滿了ノ日ヨリ三年間再度證書交付又ハ拂出金戻入ノ請求ナキ場合ニ於テハ其ノ拂出金ハ國庫ノ所有ニ歸ス

一定ノ期間拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル郵便貯金ニ付テハ其ノ期間ハ第一項ノ期間ニ算入セス

附　則

第十九條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十八年五月勅令第百六十四號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

郵便貯金條例ハ之ヲ廢止ス

第二十條　本法施行前ニ預入シタル郵便貯金ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用ス

本法施行前又ハ本法施行後一年內ニ第十八條第一項ノ期間ヲ經過シ又ハ經過スヘキ郵便貯金ニ付テハ本法施行ノ際郵便官署ニ於テ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ノ提出又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ其ノ催告ノ日ヨリ一年內ニ通帳ヲ提出セス又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルトキハ更ニ其ノ旨ヲ公告シ尙一年內ニ之ニ應スル者ナキトキハ其ノ貯金及保管ニ係ル國債證券ハ國庫ノ所有ニ歸ス

本法施行前發行シタル拂戻證書ノ有效期間ハ本法施行ノ日ヨリ六十日トス

【棒法】

【棒法】

●內地、臺灣、朝鮮、樺太、南洋群島、滿洲ニ在ル郵便局所ト各其ノ以外ニ在ル郵便局所トノ間ニ取組ム電信爲替料金

大正三年十二月八日
遞信省令第五十五號

改正　大五年一二月遞信省令七三號、九年三月一九號、六月六四號、一一年三月二三號、一二年一月一一號

內地、臺灣、朝鮮、樺太、南洋群島、滿洲ニ在ル郵便局所ト各其ノ以外ニ在ル郵便局所トノ間ニ取組ム電信爲替料金ハ郵便爲替規則第三條ニ依ラス左ノ割合ニ依ル但シ朝鮮ニ在ル郵便局所ト滿洲ニ在ル郵便局所トノ間ニ取組ムモノハ此ノ限ニ在ラス

電信爲替	
二十圓迄	七十錢
五十圓迄	一圓
百圓迄	一圓三十錢
百五十圓迄	一圓六十錢
二百圓迄	一圓九十錢
二百五十圓迄	二圓二十錢
三百圓迄	二圓五十錢
三百五十圓迄	二圓八十錢
四百圓迄	三圓十錢
四百五十圓迄	三圓四十錢
五百圓迄	三圓七十錢

附　則

本令ハ大正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十一年十二月　遞信省令第四十九號ハ之ヲ廢止ス

●簡易生命保險及郵便年金事務郵便振替貯金特別取扱規則

昭和三年九月二十六日
遞信省令第三十六號

改正　昭五年一二月遞令四二號

簡易生命保險及郵便年金事務郵便振替貯金特別取扱規則左ノ通定ム

簡易生命保險及郵便年金事務郵便振替貯金特別取扱規則

第一條　樺太廳及樺太廳郵便局ハ本令ノ定ムル所ニ依リ簡易生命保險及郵便年金ニ關シ郵便振替貯金ノ特別取扱ヲ爲ス

第二條　前條ノ規定ニ依リ郵便振替貯金ヲ利用セムトスルトキハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外郵便振替貯金及簡易生命保險竝郵便年金ニ關スル法令ノ規定ニ依ルヘキモノトス

第三條　本令ニ依ル簡易生命保險及郵便年金特別取扱ノ爲ニ樺太廳ニ簡易保險局長ノ特別口座ヲ各別ニ開設ス

第四條　保險契約者又ハ年金契約者本令ノ定ムル所ニ依リ特別口座ニ對シ拂込ヲ爲ス場合ニ於テハ拂込書ノ提出ヲ要セス此ノ場合ニ於テハ受領票ハ保險料領收帳、掛金領收帳其ノ他保險又ハ年金ニ關スル領收證

〔樺法〕

ヲ以テ之ニ換用ス

第五條　本令ニ依ル特別口座加入者ノ發行スル現金支拂ノ通知書又ハ保險金受取人若ハ年金受取人ノ作成シタル受領證ヲ以テ拂渡ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂渡郵便官署ニ於テ即時現金ノ拂渡ヲ爲ス

前項ニ依リ現金ノ拂渡ヲ爲ス場合ニ於テハ特別口座加入者ハ口座所管廳ニ對シ拂出書ノ送付ヲ要セス

第六條　本令ニ依ル特別口座ニ對シ受入又ハ拂出ヲ爲シタルトキハ口座所管廳ニ於テ其ノ受拂高及現在高ヲ表示スル受拂計算票ヲ作成シ之ヲ當該加入者ニ送付ス

第七條　本令ニ依ル特別口座ニ對スル受拂料金ハ加入者ノ負擔トス

前項ノ料金ハ別ニ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ徵收ス

第八條　本令ニ依ル特別口座ニ對シテハ郵便振替貯金規則ニ依ル拂込及振替拂込ヲ爲スコトヲ得ス但シ加入者自ラ之ヲ爲ス場合ハ此ノ限リニ在ラス

附　則

本令ハ昭和三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

簡易生命保險事務郵便振替貯金特別取扱規則ハ九月三十日限リ之ヲ廢止ス

●簡易生命保險及郵便年金事務郵便振替貯金特別取扱規程

昭和三年九月二十六日
訓令第四百八十三號

內務部　郵便局

簡易生命保險及郵便年金事務郵便振替貯金特別取扱規程左ノ通定ム

簡易生命保險及郵便年金事務郵便振替貯金特別取扱規程

第一條　簡易生命保險及郵便年金事務郵便振替貯金ノ特別取扱ニ關シテハ本令ニ規定等ニ通曉シ取扱上過誤ナキコトヲ期スヘシ

第二條　樺太廳ニ於テ簡易保險局長名義ノ特別口座ヲ開設シタルトキハ之ヲ當該加入者ニ通知スヘシ但シ印鑑票ヲ徵スルコトヲ要セス

前項ノ特別口座ニハ其ノ番號ニ簡易生命保險ノ爲ニスルモノニ在リテハ「樺太保」、郵便年金ノ爲ニスルモノニ在リテハ「樺太年」ノ記號ヲ附スヘシ

第三條　郵便局ニ於テ簡易生命保險及郵便年金事務郵便振替貯金特別取扱規則ニ依リ簡易生命保險竝郵便年金ニ關スル現金ノ受入又ハ其ノ拂出ノ請求ヲ受ケタルトキハ簡易生命保險取扱規程及簡易生命保險團體特別取扱規程竝郵便年金取扱規程ノ定ムル所ニ依リ取扱ヲ爲シタル上當該受拂證據書ハ一般ノ振替貯金受拂證據書ト合算計理セス現金出納計算規程第六十條左表第十六ノ四乃至第十六ノ十一ニ依リ計理シ受拂證據書ハ一般ノ例ニ依リ樺太廳ニ送付スヘシ

郵便局ニ於テ特別口座加入者ノ發行シタル納入告知書ニ依リ保險歲入

〔樺法〕

金又ハ年金歳入金ヲ受ケタルトキハ前項ノ例ニ依リ處理スヘシ

第四條　樺太廳ニ於テ郵便局ヨリ前條ノ受拂證據書ノ送付ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　受入證據書ハ前條ノ計算科目別ニ其ノ口數金額ヲ集計シタル上保險ニ關スル合計金額ニ對シテハ保險振替貯金監査票附錄第一號及同受高報告書附錄第二號ヲ、年金ニ關スル合計金額ニ對シテハ年金振替貯金監査票附錄第三號及同受高報告書附錄第四號ヲ調製炭酸紙使用シ受高報告書ハ一般振替貯金報告書上部ニ緊綴シ合算計理スヘシ

二　拂濟證據書ハ前條ノ計算科目別ニ其ノ口數金額ヲ集計シタル上保險ニ關スル合計金額ニ對シテハ保險振替貯金拂出證書合計票附錄第五號ヲ、年金ニ關スル合計金額ニ對シテハ年金振替貯金拂出證書合計票附錄第六號ヲ調製シ拂出證書合計票ハ一般振替貯金拂濟證據書ノ上部ニ緊綴シ合算計理スヘシ

三　前二號ノ手續ヲ了シタルトキハ現金出納日報ノ集計ニ依リ保險振替貯金受拂計算票附錄第七號及年金振替貯金受拂計算票附錄第八號正副二通ヲ調製炭酸紙使用シ各其ノ小計ハ前二號ノ受高報告書及拂出證書合計票金額ト對照シ相違ナキコトヲ確メタル上受拂計算票副本ニ依リ口座受入及拂出ノ手續ヲ爲シ監査票ハ一般ノ例ニ依リ處理スヘシ但シ其ノ口座登記カ現金拂渡ノ翌月ニ亙ルモノアルトキハ該計數ニ對シテハ計算補正ノ上口座拂出ノ手續ヲ爲シ受拂計算票副本餘白ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

四　前各號ノ手續ヲ了シタルトキハ受拂計算票相當欄ニ越高及殘高ヲ記入シ正本ハ之ニ當該受拂證據書ヲ添ヘ特別口座加入者ニ送付シ副本ハ適宜整理保存スヘシ

第五條　樺太廳ニ於テ保險又ハ年金ニ關スル臨時受拂金證明書又ハ現金出納計算更正證明書ヲ受ケタルトキハ受拂證明書樣式ヲ調製シ一般ノ例ニ依リ口座補正受拂ノ手續ヲ爲シ受拂證明書ニ依リ當該受拂計算票正副二通ヲ調製シ前條第四號ノ例ニ依リ取扱フヘシ

第六條　本規程ニ依ル用紙並其ノ保存期間ハ左ノ如シ

名稱	保存期間
一　保險振替貯金監査票	—
一　年金振替貯金監査票	—
一　保險振替貯金受高報告書	—
一　年金振替貯金受高報告書	—
一　保險振替貯金拂出證據書合計票	—
一　年金振替貯金拂出證據書合計票	—
一　保險振替貯金受拂計算票(副本)	三年
一　年金振替貯金受拂計算票(副本)	三年

前項ノ用紙ハ附錄雛形ニ依ル

附則

本令ハ昭和三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

簡易生命保險事務郵便振替貯金特別取扱規程ハ九月三十日限リ之ヲ廢止ス

附錄第一號

保險振替貯金監査票

口座番號	加入者氏名	計算月	月分	備考
樺太保　一番	簡易保險局長	拂込金額 十万千百十圓十錢		
日附印				

報告番號

附錄第二號

保險振替貯金受高報告書

口座番號	加入者氏名	計算月	月分	備考
樺太保　一番	簡易保險局長	拂込金額 十万千百十圓十錢		
日附印				

報告番號

附錄第三號

年金振替貯金監査票

- 口座番號：樺太年一番
- 加入者氏名：簡易保險局長
- 日附印
- 計算月：月分
- 拂込金額：十万千百十圓十錢
- 備考
- 報告番號

附錄第四號

年金振替貯金受高報告書

- 口座番號：樺太年一番
- 加入者氏名：簡易保險局長
- 日附印
- 計算月：月分
- 拂込金額：十万千百十圓十錢
- 備考
- 報告番號

〔樺法〕

附錄第五號

保險振替貯金拂出證書合計票

- 番號
- 計算月：月分
- 證書枚數
- 日附印
- 金
- 口座番號：樺太保一番
- 加入者：簡易保險局長

附錄第六號

年金振替貯金拂出證書合計票

- 番號
- 計算月：月分
- 證書枚數
- 日附印
- 金
- 樺太年一番
- 簡易保險局長

〔樺法〕

附錄第七號

保險振替貯金受拂計算表

第　　號

口座番號		加入者氏名									
棒太保一番		簡易保險局長									
種目		口數	金高								備考
			十	万	千	百	十	圓	十	錢	
越高											
受入ノ部	保險假受金受高										
	保險歲入金受高										
	保險貸付金受高										
	小計										
	特別口座加入者拂込高										
	臨時受高										
	合計										
拂出ノ部	保險假受金拂高										
	保險歲入金拂高										
	保險貸付金拂高										
	小計										
	特別口座加入者拂出高										
	臨時拂高										日付印
	合計										
現在高											

〔裏面ニ續ク〕

附錄第八號

年金振替貯金受拂計算票

第　　號

口座番號		加入者氏名									
棒太年一番		簡易保險局長									
種目		口數	金高								備考
			十	万	千	百	十	圓	十	錢	
越高											
受入ノ部	年金假受金受高										
	年金歲入金受高										
	年金貸付金受高										
	小計										
	特別口座加入者拂込高										
	臨時受高										
	合計										
拂出ノ部	年金假受金拂高										
	年金歲出金拂高										
	年金貸付金拂高										
	小計										
	特別口座加入者拂出高										
	臨時拂高										日附印
	合計										
現在高											

〔裏面ニ續ク〕

第四節　電信　電話

●電信法

明治三十三年三月十四日
法律第五十九號

改正　大五年三月法律一九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル電信法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總、遞、大臣副署）

電信法

第一條　電信及電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條　左ニ揭クル電信又ハ電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ私設スルコトヲ得

一　一郎宅內若ハ一構內ニ於テ專用ニ供スル爲施設スルモノ

二　鐵道業其ノ他電信電話ノ專用ヲ必要トスル事業ノ爲施設スルモノ

三　公共團體ノ事務執行ノ爲一市區町村若ハ鄰接市區町村間ニ於テ公衆相互間又ハ一郡市區內ニ於テ公署ト第一次監督官廳トノ間ニ施設スルモノ

四　電報送受ノ目的ヲ以テ一人ノ專用ニ供スル爲電信官署トノ間ニ施設スルモノ

五　一市區町村內若ハ鄰接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ於テ一人又ハ一營業ノ專用ニ供スル爲施設スルモノ

第三條　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條　主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ電信又ハ電話ニ依ル通信ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第五條　電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止スルコトヲ得

第六條　職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用車馬等ハ道路ニ障碍アリテ通行シ難キ場合ニ於テ墻壁又ハ欄柵ナキ宅地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第七條　職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ電信又ハ電話ノ工夫配達人若ハ吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ政府ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第八條　職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等ニ對シテハ、渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ノ工夫及配達人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第九條　政府ハ電信又ハ電話ノ用ニ供スル爲鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ建物ノ建築又ハ改築ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十條　政府カ鐵道用地內ニ電信線又ハ電話線ヲ施設シタルトキハ使用料ヲ支給セス

第十一條　電信若ハ電話專用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

前項專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

第十二條　電信又ハ電話取扱ニ關シ電信官署又ハ電話官署ニ對シテ無能力者ノ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十三條　電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十四條　電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ發信人ノ請求ニ因リ其ノ送達ヲ停止スルコトヲ得

第十五條　宛所ニ配達シ又ハ受信人ニ交付シ得サル電報ハ電信官署ニ於テ之ヲ保管ス其ノ保管開始ノ日ヨリ三十日內ニ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ棄却ス

第十六條　電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ發信人ニ對シ其ノ電報ニ用ヰタル祕密隱語ノ說明ヲ求ムルコトヲ得發信人若其ノ說明ヲ拒ミタルトキハ其ノ電報ノ取扱ヲ拒絕ス

第十七條　電信又ハ電話ニ關スル料金及電信又ハ電話ニ依ル通信ノ取扱ニ必要ナル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十八條　電信又ハ電話ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第十九條　發信人ニ於テ前納スヘキ電信ニ關スル料金ニ不足アルトキハ發信人ヨリ其ノ不足額ノ二倍ノ料金ヲ徵收ス

第二十條　電信又ハ電話ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付ヌヘキ日ヨリ六箇月內ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ因リテ消滅ス

【棒法】

第二十一條　電信又ハ電話ニ關スル料金ノ不納金額ハ電信官署又ハ電話官署ニ於テ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ不納金額ニ付電信官署又ハ電話官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十二條　電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ電信、電話、無線電信、無線電話、郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第二十三條　電信又ハ電話ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第二十四條　電信又ハ電話ノ取扱ニ關シテハ政府ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第二十五條　本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ對シ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第二十六條　電信官署若ハ電話官署ノ賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十七條　不法ニ電信、電話ヲ施設シ又ハ不法ニ施設シタル電信、電話ヲ使用シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條ノ二　主務官署カ命令ノ定ムル所ニ依リ私設ノ電信又ハ電話ノ撤去ヲ命シタル場合ニ於テ期間內ニ之ヲ撤去セサル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

撤去ヲ命セラレタル私設ノ電信又ハ電話ヲ使用シタル者亦同シ

第二十八條　私設ノ電信若ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ私設者ニ非スシテ之ヲ使用シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

私設ノ電信又ハ電話ニ依頼シ通信ヲ爲サシメタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條ノ二　第二十七條、第二十七條ノ二第二項及前條第一項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第二十九條　第三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信、電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ鐵道用地、停車場建物ノ使用ヲ拒ミ若ハ停車場建物ノ建築改築ヲ爲ササル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第八條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ强要シ若ハ正當ノ理由ナクシテ渡津ノ用船ヲ拒ミタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條　電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十二條　不法ニ電信、電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ他人ヲシテ之ヲ免レシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條　自己若ハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ電信又ハ電話ニ依リ虛僞ノ通信ヲ發シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ電信爲替ニ要スヘキ電報ニ係ルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第三十四條　（削除）

第三十五條　電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シ又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル

第三十六條　電信若ハ電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遲延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條　電信若ハ電話ニ依ル通信ヲ障碍シ又ハ之ヲ障碍スヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條　電信線若ハ電話線ノ建築修理又ハ線路ノ巡視測量ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　電信、電話ノ線條若ハ其ノ支持物ニ物品ヲ懸ケ若ハ攀チ又ハ之ニ動物若ハ舟筏ヲ繫キ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

電信又ハ電話線路ノ測量標ヲ毀棄汚穢シタル者亦同シ

〔裁決〕

第四十條　主務官署ノ指定シタル水底電信線路若ハ水底電話線路ノ區域內ニ於テ船舶ヲ緊留シ又ハ漁業探深ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ水底電信線若ハ水底電話線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其ノ號標ヲ毀棄シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

水底電信線若ハ水底電話線ノ布設若ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示スヘキ浮標又ハ其ノ布設若ハ修理ニ從事スル船舶ヨリ主務官署ノ指定シタル距離以內ニ於テ前項ノ行爲ヲ爲シ若ハ航行シタル者亦同シ

第四十一條　第二十七條、第二十七條ノ二第二項、第二十八條、第三十一條乃至第三十三條、第三十五條、第三十七條、第三十八條及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四十二條　（削除）

第四十三條　公衆通信又ハ第三條第一項ニ依リ現ニ軍事通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第九條ヲ除クノ外本法中政府ノ施設ニ係ル電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十四條　電信又ハ電話ニ非スト雖通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十五條　帝國外國間ニ於ケル電信ニ關シ別ニ法令條約又ハ特許ノ條款ニ明文アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附　則

第四十六條　本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

電信條例ハ之ヲ廢止ス

第四十七條　本法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ更ニ許可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

●無線電信法

大正四年六月二十一日
法律第二十六號

改正　大一〇年四月法律六二號、昭四年四月四五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル無線電信法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、遞信大臣副署）

無線電信法

第一條　無線電信及無線電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條　左ニ揭クル無線電信又ハ無線電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ私設スルコトヲ得

一　航行ノ安全ニ備フル目的ヲ以テ船舶ニ施設スルモノ

二　同一人ノ特定事業ニ用ウル船舶相互間ニ於テ其ノ事業ノ用ニ供スル目的ヲ以テ船舶ニ施設スルモノ

三　電報送受ノ爲電信官署トノ間ニ施設者ノ專用ニ供スル目的ヲ以テ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

四　電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナク前號ノ規定ニ依ルヲ不適當トスル陸地相互間又ハ陸地船舶間ニ於テ同一人ノ特定事業ニ用ウル目的ヲ以テ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

五　無線電信又ハ無線電話ニ關スル實驗ニ專用スル目的ヲ以テ施設スルモノ

六　前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ施設ノ必要アリト認メタルモノ

〔裁決〕

第三條　私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ機器、其ノ裝置及運用ニ關スル制限竝私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ通信ニ從事スル者ノ資格及配置定員ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四條　私設ノ無線電信及無線電話ハ其ノ施設ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ船舶遭難通信、氣象通信、報時通信其ノ他主務大臣ニ於テ公益上必要ト認ムル通信ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ妨ケス

第五條　外國船舶ニ裝置シタル無線電信又ハ無線電話ハ第二條ノ規定ニ依リ施設シタルモノヲ除クノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ船舶遭難通信及航行中電信官署又ハ電話官署トノ通信ニ使用スルコトヲ妨ケス

第六條　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條　主務大臣ハ公衆通信上又ハ軍事上必要ト認ムルトキハ私設ノ無線電信、無線電話ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ設備ノ變更、使用ノ制限若ハ使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得無線電信、無線電話ノ混信防遏ノ爲必要ト認ムルトキ亦同シ

第八條　主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ私設ノ無線電信、無線電話又ハ外國船舶ニ裝置シタル無線電信、無線電話ノ使用ノ制限若ハ停止ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ特定ノ事項ノ通報ヲ求メラレタルトキハ前項ノ規定ニ依ラス直ニ其ノ通報ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條　主務大臣ハ不法ニ無線電信又ハ無線電話ヲ施設スル者アリト認メタルトキハ當該官吏ヲシテ其ノ施設ノ場所ニ立入リ機器工作物ノ檢査、機器附屬具ノ除却其ノ他相當ノ措置ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條ノ二　主務大臣ハ私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ機器、其ノ裝置又ハ運用ニ關シ監督上必要ト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ其ノ施設ノ場所ニ立入リ機器工作物及關係書類ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條ノ三　前二條ノ規定ニ依リ當該官吏無線電信又ハ無線電話ノ施設ノ場所ニ立入ル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第十四條　政府ハ公衆通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ノ施設ノ爲船舶ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ特殊ノ供給又ハ設備ヲ命スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ相當ノ使用料及特殊ノ供給、設備ノ實費ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十五條　公衆通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信ニシテ無線電信、無線電話、電信、電話、郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ船舶遭難、航行ノ安全、報時、氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第十六條　許可ナクシテ無線電信、無線電話ヲ施設シ若ハ許可ナクシテ施設シタル無線電信、無線電話ヲ使用シタル者又ハ許可ヲ取消サレタル後私設ノ無線電信、無線電話ヲ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ無線電信又ハ無線電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徵ス

第十七條　私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ其ノ施設ノ目的以外ニ使用シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ無線電信又ハ無線電話ノ機器、其ノ裝置又ハ運用ニ關シ監督上必要ト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ其ノ施設ノ場所ニ立入リ機器工作物及關係書類ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條　第五條ノ規定ニ違反シタル者又ハ本法ニ依ル無線電信、無線電話ノ使用ノ制限停止、設備變更若ハ除却撤去ノ命令ニ從ハサル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者使用ノ制限又ハ停止ニ違反シテ使用シタルトキハ其ノ從事者ニ付亦同シ

第十九條　第六條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ無線電信、無線電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第十四條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ船舶ノ使用ヲ拒ミ若ハ特殊ノ供給設備ヲ爲ササル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ通信ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十條ノ二　無線電信又ハ無線電話ニ依リ知得タル前條ニ該當セサル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ祕密ヲ漏泄シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十一條　不法ニ無線電信、無線電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ他人ヲシテ之ヲ免レシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ虛僞ノ通信ヲ發シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

公益ヲ害スル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ虛僞ノ通信ヲ發シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶遭難ノ事實ナキニ拘ラス無線電信又ハ無線電話ニ依リ船舶遭難通信ヲ發シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者第一項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金、第二項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ十年以下ノ懲役、第三項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第二十二條ノ二　無線電信又ハ無線電話ニ依リ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル通信ヲ發シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　無線電信ノ事務ニ從事スル者電信官署ノ取扱中ニ係ル無線電信ニ依ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シタルトキ又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條又ハ第二百五十九條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル

第二十四條　無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遲延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ第十一條若ハ第十二條ノ規定ニ依ル船舶遭難通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遲延セシメタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

船舶遭難通信ノ取扱ヲ妨害シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十五條　無線電信、無線電話ニ依ル公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ヲ障碍シ又ハ之ヲ障碍スヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　第十六條乃至第二十五條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七條　本法ニ基キテ爲ス當該吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ第十三條若ハ第十三條ノ二ノ規定ニ依ル檢查ノ際當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十八條　電信法第四條、第十一條乃至第二十一條、第二十三條、第二十四條及第四十五條ノ規定ハ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ニ之ヲ準用ス

第二十八條ノ二　無線電信又ハ無線電話ニ非スト雖高周波電流ヲ使用シ通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用ス

第二十八條ノ三　主務大臣ハ無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ニ及ホス障碍ヲ防止スル爲必要ト認ムルトキハ高周波電流ヲ發生スル設備ニシテ無線電信、無線電話又ハ前條ノ通報信號施設ニ非サルモノニ關シ其ノ施設者ニ對シ設備ノ變更又ハ特殊ノ設備ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ設備ノ變更又ハ特殊ノ設備ニ要シタル費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依ル補償ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條　本法ハ航空機ニ施設スル無線電信及無線電話ニ關シ之ヲ準用ス

第三十條　本法ノ適用ニ付テハ航空機ハ之ヲ船舶ト看做ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正四年十月勅令第百八十五號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

●無線電信法施行ニ關スル件

大正四年十一月二十四日
勅令第三十號

大正四年勅令第百八十六號無線電信法施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外遞信省令及告示ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十類　通信　電氣　瓦斯　第一章　通信

●無線電信電話事務取扱ニ關スル件

【樺法】

大正四年十一月二十四日
勅訓令第三十七號

内務部　郵便局

無線電信電話ノ事務ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外遞信省所定ノ規定令達其ノ他通牒等ニ準據スル義ト心得ヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●私設電信私設無線電信公衆通信取扱規則ニ依ル取扱費額ノ件

【樺法】

大正十四年五月一日
勅令第十四號

私設電信私設無線電信公衆通信取扱規則第四條ニ依リ當該施設者ニ支給スヘキ取扱費中其ノ費額ヲ特定スルコト左ノ如シ

一　公衆電報（官報私報及新聞電報ニ限ル）　電信ニ依ルモノ（發信一通毎ニ金九錢、著信一通毎ニ金八錢、中繼信一通毎ニ金八錢）以下同シ

二　直配達區域內ヘノ配達又ハ汽車中ニ在ル受信人ヘノ交付　一通毎ニ金十二錢

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●私設無線電信規則第二十九條ニ依ル無線電信監視局指定ノ件

大正十年八月二十日
告示第百五十四號

無線電信監視局

大泊郵便局

●海底電信線保護萬國聯合條約罰則ヲ樺太ニ施行スルノ件

大正五年七月二十二日
勅令第百八十六號

朕海底電信線保護萬國聯合條約罰則ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總、內、遞、大臣副署）

海底電信線保護萬國聯合條約罰則ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附　則

本令ハ大正五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●電信線電話線建設條例ヲ樺太ニ施行スルノ件

昭和六年六月十三日
勅令第百三十一號

朕電信線電話線建設條例ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總、拓、大臣副署）

電信線電話線建設條例ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●電信線電話線建設條例

明治二十三年八月七日
法律第五十八號

朕電信線電話線建設條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總、遞、大臣副署）

電信線電話線建設條例

第一條　遞信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ヲ建設スル爲民有ノ土地又ハ營造物ノ使用ヲ要スルトキハ所有者及其他ノ權利者之ヲ拒ムコトヲ得ス

官有ノ土地又ハ營造物ハ其所管廳ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第二條　公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ建設ニ從事スル者其建築修理及線路測量ノ爲必要ナルトキハ他人ノ所有地ニ入ルコトヲ得

〔樺法〕

其邸宅構內ニ入ルヲ要スルトキハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ通知スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ主務者タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第三條　遞信省ハ公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ建設又ハ通信ニ障碍アル瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ移轉セシムルコトヲ得

其建設通信ニ障碍アル竹木其他ノ植物ハ已ムヲ得サルモノニ限リ之ヲ伐除シ若クハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ之ヲ伐除又ハ移植セシムルコトヲ得

第四條　遞信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線路電話線路ノ測量ヲ爲シタルトキハ電柱ノ建設ヲ要スル場所ニ測標ヲ設置スルコトヲ得

第五條　公衆通信ノ用ニ供スル電信線路電話線路ヲ移轉スル必要アル者ノ請求ニ由リ遞信省ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ其移轉費用ハ請求者之ヲ負擔スルモノトス

第六條　遞信省ニ於テ民有地ニ電信線電話線ノ柱木ヲ建設シタルトキハ一本毎ニ一箇年四錢ノ手當金ヲ給與ス但所有者又ハ其他ノ權利者ニ於テ手當金ヲ望マサルトキハ此限ニアラス

第七條　左ニ揭クルモノハ其要求ニ對シ遞信省之ヲ補償スヘシ

一　建築修理及線路測量ノ爲生シタル損害

二　瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ移轉シタル費用

三　伐除シタル竹木其他植物ノ代價又ハ移植ノ費用

第八條　第七條ノ補償金額ハ雙方協議之ヲ定メ若シ其議相協ハサルトキハ市町村長（未タ市制町村制ヲ實施セサル地方ハ區戶長）ヲシテ之ヲ評定セシム

市町村長ノ評定ニ服セサル者ハ其評定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以內ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

〔樺法〕

●電報特別配達規則

明治四十二年十月二十日
遞信省令第三十二號

改正　昭二年七月遞令二六號、六年八月三六號

電報特別配達規則

第一條　電報ノ特別配達ヲ受ケントスル者ハ此ノ規則ニ依リ郵便區內ノ樺太廳郵便局ヘ豫メ請求ヲ爲スヘシ但シ一定ノ差出人ヨリ發信シタル電報ニ限リ之レヲ請求スルコトヲ得

第二條　特別配達ハ通常午前九時及午後一時ノ二回ニ於テ差立ツルモノトス

第三條　特別配達ハ土地ノ實況ニ依リ回數ヲ制限シ又ハ夜間ノ配達ヲ爲ササルコトアルヘシ

第四條　特別配達ノ料金ハ八キロメートル迄ハ金八十錢八キロメートルヲ超ユルトキハ四キロメートル迄毎ニ金八十錢ヲ加フ

第五條　特別配達料ハ郵便局ノ料金告知ニ依リ電報受領ノ際郵便切手ヲ以テ納付スルモノトス

前項ノ料金ハ樺太廳郵便官署ノ定ムル所ノ粁程ニ依リ計算ス

第六條　特別配達請求書ハ左ノ書式ニ依ルヘシ

（書式）

電報特別配達請求書

拙者ニ宛テタル電報ニシテ配達方指定ナキ電報到著シタルトキハ樺太廳令第何號ニ依リ特別配達相成候樣此段豫メ請求候也

年　月　日　　居住所　　氏　　名印

樺太廳（何々）郵便局宛

附　則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●電報特別配達料金徵收ノ件

明治四十二年十月
訓第三百十七號

樺太廳郵便局長

電報特別配達料金徵收方ニ關シテハ明治三十三年九月遞信大臣公達第四百三十二號郵便取扱規程第二百七十九條及第二百八十條又配達方ニ關シテハ同年同月公達第四百三十號電報取扱規程第二百三十六條乃至第二百三十八條ヲ準用ス

電報配達費ハ徵收額ノ十分ノ九トシ同一地所ヘ二通以上兼配ノ場合ハ其ノ一通分又土地ヲ異ニシ兼配セシ場合ハ里程ノ最モ遠キモノニ依リ計算ス

●電信事務ニ關スル簿冊設備規程

大正十五年五月十一日
訓令第百二十三號

改正　昭四年四月訓令二八四號、六年八月一九九號

內務部　郵便局（電信事務ヲ取扱ハサル局ヲ除ク）　電信取扱所

電信事務ニ關スル簿冊設備規程左ノ通定ム

電信事務ニ關スル簿冊設備規程

第一條　電信局所ニ於テハ別ニ定ムルモノノ外別記樣式ニ依リ簿冊ヲ設備スヘシ

第二條　簿冊ハ凡テ翌朝局所長又ハ首席者ニ於テ之ヲ檢閱スヘシ

第三條　簿冊ハ凡テ曆年ニ依リ更新スルモノトス但シ事務閑散ナル局所ニ在リテハ適宜ノ期間繼續使用スルコトヲ得

第四條　簿冊ノ保存期間ハ其ノ使用ヲ終リタル翌年一月一日ヨリ起算ス使用濟簿冊ハ其表紙適宜ノ場所ニ使用期間及保存期間ヲ記載シ置クヘシ

第五條　本令ニ依ル簿冊中取扱事務ノ種類ニ依リ全ク登記スヘキ事實ノ發生セサル局所ニ在リテハ當該簿冊ノ設備ヲ要セス

第六條　簿冊ハ電信日誌ヲ除ク外登記事項ノ多少ニ依リ適宜二種以上合冊スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ各種別每ニ口座ヲ設テ表紙ニハ合冊シタル簿冊名ヲ記載スヘシ

第七條　保存期間ノ異ナル簿冊ヲ合冊シタル場合ニ於ケル保存期間ハ長期ノモノニ依ル

附　則

〔樺法〕

本令ハ大正十五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十月訓令第四十三號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（樣式）

第一號

電信日誌（保存期間一年）

局所長印　月日　曜日　天候

擔當者　氏　名印

（左記事項ヲ登記スルモノトス）

一回線障碍及疏通狀況並臨機措置シタル事項

二傳送延滯事故ノ場合ニ於ケル措置狀況

三電報ノ閱覽又ハ正寫若ハ傳送前返還ノ請求ヲ受ケ之ヲ處理シタル事項

四刑事訴訟審理ノ爲電報ノ披閱又ハ交付ノ請求ヲ受ケ之ヲ處理シタル事項

五反則電報ヲ處理シタル場合其顚末

六原書差立後電報保管トナリタル場合其要旨

七通信當務者名

八通信當務者交代時刻及引繼ニ關スル事項

九通信終了時刻

十其他將來通信上又ハ事務上參考トナルヘキ事項

〔樺法〕

第二號

傳送延滯事故登記簿

（保存期間六月）

局所長印	月日	對手局所名	同上擔當者名	回答要旨	喚呼時分	喚呼總時間	事故電報 發局	事故電報 種類	事故電報 番號	備考

一喚呼時分ハ　セ 10,10 10,20　セ 10,40 40,50　コ 1,5 1,30　ノ如ク實際喚呼シタル時間ヲ記入シ其ノ合算時間ヲ喚呼總時間欄ニ記入スルモノトス

二事故アリタル都度本簿ニ登記シ即日報告スルモノトス

第三號

照校反則登記簿

局所長印	取扱月日	對手局所名	關係電報 發信月日	同上局所名	同上番號	著信局所名	種類	備考

一、照校電報其ノ他反覆校正ヲ要スル電報ニシテ校合ノ手續上違則ノ取扱アリタルトキハ其ノ部度本簿ニ登記シ即日報告スルモノトス
二、備考欄ニハ對手局所ニテ「連續再送ス」「反送ヲ省略ス」等違則事項ヲ簡明ニ記入スルモノトス

（保存期間六月）

第四號

發信保管電報登記簿

局所長印	發信 月日	番號	著信局所名	受信人名所	發信人名所	保管 月日	事由	通知月日	取扱者印	再達又ハ交付 月日	通知月日	取扱者印	取扱者印

（保存期間六月）

第五號

著信保管電報登記簿

局所長印	發信 月日	局所名	番號	受信人名所	保管 月日	事由	通知月日	取扱者印	再達又ハ交付 月日	通知月日	取扱者印	備考

（保存期間六月）

〔棒法〕

留置電報ヲ保管トナス場合ハ受信人名所以上ノ各欄ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第六號

託送電報料記簿

書記……㊞

月日	納（繰替ノ場合ハ發局及發信番號）	摘要	金額（託送料ヲ含マズ） 圓

加入者氏名……

（保存期間六月）

一、本簿ハ加入者別ニ口座ヲ分ツモノトス
二、託送料ハ月計ノ際通數ニ依リ算出計上スルモノトス

第七號

略號登記簿

略號	請求者居所氏名	請求月日	期間	納付金額 圓	廢止屆出月日	取扱者印	備考

（保存期間一年）

一、期間欄ニハ長期ノモノニ在リテハ「何年度第何期」ト記載シ短期ノモノニ在リテハ「自何月何日至何月何日」ト記載スルモノトス
二、效力ナキニ至リタルモノハ其ノ旨備考欄ニ記載シ且ツ朱線ヲ施スモノトス

第八號

〔棒法〕

配達先登記簿　（保存期間一年）

配達先	請求者居所氏名	請求月日	期間	納付金額	廢止屆出月日	取扱者印	備考
				圓			

一、期間欄ニハ長期ノモノニ在リテハ「何年度第何期」ト記載シ短期ノモノニ在リテハ「自何月何日至何月何日」ト記載スルモノトス
二、效力ナキニ至リタルモノハ其ノ旨備考欄ニ記載シ且ツ朱線ヲ施スモノトス

第九號

局渡證票交付簿　（保存期間一年）

證票番號	請求者居所氏名	交付月日	期間	納付金額	返納月日	取扱者印	備考
				圓			

一、期間欄ニハ長期ノモノニ在リテハ「何年度第何期」ト記載シ短期ノモノニアリテハ「自何月何日至何月何日」ト記載スルモノトス
二、紛失其ノ他事故アリタルトキハ其ノ旨備考欄ニ記載スルモノトス

第十號　（削除）

第十一號

託送請求簿　（保存期間六月）

請求書ヲ編綴シ之ニ代フルモノトス

一、本表ハ電報通數料金報告表調製ノ材料ニ充ツルモノトス
二、本表ハ毎年十一月分ヲ除キ毎月之ヲ調製スヘシ
三、還付料金額ハ內國及外國電報ニ關スル還付料金額ヲ記載スヘシ

（保存期間一年）

〔樺法〕

〔樺法〕

計　表　　昭和　年　月分

報通數 著信 有料	報通數 著信 無料	報通數 著信 合計	內國電報中繼信通數（日支電報ヲ含ム）	外國電報中繼信通數	電報通數總計	內國電報料金	外國電報料金	電報料金總計	還付料金額
						圓	圓	圓	圓

著信																中繼信	電報總計
有料												無料報		合計			
官報		私報		後廻電報		新聞電報		課金事務報		小計							
通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數		

第十二號

電報日

月 / 日	內國電報通數(日支電報ヲ含ム)						外國電		
	發信			著信			發信		
	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
上旬計									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
中旬計									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
下旬計									
合計									

〔備註〕

第十三號（甲）

電報日計表

種別 / 日別	發信 有料 官報 信語數	通數	私報 信語數	通數	新聞電報 信數	通數	課金局報 信語數	通數	小計 信語數	通數	無料 一般局報 信語數	通數	爲替局報 信數	通數	氣象局報 信數	通數	小計 信語數	通數	合計 信語數	通數	著信 有料 官私報	新聞電報	課金局報	小計	無料報	合計	中繼信	電報總計	再揭 電送線電託報	飜書電報	複寫電報	分送電報	合計	電取報扱總數	金料 官報	私報	新聞電報	課金局報	小計	其ノ他	合計	前金欄收中納現額	還金付料額
1																																			圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
2																																											
3																																											
4																																											
5																																											
6																																											
7																																											
8																																											
9																																											
10																																											
上旬計																																											
11																																											
12																																											
13																																											
14																																											
15																																											
16																																											
17																																											
18																																											
19																																											
20																																											
中旬計																																											
21																																											
22																																											
23																																											
24																																											
25																																											
26																																											
27																																											
28																																											
29																																											
30																																											
31																																											
下旬計																																											
合計																																											

計　　表　　　　昭和　　年十一月分

合計	前欄中現金收納額	還付料金額	再揭																																	
			內地發著					朝鮮發著					臺灣發著					小笠原島發著					滿洲(芝罘ヲ含ム)發著					南洋發著					無線電報			
			發信		著信		料金	發信		著信		料金	發信		著信		料金	發信		著信		料金	發信		著信		料金	發信		著信		料金	發信		著信	料金
			有料	無料	有料	無料		有料	無料	有料	無料		有料	無料	有料	無料		有料	無料	有料	無料		有料	無料	有料	無料		有料	無料	有料	無料		通數	信語數	通數	
圓	圓	圓					圓					圓					圓					圓					圓					圓				圓

一、本表ハ內國電報總計表調製ノ材料ニ充ツルモノトス
二、本表ハ亞剌比亞數字ニテ明瞭ニ和文ハ黑歐文ハ赤ヲ以テ各相當欄ニ記入スヘシ

（保存期間一年）

第十三號（乙）

電報日

種別 / 日別	發信 有料 官報 通數	發信 有料 官報 語數	發信 有料 私報 通數	發信 有料 私報 語數	發信 有料 後廻電報 通數	發信 有料 後廻電報 語數	發信 有料 新聞電報 通數	發信 有料 新聞電報 語數	發信 有料 課金事務報 通數	發信 有料 課金事務報 語數	發信 有料 小計 通數	發信 有料 小計 語數	發信 無料報 通數	發信 無料報 語數	發信 合計 通數	發信 合計 語數	著信 有料 官報 通數	著信 有料 官報 語數	著信 有料 私報 通數	著信 有料 私報 語數	著信 有料 後廻電報 通數	著信 有料 後廻電報 語數	著信 有料 新聞電報 通數	著信 有料 新聞電報 語數	著信 有料 課金事務報 通數	著信 有料 課金事務報 語數	著信 有料 小計 通數	著信 有料 小計 語數	著信 無料報 通數	著信 無料報 語數	著信 合計 通數	著信 合計 語數	中繼信	電報總計	再揭 電線託送電報	再揭 鐵書電報	再揭 複寫電報	再揭 分送電報	再揭 合計	電取扱報數總數	料 官報 圓	料 私報 圓	料 後廻電報 圓	料 新聞電報 圓	料 課金事務報 圓	料 小計 圓
1																																												
2																																												
3																																												
4																																												
5																																												
6																																												
7																																												
8																																												
9																																												
10																																												
上旬計																																												
11																																												
12																																												
13																																												
14																																												
15																																												
16																																												
17																																												
18																																												
19																																												
20																																												
中旬計																																												
21																																												
22																																												
23																																												
24																																												
25																																												
26																																												
27																																												
28																																												
29																																												
30																																												
下旬計																																												
合計																																												

（併行）

一、本表ハ外國電報總計表調製ノ材料ニ充ツルモノトス
二、本表ハ亞剌比亞數字ニテ明瞭ニ歐文ハ黑和文ハ赤ヲ以テ各相當欄ニ記入スヘシ
三、電報通數少數ノ局所ニ在リテハ旬計ノミヲ記入スルコトヲ得

（保存期間一年）

昭和　年十一月分　日計表

再掲																																							還付料金額	現金收納額（前欄中）	金				
固定局間經由無線電報																																船舶局發著無線電報													
有料																								無料報				合計				發信		著信		料金					合計	其ノ他	小計	課金事務報	新聞電報
官報				私報				後廻電報				新聞電報				課金事務報				小計				發信		著信		發信		著信		通數	語數	通數	語數	普通電報料	海岸料	船舶料							
發信		著信		發信		著信		發信		著信		發信		著信		發信		著信		發信		著信		通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數														
通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數																						
																																				圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

一、本表ハ外國電報總計表調製ノ材料ニ充ツルモノトス　（保存期間一年）
二、本表ハ亞剌比亞數字ニテ明瞭ニ歐文ハ黑和文ハ赤ヲ以テ各相當欄ニ記入スヘシ
三、電報通數少數ノ局所ニ在リテハ旬計ノミヲ記入スルコトヲ得

日計表

昭和　年十一月分

金				前欄中現金收納額	還付料金額	再揭																																						
課金事務報	小計	其ノ他	合計			船舶局發著無線電報									固定局間經由無線電報																													
						發信		著信		料金			有料																								無料報				合計			
													官報				私報				後廻電報				新聞電報				課金事務報				小計											
										普通電報料	海岸料	船舶料	發信		著信		發信		著信		發信		著信		發信		著信		發信		著信		發信		著信		發信		著信		發信		著信	
						通數	語數	通數	語數				通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數
圓	圓	圓	圓	圓	圓					圓	圓	圓																																

種別 / 日別	發信																							
	有料																無料		合計					
	官報		私報		後迺報		電報新聞		電報		金報課務事		小計											
	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數	通數	語數										
1																								
2																								
3																								
4																								
5																								
6																								
7																								
8																								
9																								
10																								
上旬計																								
11																								
12																								
13																								
14																								
15																								
16																								
17																								
18																								
19																								
20																								
中旬計																								
21																								
22																								
23																								
24																								
25																								
26																								
27																								
28																								
29																								
30																								
下旬計																								
合計																								

【棒法】

●電報直配達區域

大正五年七月三十一日
訓令第百十九號

內務部　各郵便局

電信區電報直配達區內ハ別ニ令達スルモノ外郵便區市內ト同一トス

本令ハ大正五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●電話區電話呼出區域

昭和八年八月一日
訓第百三十五號

內務部　郵便局（逓信事務ヲ取扱ハサル局ヲ除ク）

電話區電話呼出區域ハ大正五年七月訓令第百十九號電信區電報直配達區內ト同一トス

本令ハ昭和八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●歐文電報配達特別受持區域

昭和四年十一月二十六日
訓令第五百六十四號

內務部　郵便局（外國電報及歐文電報ノ取扱ヲナササル局ヲ除ク）

歐文電報配達特別受持地域左ノ通定メ昭和四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

【棒法】

特定著信局名	受持地名
豐原	豐原郡一圓、葵濱郡一圓、留多加郡一圓
大泊	大泊郡（大泊楠渓局區內ヲ除ク）一圓、富內郡一圓、長濱郡一圓
眞岡	眞岡郡一圓、本斗郡一圓、野田郡一圓
泊居	泊居郡一圓、久春內郡一圓
知取	元泊郡一圓
惠須取	名好郡一圓、鵜城郡一圓
敷香	敷香郡一圓、散江郡一圓

●電報料金後納規則

大正八年十月二十一日
遞令第三十八號

改正　大一四年七月遞令二五號、一五年三月六號、昭五年一一月三九號

電報料金後納規則左ノ通定ム

電報料金後納規則

第一條　電報料金ハ本令ノ定ムル所ニ依リ後納ト爲スコトヲ得但シ外國電報ハ發信人カ官廳ナル場合ニ限ル

第二條　電報料金後納ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ同一局ニ於テ一月百通以上頼信スル者ニ限ル但シ其ノ取扱ヲ受ケヘキ者官廳ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　料金後納電報ノ取扱ヲ爲スヘキ郵便局ハ別ニ之ヲ告示ス

第四條　電報料金後納ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ其ノ旨記載シタル書

面ヲ其ノ取扱ヲ受ケムトスル所在地ノ郵便局ニ差出シ電報料金後納帳ノ交付ヲ受クヘシ

第五條　官廳以外ノ者ニシテ電報料金後納ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ其ノ取扱ヲ受ケムトスル所在地ノ郵便局ヲ經テ樺太廳長官ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

一　後納ヲ要スル理由

二　一月ノ發信電報見込通數

三　一月ノ發信電報料金見込額

第六條　前條ニ依リ認可ヲ受ケタル者ハ當該郵便局ノ指示セル期日迄ニ保證金ヲ納付スヘシ但シ樺太廳長官ニ於テ其ノ必要ナシト認メタル場合ハ此ノ限ニアラス

第七條　保證金額ハ申請者ノ發信シタル一月ノ電報料金額ヲ標準トシ當該郵便局ニ於テ之ヲ定ム但シ發信電報料金ノ增減ニ依リ隨時之ヲ改定スルコトアルヘシ

第八條　電報料金後納者ニ於テ電報ヲ組信セムトスルトキハ電報料金後納帳ヲ差出シ相當事項ノ記入ヲ受クヘシ

第八條ノ二　前條ノ取扱ヲ爲シタルトキハ電報料金後納取扱料（以下單ニ取扱料ト稱ス）トシテ電報一通ニ付金三錢ヲ附課ス

第九條　後納電報料金（取扱料ヲ含ム以下同シ）ハ其ノ取扱ヲ受ケタル郵便局ノ通告ニ依リ當月分ヲ翌月二十日迄ニ通貨ヲ以テ納付スヘシ但シ其ノ取扱ヲ廢止シタルトキ又ハ認可ヲ取消サレタルトキハ當該郵便局ノ指示スル期日迄ニ之ヲ納付スヘシ

前項ノ料金ハ總テ電報料金後納帳ニ依リ精算ス

第十條　後納電報料金ヲ期日迄ニ納付セサル者アルトキハ滯納ノ期間其ノ取扱ヲ停止スルコトアルヘシ

第七條但書ニ依リ保證金追納ヲ要スル場合郵便局ノ指示スル期日迄ニ納付セサルトキ亦前項ニ同シ

第十一條　官廳以外ノ者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ電報料金後納取扱ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

一　前條ノ滯納期間一月以上ニ及ヒタルトキ

二　前條ノ停止度數一年三回以上ニ及ヒタルトキ

三　一月ノ發信電報通數カ三月間引續キ第二條ノ制限ニ達セサルトキ

前項ノ場合ニ於テ後納電報料金ノ未納アルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充テ尙不足アルトキハ之ヲ追徵ス

第十二條　電報料金後納ノ取扱ヲ廢止セムトスルトキハ電報料金後納帳ヲ添ヘ其ノ旨當該郵便局ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ後納電報料金ノ未納アルトキハ其ノ料金ヲ納付シタル後ニ非サレハ保證金ヲ還付セス

第十三條　明治三十三年九月遞信省令第四十六號電報規則第四十三條、第五十九條第三項、第六十條、第八十五條、第百十條第二項、第百十二條第二項、第百七十四條乃至第百七十五條ノ二及第百八十三條ニ依リ納付スヘキ料金ハ本令ニ依リ後納スルコトヲ得ス

第十四條　本令ハ明治三十三年九月遞信省令第四十六條電報規則第五十三條乃至第五十五條及第百十九條ニ依リ差出ス電報ニハ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔棒法〕

●電報料金後納取扱規程

大正八年十月二十一日
遞訓令第六十六號

改正　大一五年三月訓令二八號、昭二年一二月五二五號、五年一一月閣三四號

内務部　郵便局

電報料金後納取扱規程左ノ通定ム

電報料金後納取扱規程

第一條　郵便局ニ於テ官廳ヨリ電報料金後納取扱ノ請求書ヲ受理シタルトキハ電報料金後納帳ヲ交付スヘシ官廳以外ノ者ヨリ電報料金後納取扱ノ申請書ヲ受理シタルトキハ申請書記載事項ノ外尙左記事項ヲ調査シ樺太廳長官ニ提出スヘシ

一　申請者ノ職業、身元及資力

二　後納取扱ノ要否

第二條　前條第二項ノ申請ヲ認可シタルトキハ其ノ旨當該郵便局ニ通知ス

郵便局ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ別表ニ依リ保證金額ヲ定メ併セテ之ヲ申請者ニ通知スヘシ

第三條　郵便局ニ於テ保證金ノ納付ヲ受ケタルトキハ電報料金後納帳ヲ交付スヘシ

第四條　電報料金後納帳ハ必要ト認ムル場合ノ外一冊ヲ限リ交付スヘシ

若シ其ノ電報料金後納帳ヲ亡失毀損又ハ汚斑シ再度交付ヲ要スルトキハ精算未濟ノ電報料金及電報料金後納取扱料金（以下單ニ取扱料ト稱ス）ノ各合計額ヲ記入シ且再度交付ノ旨ヲ表紙裏面ニ記載シテ之ヲ交付スヘシ

第五條　後納電報料金月計額著シク保證金額ヲ超過シタルトキ其ノ電報料金ノ增加カ一時的ノモノニ非スシテ保證金改定ノ要アリト認メタルトキハ直ニ相當額ニ改メ電報料金後納者ニ通知スヘシ

第六條　郵便局ニ於テ料金後納電報ヲ受付ケタルトキハ其ノ都度電報料金後納帳ニ必要事項ヲ記載シ取扱者認印ノ上之ヲ交付スヘシ

第七條　電報料金後納者ヨリ徵收スヘキ電報料金（取扱料ヲ含ム以下同シ）ハ翌月十日迄ニ之ヲ精算シ納入告知書ヲ發スヘシ但シ其ノ取扱ヲ受クルコトヲ廢止シ又ハ認可ヲ取消サレタル場合ニ於テ保證金ヲ電報料金ニ充當スルモ尙不足アルトキハ直ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　後納電報料金又ハ追納スヘキ保證金ヲ期日迄ニ納付セサルトキハ電報料金後納ノ取扱ヲ停止シ其ノ旨電報料金後納者ニ通告スヘシ

第九條　郵便局ハ左ノ場合ニ於テ其ノ事項ヲ遞滯ナク樺太廳内務部ニ報告スヘシ

一　電報料金後納取扱ヲ開始シ又ハ停止シタルトキ若ハ廢止ノ屆出アリタルトキ

二　保證金額ヲ定メタルトキ又ハ之ヲ改定シタルトキ

第十條　料金後納電報ハ總テ其ノ料金納付濟ノモノトシテ一般電報同樣處理スルノ外郵便切手欄ニ後納ト朱書シ且後納料金額（取扱料ヲ含ム）ヲ記載スヘシ

第十一條　料金後納電報ノ件名表記載方ハ明治三十九年三月遞信大臣公達第百二十七號電報書類處理規程第五號書式中託送電報ノ例ニ依ル但シ一部後納ノモノハ摘要欄ニ一部ト附記シ料金ハ後納額（上段）ト其ノ他（下段）トニ分チ記載スヘシ

〔棒法〕

第十二條　本令ニ依リ使用スヘキ帳簿及書類ノ名稱竝其ノ保存期間左ノ如シ

名稱	保存期間
電報料金後納帳	五年
電報料金後納ニ關シ公衆ヨリ提出シタル請求書及屆書類	六月
使用濟帳簿用紙類整理簿	永久

第十三條　前條ノ帳簿及書類ノ保存竝整理方ニ關シテハ明治四十四年一月遞信大臣公達第三十五號電信電話式紙帳簿類保存規程ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別　表

	保證金算定標準	同上保證金額
一一月ノ電報料金見込額	十五圓未滿	二十圓
	十五圓以上二十圓未滿	三十圓
	以上五圓未滿ヲ增ス每ニ十圓ヲ加算ス	
二特殊ノ事由ニ依リ前項算出額ヲ不適當トスルモノニ對シテハ其ノ事由ヲ照ラシ特ニ該算出額ヲ適宜增減スルコトヲ得		

●後納電報取扱局指定ノ件

大正八年十月二十一日
告示第百五十三號

電報料金後納規則第三條ニ依ル料金後納電報ノ取扱ヲ爲スヘキ郵便局左ノ如シ

豐原郵便局
大泊郵便局
眞岡郵便局
泊居郵便局

●氣象局報取扱規程

昭和六年九月十日
訓令第二百五號

改正　昭六年一〇月訓令二四九號、七年七月一五六號

內務部　郵便局

氣象局報取扱規程左ノ通定ム

氣象局報取扱規程

第一條　樺太廳觀測所（以下單ニ觀測所ト稱ス）ニ發著スル定時氣象電報、臨時氣象電報、警報氣象電報及豫報氣象電報ハ本令ニ據リ局報トシテ取扱フコトヲ得

第二條　定時氣象電報トハ觀測所ニ於テ樺太廳觀測所支所（以下單ニ支所ト稱ス）ヨリ發スル午前六時、正午及午後六時ノ觀測ヲ報スル電報

〔樺法〕

ヲ謂フ（字數午前六時式二十四字又ハ二十七字、正午及午後六時式十八字）

第三條　臨時氣象電報トハ左ノ場合支所又ハ簡易氣象觀測所ヨリ觀測所ニ宛テ發スル電報ヲ謂フ（字數一、二號十三字、三號支所ヨリ發スル場合ハ九字、簡易氣象觀測所ヨリ發スル場合ハ七字、四號十二字）

一、暴風雨警戒中氣壓最低ニ達シタルトキ
二、最低氣壓七四〇粍以下トナリタルトキ
三、地震アリタルトキ
四、初霜、初雪アリタルトキ

第四條　警報氣象電報トハ左記二種ノ電報ヲ謂フ

一、觀測所ニ於テ暴風警報ヲ發布シ又ハ解除シタルトキ警報氣象電報受信所ニ宛テ發スルモノ（字數六字又ハ二字）
二、觀測所ニ於テ霜害（凍害）ノ虞アルトキ霜害（凍害）警報氣象電報受信所ニ宛テ發スルモノ（字數四字）

第五條　豫報氣象電報トハ觀測所ニ於テ本島內ニ發現スヘキ天氣及午前六時ノ氣壓配置ノ實況等ヲ報スル左記三種ノ電報ヲ謂フ

イ式　豫報氣象電報受信所（各支所、樺太廳、樺太廳中央試驗所及水產部ヲ除ク）ニ宛テ發スルモノ（字數八字）
ロ式　各支所ニ宛テ發スルモノ（字數百三十字）
ハ式　樺太廳、樺太廳中央試驗所及水產部ニ宛テ發スルモノ（字數二十九字）

第六條　氣象局報ヲ發受スル箇所及簡易氣象觀測所ハ別ニ之ヲ定ム

第七條　定時氣象電報ニシテ其ノ觀測定時後三十分ヲ過キテ差出シタルモノハ之ヲ局報トシテ取扱フヲ得サルモノトス

第八條　氣象局報ノ名宛ハ左ノ略名ヲ以テ記載スヘシ

名宛	略名
觀測所	カンソク
各支所	シシヨ
各警報氣象電報受信所	ケイホ
各豫報氣象電報受信所	ヨホウ

第九條　各支所、各警報氣象電報受信所及各豫報氣象電報受信所宛氣象局報ハ別ニ定ムル分送表ニ依リ之ヲ分送スヘシ

第十條　氣象局報取扱ニ關シ本令ニ明文ナキモノハ明治三十三年九月遞信省公達第四百三十號電報取扱規程ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
氣象局報取扱規程ハ之ヲ廢止ス

〔樺法〕

●氣象局報ヲ發受スヘキ箇所

大正十五年七月
告示第百五十號

改正　昭四年一二月告示二五六號、五年四月四七號、一二月二五五號、六年一〇月二一二號、七年七月一五五號

氣象局報ヲ發受スヘキ箇所左ノ通定メ大正十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年十一月告示第二百十四號ハ之ヲ廢止ス

一　定期氣象電報發信所

午前六時式　正午式　午後六時式

本斗、眞岡、落合、敷香、安別各觀測所支所

二　臨時氣象電報發信所

各觀測所支所

各簡易觀測所

三　警報警報氣象電報受信所

各觀測所支所

樺太廳

樺太廳中央試驗所及水產部

元泊、泊居各支廳及鵜城出張所

野田警察署

各町村役場（觀測所及觀測所支所所在地竝元泊、野田、泊居、鵜城、豐原ヲ除ク）

四　霜害（凍害）警報電報受信所

各觀測所支所

樺太廳

樺太廳中央試驗所及水產部

泊居、元泊支廳及留多加、鵜城出張所

各町村役場（豐原、落合、大泊、留多加、本斗、眞岡、泊居、鵜城、元泊、敷香ヲ除ク）

●電話至急開通ヲ抽籤ニ附スル場合ノ件

大正十二年六月十日
遞令第三十二號

大正十二年六月遞信省令第五十號電話至急開通規則第五條第一項第二號ニ依リ抽籤ニ附スヘキモノハ樺太廳長官ニ於テ當該郵便局ノ開通豫定數ノ二倍以內ヲ調査選定ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●寄附開通電話加入名義變更等ニ關スル件

大正十五年五月五日
遞令第十號

電話規則第十一條第五號同第二十一條第二項第五號及電話至急開通規則ニ依リ開通シタル電話ニ對シ電話至急開通規則第十六條ノ規定ヲ適用スル場合同條五年ノ制限ハ樺太ニ在リテハ之ヲ二年トス

本令ハ大正十五年度開通ノモノヨリ之ヲ適用ス

〔樺法〕

●電話又ハ郵便電信ニ關シ緊急ヲ要スル場合ニ限リ無料通話ノ件

明治四十年七月三十一日
遞訓令第百十三號

〔樺太廳郵便電信局〕

電話事務又ハ郵便電信事務ニ關シ緊急ヲ要スル場合ニ限リ其ノ使用ニ屬スル電話機又ハ電話所ノ電話機ニ依リ無料ニテ通話ヲナスコトヲ得但シ電話交換市外線路ニ依ル無料電話通信ハ交換上特ニ緊急ヲ要スル場合ノミニ限ルモノトス

電話及電話通話ニ關スル料金

一　電話料

土地ノ種別		甲地	乙地
電話使用料年額	單獨加入	六十八圓	六十四圓
	共同線加入	五十二圓	四十八圓
	連接加入	三十圓	三十圓
加入登記料	單獨加入及共同線加入	十三圓	十圓
	連接加入	七圓	五圓
名義書換料	加入申込者名義加入者名義	二圓	二圓
		五圓	四圓
電話番號簿掲載料年額	單複掲載一ケ所每ニ	四圓	三圓
	他人名義掲載	十二圓	十圓

土地ノ種別		丙地	丁地	戊地
電話使用料年額	單獨加入	六十圓	五十六圓	五十二圓
	共同線加入	四十四圓	四十圓	三十六圓
	連接加入	三十圓	三十圓	三十圓
加入登記料	單獨加入及共同線加入	七圓	七圓	五圓
	連接加入	三圓	三圓	三圓
名義書換料	加入申込者名義加入者名義	一圓	一圓	一圓
		三圓	三圓	三圓
電話番號簿掲載料年額	單複掲載一ケ所每ニ	二圓	二圓	二圓
	他人名義掲載	八圓	八圓	八圓

前項土地ノ種別ハ左記ノ標準ニ依リ該地ノ交換ニ關スル有料加入者數ニ應シ之ヲ定メ別ニ告示ス

●電話及電話通話ニ關スル料金ノ件

大正八年五月二十一日
遞令第十三號

改正　大九年六月遞令一三號、昭三年四月九號、六年八月三三號、八年五月一五號

本令ニ定ムルモノノ外大正八年四月遞信省令第九號電話規則及大正三年十月同省令第三十八號電話通話規則ニ依ル

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年六月樺太廳令第五十七號電話規則ハ之ヲ廢止ス

〔樺法〕

甲地　加入者八百以上
乙地　同　六百以上
丙地　同　四百以上
丁地　加入者二百以上百九十九以下
戊地　同

二　通話料

通話區域		普通通話料一通話時毎ニ	夜間普通通話料一通話時毎ニ	通話取消料一回毎ニ	呼出料一回毎ニ
市内	四キロメートル以内	五十錢	—	定時通話 三錢	五錢
	十二キロメートル以内	二十五錢	—	其ノ他ノ通話 五錢	十錢
	二十キロメートル以内		—		
市外	四十キロメートル以内	三十五錢	二十五錢	三錢	五錢
	六十キロメートル以内	四十五錢	三十五錢	五錢	十錢
	八十キロメートル以内				
	百キロメートル以内				
	百二十キロメートル以内	五十錢	四十五錢	十錢	二十錢
	百四十キロメートル以内				
	百六十キロメートル以内	六十五錢	五十錢	十五錢	三十錢
	百八十キロメートル以内				
	二百キロメートル以内	七十錢	六十錢	十錢	二十錢
	二百二十キロメートル以内				
	二百四十キロメートル以内	八十錢			
	二百六十キロメートル以内	九十五錢	七十錢	二十錢	四十錢
	二百八十キロメートル以内				
	三百キロメートル以内	一圓			
	三百二十キロメートル以内	一圓十錢	八十錢	二十五錢	
	三百四十キロメートル以内	一圓二十錢			
	三百六十キロメートル以内	一圓三十錢	九十錢		
	三百八十キロメートル以内	一圓四十錢			
	四百キロメートル以内	一圓六十錢	一圓二十錢		
	其ノ他				

●電話使用料等ニ關スル土地種別

大正九年六月二十三日
告示第七十七號

改正　大一二年三月告示二一三號、一三年三月三五號、昭二年三月二一號、三年一二月二七〇號、六年九月一八一號

大正八年五月樺太廳令第十三號ニ依リ電話使用料、電話加入登記料、名義書換料及電話番號簿掲載料ニ關スル土地種別左ノ通定メ大正九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

地名	土地種別
大泊	甲地
豐原	甲地
眞岡	丙地
泊居	丁地

●特設電話料金据置ノ件

大正十三年三月三十日
廳令第五號

特設電話ニ關スル料金ハ當分ノ内從前ノ通トス

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五節　雜則

●特定局長會規程

昭和三年一月二十三日
訓令第九號

内務部郵便局（特定ニ非サル局ヲ除ク）

特定局長會規程左ノ通定ム

右訓令ス

特定局長會規程

第一條　特定郵便局長其ノ業務上ニ關シ集會ヲ爲シ又ハ共同シテ必要ナル事項ヲ行ハムトスルトキハ本令ニ依リ會則ヲ設ケ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ中止變更又ハ廢止セムトスルトキ亦同シ

第二條　會ノ名稱ハ樺太廳特定局長會ト稱スヘシ

第三條　每會開會日數ハ五日以内トス但シ樺太廳長官ノ承認ヲ受ケ之ヲ延伸スルコトヲ得

第四條　開會セムトスルトキハ會期及會場ヲ定メ開會二十日前ニ之ヲ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第五條　集會ノ狀況ハ閉會後二十日以内ニ樺太廳長官ニ之ヲ報告スヘシ

第六條　特定局長會ニ於テ決議シタル事項ヲ施行セムトスルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　特定局長會ハ業務上ニ關シ樺太廳長官ニ建議スルコトヲ得建議書ハ附錄樣式ニ依ルヘシ

第八條　特定局長會ハ樺太廳長官ノ諮問ニ答申スヘシ

第九條　特定局長事故ノ爲會議ニ出席シ難キトキハ其ノ局通信事務員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第十條　特定局長會ニ關スル費用ハ其ノ會ノ負擔タルヘシ

第十一條　特定局長會ヨリ差出ス書類ハ會長ノ名義ヲ用ウヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附錄樣式

番號　　建議書

年月日　　特定局長會長　職氏名

棒太廳長官宛

特定局長會決議事項建議ノ件

右別紙事項書ノ通及建議候

（別紙事項書）

一、何々（建議事項ノ要點ヲ簡明ニ記載スヘシ）

理由何々（建議ノ理由ヲ簡明ニ記載スヘシ）

備考

事項書ハ一事件毎ニ別葉ト爲スヘシ

●通信手規則

明治四十年四月一日
遞訓令第三十四號

改正　明四二年六月遞訓令一一二號、四四年六月一五號、大八年一〇月六三號、九年九月四八號、一〇年一月五號、一四年三月訓令二一號、昭二年九月四〇六號、三年五月三二〇號、六年五月一二三號、七年一二月三〇七號

内務部　郵便局

通信手規則

第一章　通則

第一條　棒太廳郵便局ニ通信手ヲ置ク其ノ定員ハ別ニ之ヲ定ム

第二條　通信手ハ別ニ指定スルモノノ外郵便物ノ集配、遞送、護送、看守及積卸、郵便物、郵便行嚢ノ荷造及運搬室内ニ於ケル、電報配達、運搬ヲ含ム前納通話券送達、郵便貯金通帳ノ受授、集金郵便ニ依ル現金取立、簡易生命保險及郵便年金事務ニ關スル郵便振替貯金取扱、郵便電信ニ關スル料金取立ノ職務ニ從事ス

第二條ノ二　通信手ハ當該局長之ヲ命免ス

第二章　採用

第三條　通信手ハ左記各號ノ資格ヲ具備スル者ニ限ル

一　年齡十五年以上五十五年以下ノ男子

電報配達ニ從事セシムヘキ通信手ハ滿十三年以上ノ者ヲ採用スルコトヲ得局務ノ狀況ニ依リ輕易ナル職務ニ從事セシムヘキ通信手ニ限リ女子ヲ採用スルコトヲ得

二　身體强健性質實直ニシテ職務ニ堪ユヘキ能力ヲ有スル者

三　確實ナル身元引受人ヲ有スル者

〔棒法〕

通信手ニシテ在職中年齡滿五十五年ヲ超ユルモ其ノ職務ニ堪ユル者ハ繼續使役スルコトヲ得

第四條　左記各號ノ一ニ該當スルモノハ通信手ニ採用スルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　故意ヲ以テ郵便電信電話ニ關スル罪ヲ犯シタル者

三　遞信省ニ於テ定メタル遞送人、集配人又ハ郵便夫服務規則ニ違背シ解職セラレ一箇年ヲ經サル者

第五條　通信手ヲ採用スルトキハ左ノ書類ヲ差出サシムヘシ

一　履歷書（書式適宜）

二　身元引受書（別紙書式）

身元引受人ヲ變更スルトキハ更ニ前項第二號ノ書類ヲ差出サシムヘシ

第六條　左記各號ニ該當スルモノハ通信手ノ身元引受人ト爲サシムルコトヲ得ス

一　第四條ニ該當スル者

二　所屬局所在地又ハ其ノ近傍ニ居住セサル者

三　獨立ノ家計ヲ營マサル者

四　當該局長ニ於テ不適當ト認ムル者

第七條　臨時補充スル爲一時限リ雇入スル者ハ當該局長ニ於テ適當ト認ムル者ニ限リ第四條ニ據ラス採用スルコトヲ得

第三章　使役

第八條　通信手ハ各業務共通使役ヲ本則トス但シ實際ノ狀況ニ依リ之レニ依ラサルコトヲ得

通信手ノ服務方法及時間ハ所屬局長之ヲ指定ス

第二十類　通信　電氣　瓦斯　第一章　通信

第九條　通信手ハ各其ノ日擔當ノ服務ヲ始ムル時刻ノ三十分前迄ニ出勤セシメ其擔當ノ服務ヲ了リタル時退局セシムヘシ但シ遞送ニ從事スル通信手ニシテ一便ノ服務ヲ了リタル後更ニ他ノ職ニ服務セシムル場合休息三時間以上ニ渉ル時ハ一時退局セシムルコトヲ得

第十條　通信手ノ服裝及帶具ハ左記ノ區別ニ依リ其ノ正否ヲ點檢スヘシ

一　郵便物取集ニ從事スル通信手ハ出發五分前

二　郵便物配達ニ從事スル通信手ハ出發三十分前

三　郵便物遞送ニ從事スル通信手ハ出發十分前

四　前項以外ノ業務ニ從事スル通信手ハ每日其ノ業務從事前

第十一條　通信手ニハ服務ニ手帳ヲ交附シ郵便物集聚配達及電報配達途中ニ係ル事故ニシテ復命スヘキ要件ヲ記載セシムヘシ

第十二條　（削除）

第十三條　電報配達ハ郵便物集配又ハ遞送ト兼行スヘカラス但シ連達ノ見込アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　通信手郵便物遞送集配及電報配達ノ服務ヲ終リ歸局シタルトキハ其ノ都度時刻ヲ調査シ若定時間ヲ通過遲延シタル者アルトキハ事由ヲ審査スヘシ

第十五條　通信手取締ノ爲取締役ヲ置ク但シ人員少ナキ局ハ置カサルコトヲ得

取締役ノ定員ハ別ニ定ム

取締役ノ服務ハ左ノ如シ

一　通信手ニ服務ノ手續ヲ指示スル事

二　服制其他職務上必要物品ノ配給保存ヲ注意スル事

〔棒法〕

三　通信手控所ノ取締ヲナス事
四　通信手ノ勤惰及品行衛生ニ注意スル事
五　通信手ノ親睦ヲ保持スル事

第十六條　取締役ハ通信手本分ノ職務ニ關シ他ノ通信手ニ異ナルコトナシ

第十七條　通信手徹夜勤務ノ場合ハ事務ノ都合ニ依リ休養ヲ與フルコトヲ得

第十八條　通信手ニハ凡ソ十日以上ニ付一日以内ノ割合ヲ以テ休暇ヲ與フルコトヲ得

第十九條　通信手ニシテ滿一箇年以上皆勤スルトキハ慰勞トシテ皆勤日數滿一箇年ニ付六日以内ノ慰勞休暇ヲ與フルコトヲ得
慰勞休暇ハ本人ノ願ニ依リ所屬局長之ヲ許可ス但シ事務ノ都合ニ依リ分割付與スルコトヲ得

第二十條　（削除）

第二十一條　（削除）

第四章　給與

第二十二條　通信手等級給料左ノ如シ

等級		一等	二等
給料		日給貳圓四拾錢以上 同　參圓以下	日給貳圓壹錢以上 同　貳圓四拾錢以下
		三等	四等
		日給壹圓六拾壹錢以上 同　貳圓以下	日給壹圓四拾壹錢以上 同　壹圓六拾錢以下
		五等	六等

	日給壹圓貳拾壹錢以上 同　壹圓四拾錢以下	日給 壹圓貳拾錢以下

通信手ニシテ一等最高級ヲ受ケ成績拔群滿二ケ年ヲ經過シタル者ハ日給三圓五十錢迄ヲ給與スルコトヲ得

第二十三條　二等以上ノ通信手ハ現給ヲ受ケタル後滿六月以上ヲ經過スルニアラサレハ昇等スルコトヲ得ス

第二十四條　通信手ノ初任等級ハ二等以下トス但シ郵便、電信又ハ電話官署ニ於テ一年以上通信業務ニ從事シタル經歷アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　取締役ニハ在役中役俸トシテ一月金三圓ヲ給與ス
取締役役俸ヲ受クル者月ノ中途ニ於テ死亡又ハ退職シタルトキ若ハ異動又ハ缺勤シタルトキハ其ノ役俸ハ日割計算ヲ以テ之ヲ支給ス但シ給料ヲ支給スヘキ缺勤ニ在リテハ取締役俸モ之ヲ支給ス

第二十六條　通信手特ニ命セラレ火災其ノ他ノ災害警防ニ從事シタルトキハ一日金一圓五十錢以内ヲ加給ス

第二十七條　通信手滿三年以上勤續シ服務成績良好ナル者ニハ其ノ勤續年數ニ應シ左ノ區別ニ依リ年功加給ヲ給與スルコトヲ得

	月額
三年以上五年以上	二圓
同　七年以上	二圓五十錢
同　十年以上	三圓
同　十五年以上	三圓五十錢
同　二十年以上	四圓
同	四圓五十錢

〔縱法〕

年功加給ハ毎年三月、六月、九月及十二月末日ノ現在ヲ以テ調査シ翌月以後毎月給與支給當日ニ於テ之ヲ支給ス
年功加給ハ給與後ニ於ケル服務ノ成績ニ依リ期間ヲ限リ又ハ期間ヲ限ラスシテ其ノ給與ヲ停止スルコトヲ得年功加給ノ給與ヲ受クル者引續キ勤務セサルコト三十日ヲ超ユルトキハ三十日ヲ超エタル日ヨリ出勤ノ前日迄年功加給ノ給與ヲ停止ス但シ囑託員雇員傭人給與規則第五條ニ依リ勤務日數ニ算入スヘキ日數ハ之ヲ通算スルノ限ニ在ラス

第二十八條　年功加給ハ月ノ中途ニ於テ退職（轉屬ノ爲退職ヲ含ム）又ハ死亡シタルトキ若ハ其ノ給與ヲ停止シ又ハ停止ヲ解除シタルトキハ日割計算ヲ以テ之ヲ支給ス
前項ノ死亡又ハ退職者ニ對スル年功加給ハ支給定日ヲ俟タス其ノ都度之ヲ支給ス

第二十九條　局ノ廢合又ハ事務ノ都合ニ依リ解職シタル通信手ヲ六十日以内ニ再ヒ採用シタルトキハ前後ノ年月ヲ通算シ勤續ト看做ス兵役ヲ終リタル後六十日以内ニ再ヒ採用シタル場合亦同シ
前項ニ依リ勤續ト看做サレタル者ニシテ解職前年功加給ノ給與ヲ受ケタル者ニ對シテハ直ニ第二十七條ニ依ル相當額ノ年功加給ヲ給與スルコトヲ得但シ再採用ノ日カ月ノ中途ニ在ルトキハ當月分ハ日割計算ヲ以テ之ヲ支給ス

第三十條　通信手缺員又ハ缺勤ノ爲補充ヲ要スルトキ其ノ他必要アルトキハ臨時通信手ヲ傭役シ又ハ休暇ノ通信手ヲ臨時使役スルコトヲ得
臨時通信手給料ハ日給二圓五十錢以内トス
休暇ノ通信手ヲ臨時使役スルトキハ本給與ノ外別ニ日給相當ノ額ヲ給與ス

〔縱法〕

第三十一條　通信手ニシテ通常道路郵便線路ノ郵便物遞送又ハ郵便物集配電報配達ノ爲勤務局所在地外ニ宿泊シタル場合ハ手當トシテ日當一日ニ付金五十錢宿泊料一夜ニ付金二圓ヲ支給ス

第三十二條　通信手職務ニ勉勵シ滿三年以上勤續ノ後退職又ハ死亡シタルトキハ左記ノ區別ニ依リ在職慰勞手當ヲ給與スルコトヲ得但シ一旦在職慰勞手當ノ給與ヲ受ケタル者ハ再ヒ採用ノ日ヨリ其ノ勤續年數ヲ起算ス

一、郵便局

イ、勤續滿三年以上十年未滿	一年ニ付現日給月額ノ百分ノ二十
ロ、勤續滿十年以上二十年未滿	十年目ヨリ一年ニ付現日給月額ノ百分ノ二十五ヲ前號ノ金額ニ加算ス
ハ、勤續滿二十年以上	二十年目ヨリ一年ニ付現日給月額ノ百分ノ三十ヲ前二號ノ金額ニ加額ス

二、特定郵便局

イ、勤續年數滿十五年未滿ハ一年ニ付金四圓	
ロ、勤續年數滿十五年以上ハ一年ニ付金六圓	

前項ノ在職年數ハ月ヲ以テ計算ス
左ニ該當スル者ハ各其ノ區別ニ依リ給與額ヲ增額スルコトヲ得
一、傷痍疾病又ハ身體衰弱ニ依リ其ノ職ニ堪ヘス辭職シタル者算出手

當額百分ノ十五以内

二、局ノ廢合又ハ定員ノ整理其ノ他事務上ノ都合ニ依リ解職シタル者　算出手當額百分ノ二十以内

三、死亡シタル者算出手當額百分ノ二十五以内

特殊ノ事由アル者ニハ前項各號ニ依ラス百分ノ四十以内ニ於テ增額スルコトヲ得

第三十三條　前條ニ依ル死亡者ノ在職慰勞手當給與方ニ付テハ通信屬員規則第二十六條及第二十七條ヲ準用ス

第三十四條　在職慰勞手當ヲ給與スヘキ場合ハ事實ヲ詳具シ申請スヘシ

第三十四條ノ二　本章中勤務年數ノ計算ニ付テハ臨時通信手タリシ期間ヲ算入セス

第三十四條ノ三　本章ニ規定セサル事項ハ囑託員雇員傭人給與規則ニ準據スヘシ

第五章　雜則

第三十五條　通信手左記各號ノ一ニ該當スル所爲アリト認メタルトキハ當該局長事實ヲ審査シ免職減給又ハ譴責處分ヲ爲スヘシ但シ特別郵便局ニ於テハ指揮ヲ受ケ執行スヘシ

處分執行ノ上ハ別ニ定ムル手續ニ依リ其ノ都度囘報スヘシ

一　故意ヲ以テ通信ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ

二　禁錮以上ノ刑ニ當ル罪ヲ犯シタルトキ

三　服務上ノ規定ニ違背シタルトキ

四　職務ヲ怠リタルトキ

五　其ノ他事業ノ信用ヲ傷ケ又ハ傷ケントシタルトキ

前項ニ依リ處分スヘキ者其ノ處分ニ先チ死亡又ハ退職シタルトキハ處分ヲ爲スノ限リニアラス

第三十六條　本規程中第十五條乃至第三十一條ハ特定郵便局ニ之ヲ適用セス

第三十七條　通信手ハ各其ノ職務ノ區別ニ從ヒ郵便物ノ輸送ニ付テハ明治三十三年九月遞信省公達第四百七十六號遞送人服務規則ヲ、郵便物集配、電報配達ニ付テハ明治二十年五月遞信省公達第百號集配人服務規則ヲ、郵便物ノ荷造其ノ他ニ付テハ明治三十年三月遞信省公達第二百二十五號郵便夫服務規則ヲ準用ス

附　則　（昭和二年勅令第四百六號）

本令ハ昭和二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ルモノハ別ニ辭令ヲ須キス改正職名ニ變更セラレタルモノトス

（別紙書式）

通信手身元引受證

本籍　何々

現住所　何々

戸主又ハ戸主某長男次男等

族籍

氏名　生年月日

右之者通信手ニ御採用被成下候ニ付テハ私儀身元引受人ニ相立本人ヲシテ御規則堅ク相守リ誠實ニ勤務爲致且本人ニ關スル一切ノ事件ハ自

〔棒法〕

今私ニ於テ引受可申候也

年　月　日

棒太廳何々

族籍

身元引受人　氏名印

何郵便局長宛

●通信工手同見習及通信技工規則

明治四十年四月一日
遞訓令第三十五號

改正　（前略）大九年九月遞訓令五〇號、一〇年一月六號、五月三五號、九月五五號、一一年四月五四號、六月七三號、一二月一〇八號、一三年四月二四號、一四年三月二二號、九月一九號、一五年一二月三六號、昭二年九月四〇四號、四七〇號、五年五月一八四號、七年六月一三九號、八年八月四一號

内務部　郵便局

通信工手同見習及通信技工規則

第一章　通則

第一條　棒太廳内務部ニ通信工手、同見習及通信技工ヲ置ク其ノ定員ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　採用

第二條　通信工手、同見習及通信技工ニ採用スヘキ者ハ左記各號ノ資格ヲ具備スル者ニ限ル但シ第四號ハ通信工手ニ第五號ハ通信技工ノミニ適用ス

一　年齡滿十八年以上滿五十年以下ノ男子ニシテ身元正シク性質實直

普通ノ能力ヲ有スル者但シ通信工手見習ニ採用ス可キ者ハ年齡滿十六年以上ノ者ヲ採用スルコトヲ得

二　身體强壯ニシテ品行方正ナル者

三　平易ノ普信文ヲ綴リ得ル者

四　滿六箇月以上通信工手見習ヲ經タル者但シ遞信省ノ通信工手ヲ奉職シタル者其ノ他電氣工業上相當ノ經歷アル者ハ此ノ限ニ在ラス

五　電信電話器械物品ヲ修繕スルニ適當ナル技倆アル者

六　確實ナル身元引受人アル者

第三條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ通信工手、同見習及通信技工ニ採用スルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　故意ヲ以テ郵便電信電話ニ關スル罪ヲ犯シタル者

三　職務ニ違背シ解職セラレ二箇年ヲ經サル者

第四條　通信工手、同見習及通信技工ヲ採用スルトキハ別紙第一號書式ニ依リ身元引受人ノ證書ヲ徵スヘシ身元引受人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五條　左記各號ニ該當スル者ハ通信技工ニ採用スルモノナルトキハ履歷書ヲ差出サシメ第二條第三號及第五號ノ事項ヲ試驗スヘシ

一　第三條ニ該當スル者

二　棒太内ニ居住セサル者

三　獨立ノ家計ヲ營マサル者

〔棒法〕

四　不適當ト認ムル者

第三章　服務

第六條　通信工手、同見習及通信技工ノ職務ハ左ノ如シ

一　通信工手ハ技術官ノ指揮ヲ受ケ電信電話ノ工事及其ノ線路ノ看守ニ從事スルモノトス

二　通信工手見習ハ通信工手ノ服務ヲ補助ス

三　通信技工ハ技術官ノ指揮ヲ受ケ電信電話機械物品ノ修繕、洗淨及電信電話機械物品ニ關スル他ノ勤務ニ從事スルモノトス

第七條　通信工手、同見習通信技工ハ棒太廳内務部長ノ指定スル本居地ニ住居スヘシ

第八條　通信工手、同見習電信電話線路看守ノ爲巡回スルトキハ精細ニ其ノ線路障害ノ有無ニ注目シ若シ障害アルトキ又ハ障害ノ虞アルトキハ直ニ修理除却シ得ルモノハ速ニ之ヲ執行シ直ニ修理除却シ難キモノハ速ニ技術官ニ報告スヘシ

前項線路ノ障害ヲ修理除却シタルトキハ其ノ實況及日時ヲ記載シ速ニ之ヲ技術官ニ報告スヘシ

第九條　通信工手、同見習ハ電信電話線路非常ノ損害ニ罹リタルトキハ直ニ假修繕ニ著手シ同時ニ其ノ旨ヲ技術官ニ通告スヘシ

第十條　通信工手、同見習及通信技工ハ就業時間外ト雖出火、暴風、出水、地震等非常ノ場合ハ郵便局又ハ現場ニ駐附ケ線路又ハ通信器械等ノ保護ニ從事スヘシ

第十一條　通信工手、同見習ハ電信電話線路看守ノ爲隣路二十四粁以内巡回ノトキハ故ナク途中ニ宿泊スヘカラス

第十二條　通信工手、同見習ハ工業用器械物品ヲ大切ニ取扱ヒ且尋常保守用器械物品ニシテ其ノ保管ニ係ルモノハ本居地ニ於テ技術官ノ指定スル場所ニ之ヲ貯藏スヘシ

通信技工ハ自己ノ保管ニ係ル器械物品ヲ大切ニ取扱ヒ其ノ受拂ヲ正確ニスヘシ

第十三條　通信工手、同見習ハ每月其ノ就業ノ事項及尋常保守用トシテ受領シタル器械物品受拂ノ數額竝使用ノ理由ヲ技術官ニ報告スヘシ

第十四條　通信工手、同見習及通信技工ハ本局地ニ於テ大祭祝日及日曜日ニ當リ電信電話線路及機械ニ異常ナキトキ若ハ事務繁劇ナラサルトキニ限リ技術官ノ許可ヲ得テ休息スルコトヲ得

第四章　給與

第十五條　通信工手及通信技工ノ等級給料左ノ如シ

等級	一等	二等
給料	工手	日給貳圓八拾壹錢以上 同參圓貳拾錢以下 三等	日給貳圓四拾壹錢以上 同貳圓八拾錢以下 四等
	日給貳圓四拾壹錢以上 同貳圓八拾錢以下 三等	日給壹圓八拾壹錢以上 同貳圓以下 四等
	日給壹圓八拾錢以下 五等	
	技工	日給參圓壹錢以上 同參圓六拾錢以下 三等	日給貳圓六拾壹錢以上 同參圓以下 四等
		日給貳圓貳拾壹錢以上 同貳圓六拾錢以下 五等	日給貳圓壹錢以上 同貳圓貳拾錢以下 五等

通信工手見習ノ給料ハ日給一圓八十錢以下トス

通信工手、通信技工ニシテ一等最高級ヲ受ケ勤務拔群滿二年ヲ超エタル者ハ漸次通信工手日給四圓通信技工日給四圓四拾錢迄ヲ給與スルコトヲ得

第十六條　始テ採用スル通信工手ノ等級ハ四等以下トス但遞信省所管ノ通信官署ニ於テ通信業務ニ從事シタル經歷アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　通信工手、同見習、通信技工、臨時通信工手及同技工ノ日給ハ勤務日數ニ應シ前月二十一日ヨリ當月二十日迄ノ分ヲ同月末日迄ニ支給ス但シ年度末及解兌又ハ死亡ノ場合ニ於ケル支給日ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條ノ一　（削除）

第十七條ノ二　（削除）

第十七條ノ三　左記ノ地方ニ駐在ヲ命セラレタル通信工手、同見習及通信技工ニ對シテハ其ノ駐在中左記ノ割合ニ依リ日給ヲ加給ス

所轄支廳	郡名	地名	加給割合
大泊支廳	留多加郡	泥川	一、五
〃	〃	雨龍	〇、五
〃	〃	内砂	一、五
〃	〃	西能登呂	四、〇
本斗支廳	本斗郡	南名好	〇、五
〃	〃	海馬島	二、〇
泊居支廳	久春内郡	珍内	一、〇
〃	鵜城郡	鵜城	一、〇
〃	名好郡	惠須取	一、〇
〃	〃	名好	二、〇
〃	〃	安別	五、〇
敷香支廳	敷香郡	内路	一、〇
〃	〃	敷香	一、〇
〃	〃	保惠	四、〇
〃	〃	氣屯	六、〇
〃	〃	半田澤	八、〇
〃	散江郡	散江	六、〇

前項ノ加給額ハ第二十條ノ在職勤勞手當給與ニ關スル日給額ニ之ヲ算入セス

第十七條ノ四　通信工手及通信技工滿三年以上勤續シ服務成績良好ナル者ニハ其ノ勤續年數ニ應シ左ノ區別ニ依リ年功加給ヲ給與スルコトヲ得

三年以上	月額　二圓
五年以上	同　二圓五十錢

七年以上	同	三	圓
十年以上	同	三圓五十	錢
十五年以上	同	四	圓
二十年以上	同	四圓五十	錢

年功加給ハ毎年三月、六月、九月及十二月末日ノ現在ヲ以テ調査シ翌月以後毎月給料支給當日ニ於テ之ヲ支給ス

年功加給ハ給與後ニ於ケル服務ノ成績ニ依リ期間ヲ限リ又ハ期間ヲ限ラスシテ其ノ給與ヲ停止スルコトヲ得年功加給ノ給與ヲ受クル者引續キ勤務セサルコト三十日ヲ超ユルトキハ三十日ヲ超エタル日ヨリ出勤ノ前日迄年功加給ノ給與ヲ停止ス但シ囑託員雇員傭人給與規則第五條ニ依リ勤務日數ニ算入スヘキ日數ハ之ヲ通算スルノ限ニ在ラス

第十七條ノ五　年功加給ハ月ノ中途ニ於テ退職轉屬ノ爲退又ハ死亡シタルトキ若ハ其ノ給與ヲ停止シ又ハ停止ヲ解除シタルトキハ日割計算ヲ以テ之ヲ支給ス

前項ノ死亡又ハ退職者ニ對スル年功加給ハ支給定日ヲ俟タス其ノ都度之ヲ支給ス

第十七條ノ六　局ノ廢合又ハ事務ノ都合ニ依リ解職シタル通信工手及通信技工ヲ六十日以内ニ再ヒ採用シタルトキハ前後ノ年月ヲ通算シ勤續ト看做ス兵役ヲ終リタル後六十日以内ニ再ヒ採用シタル場合亦同シ

前項ニ依リ勤續ト看做サレタル者ニシテ解職前年功加給ノ給與ヲ受ケタル者ニ對シテハ直ニ第十七條ノ四ニ依ル相當額ノ年功加給ヲ給與スルコトヲ得但シ再ヒ採用ノ日カ月ノ中途ニ在ルトキハ當月分ハ日割計算ヲ以テ之ヲ支給ス

第十八條　通信工手、同見習及通信技工缺員又ハ缺勤ノ爲メ補充ヲ要スルトキ其ノ他工事ニ從事セシムル爲必要アルトキハ臨時工手又ハ技工ヲ使役スルコトヲ得

第十九條　通信工手、同見習及臨時通信工手電信電話線路ノ保守建設竝通信技工及臨時通信技工電信電話機械裝置修繕等ノ爲出張シタルトキハ定額旅費ヲ支給セス左記區別ニ依リ手當ヲ支給ス

一　通信工手、同見習ノ日當ハ一日ニ付金九拾錢宿泊料ハ一夜ニ付金壹圓九拾錢臨時通信工手ノ日當ハ一日ニ付金七拾錢宿泊料ハ一夜ニ付金壹圓五拾錢通信技工ノ日當ハ一日ニ付金壹圓拾錢宿泊料一夜ニ付金貳圓貳拾錢臨時通信技工ノ日當ハ一日ニ付金八拾錢宿泊料ハ一夜ニ付金貳圓但シ安別第二ハムダサ川間ヘ出張シタルトキハ六月ヨリ十月マテハ日當及宿泊料共各其ノ六割十月ヨリ翌年五月マテハ各其ノ十二割ヲ增給ス

二　汽車賃、船賃、車馬賃ハ就業地ニ急行ヲ命シ特ニ汽車賃、船賃、車馬賃等ノ仕拂ヲ要スルトキニ限リ其ノ實費ヲ支給ス　但シ汽車賃、船賃ニ等級アル場合ハ各其ノ最低額ニ依ル

第二十條　通信工手、同見習及通信技工職務ニ勉勵シ滿三年以上勤續ノ後退職又ハ死亡シタルトキハ左記ノ區別ニ依リ在職慰勞手當ヲ給與ス但シ一旦在職慰勞手當ノ給與ヲ受ケタル者ハ再採用ノ月ヨリ其ノ勤續年數ヲ起算ス

一　勤續滿三年以上十年未滿　一年ニ付月額ノ百分三十

二　勤續滿十年以上二十年未滿　十年目ヨリ一年ニ付月額百分三十五ヲ一號ノ金額ニ加算ス

【棒法】

三　勤續滿二十年以上　二十年目ヨリ一年ニ付月額ノ百分四十ヲ一號二號ノ金額ニ加算ス

前項ノ在職年數ハ月ヲ以テ計算ス

左ニ該當スル者ハ其ノ區別ニ依リ給與額ヲ增額スルコトヲ得

一　傷痍疾病又ハ身體衰弱ニ依リ其ノ職ニ堪ヘス辭職シタル者算出手當額百分ノ十五以內

二　局ノ廢合又ハ定員ノ整理其ノ他事務上ノ都合ニ依リ解職シタル者算出手當額百分ノ二十以內

三　死亡シタル者算出手當額百分ノ二十五以內

但シ特別事由アルトキハ百分四十以內

第二十條ノ二　前條ニ依ル死亡者ノ在職慰勞手當給與方ニ付テハ通信屬員規則第二十六條及第二十七條ヲ準用ス

第二十一條　在職慰勞手當ヲ給與スヘキ場合ハ事實ヲ詳具シ申請スヘシ

第二十二條　通信工手、通信技工相互間ノ轉勤ハ勤續ト見做ス

第二十二條ノ二　本章中勤續年數ノ計算ニ付テハ臨時通信工手タリシ期間ヲ算入セス

第二十二條ノ三　本章ニ規定セサル事項ハ囑託員雇員傭人給與規則ニ準據スヘシ

第五章　賞詞

第二十三條　通信工手左記各號ニ該當スルモノハ其ノ名拳ヲ表彰スル爲精勤證書ヲ授與ス

一　品行端正

二　勤務勉勵

三　工業精熟

精勤證書ハ滿三年毎ニ別紙第二號書式ニ依リ棒太廳內務部長之ヲ授與ス

第二十四條　既往三年間ニ左記各號ノ一ニ該當スルモノハ精勤證書ヲ授與スルコトヲ得

一　本規則ニ依リ譴罰セラレタル者

二　五日以上缺勤シタル者

三　身分不相應ノ貴債ヲ爲シ辨償ヲ了ヘサル者

第二十五條　精勤證書ヲ受ケタル者前條ニ該當スルトキハ棒太廳內務部長ハ其ノ情狀ノ輕重ニ依リ證書ノ一葉又ハ數葉ヲ褫奪スルコトヲ得

第二十六條　精勤證書ノ授與ヲ受ケタル者ニハ徽章トシテ白色ノ組紐若ハ手打紐ヲ交付シ帽子ノ下部ニ纏繞セシム其ノ一葉ヲ授與スル毎ニ一線ヲ增シ沒收シタルトキハ亦一葉一線ヲ除去スヘシ

第二十七條　通信工手、同見習、通信技工、臨時通信工手、同技工左記各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ情狀ニ依リ免職、減給又ハ譴責ノ處分ニ付スヘシ

一　故意ヲ以テ通信ニ關スル罪ヲ犯シタルトキ

二　禁錮以上ノ刑ニ當ル罪ヲ犯シタルトキ

三　職務上ノ義務ニ違背シタルトキ

四　職務ヲ怠リタルトキ

五　其ノ他事業ノ信用ヲ傷ケ又ハ傷ケントシタルトキ

前項ニ依リ處分スヘキ者「其ノ處分ニ先チ死亡又ハ退職シタルトキハ處分スルニ及ハス」既ニ減給處分ニ付セラレタル者其ノ減給計理前死亡又ハ退職シタルトキハ其ノ處分ヲ免スルコトヲ得

第二十八條　器械物品ヲ故意怠慢ニ依リ亡失又ハ毀損シタルトキハ前條ニ依リ處分スルノ外相當代價ヲ辨償セシムヘシ

附　則

第二十九條　通信工手勤續滿十五年以上ニ及ヒ年齡滿五十年ニ達シ精勤證書ヲ受領シタル者ハ通信常置看守ニ關スル規定ハ遞信省ニ於テ定メタル規程ヲ準用ス但シ通信常置看守ノ手當ハ年給金八十四圓以下トス

附　則（昭和二年訓令第四百七號）

本令ハ昭和二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ルモノハ別ニ辭令ヲ須井ス改正職名ニ變更セラレタルモノトス

別紙第一號書式

通信工手（通信工手見習、通信技工）身元引受證

本　籍　何々
現住所　何々
戸主又ハ戸主某長男次男等族籍
氏　名　　生年月日

右之者何何ニ御採用被成下候ニ付テハ私儀身元引受人ニ相立本人ヲシテ御規則堅ク相守リ誠實ニ勤務爲致且本人ニ關スル一切ノ事件ハ自今私ニ於テ引受可申候也

樺太廳　何々
族　籍

年　月　日　　身元引受人　氏　名印

樺太廳內務部長宛

別紙第二號書式

島ノ子用紙

通信工手精勤證書

何等通信工手
氏　名　三十歳

品行端正勤務勉勵工業精熟ナルコトヲ證ス

年　月　日

官　氏　名

二十三種

（樺法）

●信使規程

明治四十三年九月三日
廳訓令第三十四號

改正　大元年八月廳訓令三號、七年九月四三號、一一月五八號、九年九月四九號、一〇年一月七號

（第一部）樺太廳郵便局

信使規程

第一條　左ノ樺太廳郵便局ニ信使ヲ置ク但シ其ノ定員ハ別ニ之ヲ定ム

豐原郵便局
大泊郵使局
眞岡郵便局
泊居郵便局

第二條　信使ハ局內ニ於ケル電報及電報用式紙物品ノ配付竝使用濟現字紙ノ取纏其ノ他事務室內ニ於ケル雜務ニ從事スルモノトス

第三條　信使ハ左ノ各號ニ適合スルヲ要ス

一　年齡十二年以上十八年以下ノ者
二　身體强健素行實直ニシテ平易ナル文字ヲ解シ職務ニ堪ユヘキ能力ヲ有スル者
三　身元保證人ヲ有スル者
四　刑罰ヲ受ケサル者

第四條　信使ノ給料ハ日給一圓以下トス

第五條　明治四十年四月樺太廳訓令第三十四號通信夫規則第五條第六條第十八條第二十條第二十一條第三十三條乃至第三十五條ハ之ヲ信使ニ準用ス

附　則

本令ハ發令ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ牴觸スル從前ノ規定ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（樺法）

●電話取扱所電話取扱人規程

昭和二年九月二十一日
訓令第四百一號

改正　昭八年一二月訓二〇〇號

內務部　郵便局所

電話取扱所電話取扱人規程左ノ通定ム

電話取扱所電話取扱人規程

第一條　電話取扱所（以下單ニ電話取扱所ト稱ス）ニ電話取扱人（以下單ニ取扱人ト稱ス）ヲ置ク

第二條　取扱人ハ電話ニ關スル諸規定ニ依リ電話通話ノ事務ヲ取扱フヘシ

第三條　取扱人ハ所屬電話交換取扱郵便局ノ指揮監督ヲ受ケ誠實懇切ニ事務ヲ取扱フヘシ

第四條　取扱人ハ適當ナル電話機設置場所、燈火、燃料ヲ供シ筆墨ヲ備付ル等電話請求者ノ用件ヲ辨スルニ充分ナル設備ヲ爲スヘシ

第五條　取扱人ハ別ニ交付スル物品ニ付最善ノ注意ヲ以テ之ヲ管理スヘシ

第六條　取扱人疎漏懈怠ニ依リ其ノ管理物品ヲ亡失、毀損シタルトキハ之ヲ辨償スヘシ其ノ所傭員ノ所爲ニ出テタルトキ亦同シ

第七條　取扱人ハ退職後ト雖在職中ニ係ル事件ニ付テハ前條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス本人死亡シタルトキハ其ノ責任相續人ニ歸スルモノトス

第八條　取扱人ハ電話通信上故障アリト認ムルトキハ直ニ接續電話交換取扱郵便局ニ報告スヘシ

第九條　取扱人ハ業務上ニ關シ緊急已ムヲ得サルモノノ外其ノ電話所電話機ニ依リ無料ニテ通話スルコトヲ得ス

第十條　左記各號ノ一ニ該ル者ハ取扱人タルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　故意ヲ以テ郵便電信電話ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者

三　此ノ規程ニ違背シ其ノ職ヲ免セラレタル者

四　電話ニ關スル規則ニ據リ電話加入ヨリ除名セラレ滿二年ヲ經サル者

五　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ラス又ハ破產若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

第十一條　取扱人本令ニ違背シタルトキハ其ノ職ヲ罷免スルコトアルヘシ

第十二條　取扱人ハ成年以上ノ男子ニシテ左記各號ニ該當セス且常ニ實價三百圓以上ノ資產（土地又ハ家屋ヲ云フ）ヲ有スル者ヲ以テ身元引受人ト定メ別記書式ニ依リ保證書ヲ差出スヘシ

一　第十條各號ノ一ニ該當スル者

二　當該電話所々在地又ハ之ト交通便利ノ地ニ居住セサル者

第十三條　取扱人死亡又ハ第十條各號ニ觸ルル事實ヲ生シタルトキハ身元引受人ヨリ直ニ其ノ旨屆出ヘシ

取扱人住所、氏名ヲ變更シタルトキハ身元引受人ト連署屆出ヘシ

第十四條　身元引受人ハ取扱人死亡、失踪シタルトキ又ハ其ノ資格ヲ失ヒ若ハ其ノ服務ヲ停止セラレタルトキハ後任取扱人採用又ハ服務解停迄ノ期間取扱人心得トシテ執務スヘキモノトス

身元引受人ハ取扱人カ死亡又ハ退職後ト雖其ノ引受中ニ係ル事件ニ付テハ責任ヲ免ルルコトヲ得ス本人死亡シタルトキハ其ノ責任相續人ニ歸スルモノトス

第十五條　身元引受人其ノ責任ヲ辭シ若ハ死亡、失踪又ハ其ノ資格ニ缺クル事實ヲ生シタルトキハ取扱人ハ更ニ相當ノ身元引受人ヲ定メ其ノ保證書ヲ差出スヘシ

第十六條　取扱人ニハ左ノ取扱費ヲ支給ス

通話券及呼出券	一件毎ニ	金三錢
前納通話券配達	一件毎ニ	金六錢
著信交換證	一件毎ニ	金二錢

第十四條第一項ニ依リ身元引受人カ職務ヲ代行スル場合ハ其ノ期間前項ノ取扱費ハ之ヲ身元引受人ニ支給ス

第十七條　取扱人ノ取扱ヒタル電話書類ハ毎旬分ヲ取纏メ翌旬三日迄ニ內務部遞信課ヘ送付スヘシ

第十八條　取扱人ノ取扱ヒタル料金ハ內務部遞信課ニ於テ調査シ不足アルトキハ取扱人ヲシテ之ヲ辨償セシムヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記書式

保證書

本籍
現住所
族籍　戶主（又ハ戶主トノ續柄）職業
氏名

右者今般何電話取扱所取扱人御下命相成候ニ付テハ私儀身元引受人ニ相立テ本人ヲシテ電話所電話取扱人規程ニ從ヒ誠實ニ其ノ職責ヲ盡サシムルハ勿論私ニ於テモ堅ク遵守可仕若シ本人辨償等ヲ命セラレ納付難致トキハ直ニ私引受ケ代納可仕候仍テ證書差出候也

年　月　日

本籍
現住所
族籍　戶主（又ハ戶主トノ續柄）職業
右身元引受人　氏名　㊞
生年月日

樺太廳長官　宛

【棒法】

●局舍ニ關スル件

大正二年十二月二十五日
訓令第二百三十七號

特定郵便局

局舍ノ移轉新築又ハ模樣替ヲ爲サントスルトキハ特ニ指定スル場合ノ外認可ヲ受ケタル後工事ニ著手シ竣功後直ニ其旨報告スヘシ

【棒法】

第二章　電氣　瓦斯

第一節　電氣

●電氣事業取締規則

大正六年九月二十七日
遞令第二十五號

改正　大九年一月遞令四三號、昭六年八月三一號

電氣事業取締規則

第一條　本令ニ於テ電氣事業ト稱スルハ一般ノ需要ニ應シ電氣ヲ供給スルヲ謂フ

第二條　電氣事業ヲ經營セムトスル者ハ左ノ書類ヲ具シ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　起業目論見書
二　工事設計書
三　工事費概算書第一號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ但シ電氣事業ノ許可申請ト同時ニ工事施行ノ認可申請ヲ爲ス場合ニ於テハ本書ハ之ヲ省略スルコトヲ得
四　事業上ノ收支概算書第二號樣式ニ依リ之ヲ調製シ電氣供給區域內各町村大字及字別ノ需用見込高ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
五　他ヨリ電氣ノ供給ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ供給契約書ノ謄本
六　會社ヲ設立セムトスル者ニ在テハ定款ノ謄本、組合事業ニ在テハ其ノ契約書ノ謄本

第三條　起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　目的
二　供給區域
三　發電所、變電所、蓄電所ノ位置、供給ヲ受クル地點及其ノ供給者
四　電線路經過地及送電系統
五　第四條第四號乃至第七號ニ記載セル事項

第四條　電氣事業經營ノ許可ヲ受ケタル者ハ指定ノ期間內ニ左ノ書類及圖面ヲ樺太廳長官ニ提出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ但シ一時ニ認可ヲ申請シ難キトキハ其ノ理由ヲ具シ分割シテ認可ヲ受クルコトヲ得

一　工事設計明細書
二　實測圖
三　工事落成期限書（工事ヲ數部ニ區分スル場合ニ於テハ各部工事毎ニ其ノ落成期限ヲ記載スヘシ）
四　工費豫算書第三號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
五　「キロワット」數（常用及豫備ノ別、各發電所、變電所、蓄電所ノ出力（蓄電池ヲ使用スル場合ニ在テハ其ノ放電容量放電時間及箇數）ヲ記載シ又他ヨリ供給セラルル電力ニ依リ電氣事業ヲ經營セムトスル者ニ在テハ其ノ契約セル供給電力供給時間ヲ記載スヘシ）
六　電線路ノ種類（架空線、地中線ノ區別）
七　原動力（汽力、瓦斯力、電動力其ノ他原動力ノ別及其ノ馬力數、水力ニ在テハ河川名、使用水量ノ有效落差、理論馬力數其ノ他水ノ使用ニ關スル工事計畫ヲ記載スヘシ）

第五條　電氣事業經營ノ許可ヲ受ケタル後左ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關係書類及圖面ヲ具シ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　目的
二　供給區域
三　發電所、變電所、蓄電所ノ位置、供給ヲ受クル地點及其ノ供給者
四　電線路經過地及送電系統
五　第四條第四號乃至第七號ニ記載セル事項

第六條　電氣事業經營ノ許可ヲ受ケタル者ハ指定ノ期間內ニ左ノ書類及圖面ヲ樺太廳長官ニ提出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ但シ一時ニ認可ヲ申請シ難キトキハ其ノ理由ヲ具シ分割シテ認可ヲ受クルコトヲ得

一　工事設計明細書
二　實測圖
三　工事落成期限書（工事ヲ數部ニ區分スル場合ニ於テハ各部工事毎ニ其ノ落成期限ヲ記載スヘシ）

碍子種類、大サ、試驗電壓及試驗時間等ヲ記載スヘシ

其ノ他構造ノ大要　柱間距離三百尺以上ノ箇所ハ電線ノ弛度竝支持物ノ強サニ關スル計算又ハ他ノ工作物トノ關係上施設スヘキ工事ノ構造等ヲ記載スヘシ

電線路ノ亙長

(ハ)　地中電線路ノ構造

電線線條數、種類及構造、被覆絶緣物ノ種類、心線ノ種類、數及太サ等ヲ記載スヘシ

布設方法　暗渠、縁渠、直接埋設等ノ別ニ依リ布設方法ノ大要ヲ記載スヘシ

其ノ他構造ノ大要　地中函、接續函等ノ構造竝他ノ工作物トノ關係上施設スヘキ工事ノ構造等ヲ記載スヘシ

電線路ノ亙長

(ニ)　保安裝置

(イ)　地線、避雷器等ノ構造ノ大要ヲ記載スヘシ(ロ)保安上必要ナル電話設備(回線ノ方式、回線圖、設置場所、送電線路ニ添架セサルモノハ其ノ經過地名、電線ノ種類及太サ)等ヲ記載スヘシ

送電線路ノ構造ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

三　變電所ノ設備(變電所ノ名稱及位置ヲ掲ケ一變電所毎ニ記載スヘシ)

(イ)　變電所ノ出力

(ロ)　變壓器　發電所內設備ノ(ハ)ニ準シ之ヲ記載スヘシ

(ハ)　保安裝置　種類及構造ノ大要ヲ記載スヘシ

電線ノ接續及責任ノ分界ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

(ニ)　電動發電機、廻轉變流機、周波數變換機　發電所內設備ノ(ニ)ニ準シ之ヲ記載スヘシ

六　配電設備

(イ)　電氣方式　直流、交流、相、線式　配電電壓　變壓器ノ一次及二次電壓竝其ノ他ノ電壓

(ロ)　端子電壓　電動機ノ端子電壓ヲ記載スヘシ

(ハ)　架空電線路ノ構造

電線　種類、心線及被覆絶緣物ノ種類(高壓及低壓ノ別)ヲ記載スヘシ

布設方法　暗渠、縁渠、直接埋設等ノ別ニ依リ布設方法ノ大要ヲ記載スヘシ

其ノ他構造ノ大要　地中函、接續函等ノ構造竝他ノ工作物トノ關係上施設スヘキ工事ノ構造等ヲ記載スヘシ

電線路ノ亙長

(ニ)　地中電線路ノ構造

電線　種類、心線及被覆絶緣物ノ種類(高壓及低壓ノ別)ヲ記載スヘシ

布設方法　暗渠、縁渠、直接埋設等ノ別ニ依リ布設方法ノ大要ヲ記載スヘシ

其ノ他構造ノ大要　柱間距離三百尺以上ノ箇所ハ電線ノ弛度竝支持物ノ強サニ關スル計算又ハ他ノ工作物トノ關係上施設スヘキ工事ノ構造等ヲ記載スヘシ

電線路ノ亙長

(ホ)　保安裝置　種類及構造ノ大要ヲ記載スヘシ

機械器具ノ裝置及電線ノ接續ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

四　蓄電所內設備(蓄電所ノ名稱及位置ヲ掲ケ一蓄電所毎ニ記載スヘシ)

(イ)　蓄電池發電所內設備ノ(ホ)ニ準シ之ヲ記載スヘシ

(ロ)　昇壓機　「キロワット」數、電壓廻轉數及箇數ヲ記載スヘシ

(ハ)　保安裝置　種類及構造ノ大要ヲ記載スヘシ

機械器具ノ裝置及電線ノ接續ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

五　受電設備(他ヨリ供給セラルル電力ニ依リ電氣事業ヲ經營セムトスル者ニ限リ其ノ電力ノ供給ヲ受クル地點ノ名稱及位置ヲ掲ケ一地點毎ニ記載スヘシ若シ其ノ地點カ發電所、變電所內ナルトキハ發電所內設備、變電所內設備、又ハ蓄電所內設備ノ項ニ併記スヘシ)

(イ)　供給電力

(ロ)(ハ)　送電上ノ責任ト分界トナルヘキ開閉器又ハ其ノ他ノ設備

保安裝置　種類及構造ノ大要ヲ記載スヘシ

電線ノ接續及責任ノ分界ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

六　配電設備

(イ)　電氣方式　直流、交流、相、線式　配電電壓　變壓器ノ一次及二次電壓竝其ノ他ノ電壓及需用者ノ

【棒法】

配電線路ノ構造竝特別高壓用機械器具ノ裝置及電線接續ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

工事設計明細書ニハ送電關係一覽圖第六號樣式及原動力ノ種類ニ從ヒ左記各號ノ一ニ該當スル事項ヲ記載セル原動力設計書ヲ添附スヘシ

一　水力設備

(イ)　使用河川(又ハ湖沼)名

(ロ)　流水量　實際ニ使用セムトスル水量　落差及馬力數　取入口及放水口ノ位置　使用河川(又ハ湖沼)渇水量、落差ノ損失、有效落差、低落差、落差ノ變動ノ大要　水路ノ高低差、落差ノ損失、有效落差、理論馬力數ヲ記載スヘシ

(ハ)　取入口ヨリ放水口ニ至ル引水法

水方法ノ概要ヲ記載スヘシ

(ニ)　水路工作物　堰堤、取入口及制水門、隧道、開渠、木樋、水路橋、水路管等、水槽、放水路、水壓管(保安裝置、水壓母管、吸出管等ヲモ記載スヘシ)沈砂地、土砂吐、餘水路等ノ構造、材料及施工方法但シ簡單ナル工事ニシテ圖面ノミヲ以テ說明シ得ルモノハ適宜之ヲ省略スルコトヲ得、算式ヲ以テ計算シタルモノハ之ヲ附記スヘシ

(ホ)　貯水池　容積、堰堤ノ構造、材料及施工方法、地形、地質等ヲ記載スヘシ

(ヘ)　水車　種類、馬力數、廻轉數、箇數(常用及調速機ノ種類ヲ記載スヘシ)

水車用ト豫備トノ別)ヲ記載スヘシ

水路及貯水池ニ關シテハ別ニ實測平面圖(縮尺六千分ノ一以上)長サ凡ソ六千分ノ一以上實測縱斷面圖(縮尺六千分ノ一以上)高サ三百分ノ一以上實測橫斷面圖及局部構造圖(縮尺凡百分ノ一ヲ以テ之ヲ表示スヘシ以上)

(ホ)　電動發電機、廻轉變流機、周波數變換機　特別高壓ノモノニ限リ其ノ位置及發電所內設備ノ(ニ)ノ項ヲ記載スヘシ

(ヘ)　保安裝置　種類及構造ノ大要ヲ記載スヘシ

(ト)　送電線路ノ(ニ)ノ(ロ)ニ準ス

【棒法】

二　汽力設計

(イ) 汽罐種類、汽壓、蒸發量(一時間ニ付)火壁面積、加熱面積、箇數(常用ト豫備トノ別)ヲ記載スヘシ
(ロ) 汽機種類、馬力數、廻轉數、箇數(常用ト豫備トノ別)調速機ノ種類ヲ記載スヘシ
(ハ) 給水設備唧筒ノ種類、給水量、箇數(常用ト豫備トノ別)原動機ノ種類、馬力數及箇數ヲ記載スヘシ
(ニ) 凝汽器種類、箇數及其ノ附屬機器ノ種類、箇數、馬力數ヲ記載スヘシ
(ホ) 附屬機器、溫水器、節炭器、通風器等ノ種類、箇數、大サ又ハ馬力數ヲ記載スヘシ
(ヘ) 煙突構造、材料、口徑、高サヲ記載スヘシ

機械器具ノ裝置ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

三　瓦斯力設計石油其ノ他之ニ類スルモノヲ使用スル場合ニ之ニ準ス

(イ) 瓦斯發生器種類、燃料ノ種類、馬力數、箇數(常用ト豫備トノ別)ヲ記載スヘシ
(ロ) 洗滌器種類、箇數、及瓦斯溜ノ大サ
(ハ) 機關種類、馬力數、廻轉數、箇數(常用ト豫備トノ別)點火裝置ノ種類、調速機ノ種類ヲ記載スヘシ
(ニ) 附屬機器種類、箇數ヲ記載スヘシ

機械器具ノ裝置ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

實測圖ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ調製スヘシ

一　送電線路實測平面圖縮尺凡二千分ノ一トシ發電所、變電所、蓄電所、開閉所ノ位置及電線路ノ中心線竝其ノ經過スル郡町村大字及附近町村大字ノ境界及名稱、地勢、電線路ノ位置ヨリ凡一町以內ニ在ル弱電流電線路ノ距離ヲ一里毎ニ記載スヘシ

二　配電線路實測平面圖(各供給區域毎ニ記載スヘシ)縮尺凡二千分ノ一トシ發電所、變電所、蓄電所、開閉所ノ位置、電線路ノ中心線及其ノ經過スル郡町村大字附近町村大字トノ境界、名稱、供給區域ト近接郡町村大字トノ境界、區域內郡町村大字ノ境界、名稱、鐵道、軌道、道路其ノ他ノ地勢、他ノ電線路、電線路ノ位置ヨリ凡一町以內ニ在ル弱電流電線路ノ關係ヲ記載スヘシ

第八條　電氣事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタル後前條ニ揭クル事項ヲ變更セムトスルトキハ關係書類及圖面ヲ具シ棒太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ各種引込線又ハ需用者構內、發電所、變電所、蓄電所及開閉所構內ニ施設スル電線路其ノ他輕微ナル電氣工作物ニハ之ヲ適用セス

第九條　電氣事業者ハ工事施行ノ認可ヲ受ケタル後ニ非サレハ工事ニ著手スルコトヲ得ス但シ認可ヲ受ケテ施設シタル電氣工作物ノ復舊工事ハ此ノ限ニ在ラス

發電所、變電所又ハ蓄電所內ニ於ケル電氣工作物ノ復舊工事ハ第七條ニ揭クル事項ヲ變更スル場合ト雖認可ヲ受ケスシテ其ノ工事ニ著手スルコトヲ得

第十條　電氣事業者不可抗力ニ因ルニ非スシテ棒太廳長官ノ指定シタル期間內ニ事業ヲ開始セサルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特ニ延期ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　電氣業者其ノ事業ヲ讓渡セムトスルトキハ左ノ書類ヲ具シ當事者連署ヲ以テ棒太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

一　讓渡契約書ノ謄本
二　讓渡人又ハ讓受人カ會社ナルトキハ讓受渡ニ關スル株主總會又ハ社員ノ議事及決議錄謄本
三　讓受人カ會社發起人又ハ電氣事業者ニ非サル會社ナルトキハ定款及會社登記簿謄本

前項ノ場合ニ於テ其ノ讓渡終了シタルトキハ當事者連署ヲ以テ遲滯ナク棒太廳長官ニ屆出ツヘシ

前二項ノ規定ハ電氣事業者タル會社ノ合併ニ之ヲ準用ス

相續ニ因リ電氣事業ヲ承繼シタル者ハ遲滯ナク戶籍謄本ヲ添ヘ棒太廳長官ニ屆出ツヘシ

第十二條　電氣工作物ノ施設、電氣工作物相互間及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害ヲ防止スルニ必要ナル施設ニ關シテハ大正八年十月遞信省令第二十六號電氣工作物規程ヲ準用ス

第十三條　電氣事業者ハ工事著手前主任技術者ヲ選任シ履歷書ヲ添ヘ棒太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ主任技術者職關シタルトキ亦同シ

前項ノ主任技術者其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ不適當ト認ムルトキハ棒太廳長官ハ何時ニテモ其ノ解任ヲ命スルコトアルヘシ

主任技術者疾病旅行其ノ他ノ事故ニ因リ一月以上職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ電氣事業者ハ其ノ代務者ヲ選任シ履歷書ヲ添ヘ棒太廳長官ニ屆出ツヘシ

第十四條　本令ニ依リ官廳ニ提出スル書類圖面中技術ニ關スルモノハ主任技術者又ハ其ノ代務者之ニ署名捺印スヘシ但シ主任技術者ノ選任前ニ在テハ其ノ設計ヲ擔當シタル技術者之ニ署名捺印スヘシ

第十五條　電氣事業者ハ認可ヲ受ケタル工事落成シタルトキハ第四號樣式ニ依リ竣工明細書ヲ作製シ遲滯ナク棒太廳長官ニ屆出檢査ヲ受クヘシ

[棒法]

第十六條　前條ノ檢査ニ合格シタルトキハ使用認可證ヲ交付ス但シ特ニ檢査ノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ使用認可證ヲ交付スルコトアルヘシ

前二項ノ規定ハ電氣事業者タル會社ノ合併ニ之ヲ準用ス

第十七條　電氣事業者ハ前條ノ使用認可證ヲ受ケタル後ニ非ラサレハ電氣工作物ヲ使用スルコトヲ得ス

第十八條　電氣事業者火藥其ノ他爆發性ノ物質ヲ製造又ハ藏置スル場所ニ電氣工作物ヲ施設シタルトキハ遲滯ナク工事方法ヲ具シ棒太廳長官ニ屆出ツヘシ

第十九條　電氣事業者ハ需用者ニ對シ正當ノ理由ナクシテ電氣ノ供給ヲ拒絕スルコトヲ得ス

第二十條　電氣事業者ハ供給點ニ於テ保持スヘキ一定電壓又ハ一定電流ヲシテ百分ノ四以上ノ變動ヲ起サシメス又ハ電燈供給ノ場合ニ在テハ技術上已ムヲ得サルモノヲ除クノ外光力ニ不定ヲ生セシムルコトヲ得ス但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テ棒太廳長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　電燈ノ光力ヲ表示スルニハ燭光ヲ以テ單位トスヘシ

一燭光ハ氣壓七百六十「ミリメートル」ノ時一立方「メートル」ニ付八「リットル」ノ水蒸氣ヲ含有スル空氣中ニ於テ燃燒スル「ハーコート」氏「ペンテーン」燈ノ光力ノ十分ノ一トス

第二十二條　電氣事業者ハ光力ヲ以テ契約スル電氣ノ供給ニ關シ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　電燈供給ニ使用スル白熱電燈球ニハ燭光及電壓ヲ指示スヘシ

二　前號ノ指示燭光數ハ平均水平燭光ヲ以テ表示シ其ノ誤差ハ百分ノ十ヲ超過セサルコトヲ要ス

三　白熱電燈球ヲ提供シテ電燈ヲ供給スル場合ニ於テハ其ノ光力取附後ノ使用ニ依リ指示電壓ニ於テ指示燭光數ノ百分ノ八十以下ニ減少シ且需用者ノ請求アルトキハ電氣事業者ハ新ナル電燈球ト取換ヲ爲スヘシ

第二十三條　電氣事業者ハ電氣供給規程ヲ定メ事業開始前樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二十四條　電氣事業者ハ保線係員ヲシテ常時電線路ヲ巡視セシムヘシ電氣事業者ハ係員ヲシテ常ニ電路ヲ檢査セシメ安全ト認ムルニ非ラサレハ之ニ送電スルコトヲ得ス

第二十五條　電氣事業者ハ不可抗力ニ因ル場合ヲ除クノ外樺太廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ラサレハ其ノ事業ヲ休止スルコトヲ得ス

第二十六條　電氣事業者電氣工作物ノ修繕其ノ他ノ原因ニ因リ送電ヲ中止スルトキハ非常急遽ノ場合ヲ除クノ外其ノ旨需用者ニ豫告スルコトヲ要ス

第二十七條　樺太廳長官ニ於テ保安上必要アリト認ムルトキハ電氣事業者ニ對シ電線路ノ要所ニ技術員ノ配置ヲ命スルコトアルヘシ

第二十八條　電氣事業者ハ送電中出火暴風其ノ他非常ノ場合ニ際シ危險ナリト認ムル區域內ノ架空電線ニ對シ速ニ其ノ送電ヲ遮斷スヘシ

前項ノ規定ニ依リ送電ヲ中止シタル區域內電線路ノ各要所ニハ晝間ハ標旗、夜間ハ標燈ヲ揭クヘシ

電氣事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術員ヲ派遣シテ危險豫防ノ爲必要ナル措置ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官吏ニ屆出シムヘシ其ノ技術員ハ警察官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ退場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術員ニハ晝間ハ標旗、夜間ハ標燈ヲ携帶セシムヘシ

標旗及標燈ノ樣式ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十九條　電氣事業者ハ每事業決算期ニ於テ事業概況報告書ヲ調製シ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ但シ決算期ノ定メナキモノハ一年每ニ屆出ツヘシ

前項ノ報告書ニハ業務上各般ノ報告、期末現在ノ電線路ノ亙長及電線ノ延長（電線ハ電壓ノ種類）需用者ノ員數竝電燈（電燈ハ白熱燈、弧光燈及「ワット」數ニ依リ區別ス）電動機（種類及「ワット」數ニ依リ區別ス）ノ箇數ヲ記載スヘシ

第三十條　電氣事業者ハ電氣工作物ノ故障及其ノ運轉使用ニ關スル事故アルトキハ第七號樣式ニ依リ一箇月分ヲ取纏メ翌月十日迄ニ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ電報、電話、其ノ他ノ方法ヲ以テ其ノ大要ヲ樺太廳長官ニ即報シ同時ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

一　電氣工作物ノ損壞又ハ漏電其ノ他ノ故障ニ因リ人畜ニ死傷ヲ生シ又ハ火災其ノ他ノ災害ヲ生シタルトキ

二　發電所、變電所、水路、電線路等ニ故障ヲ生ジ其ノ送電ノ停止二十四時間以上ニ亙ルトキ又ハ送電ノ大部分ヲ停止セルトキ

〔樺法〕

三　前各號ノ外重大ナル事故ヲ生シタルトキ

第三十一條　左ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ遲滯ナク樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

一　會社成立シタルトキ

二　會社ノ取締役、監査役ヲ選任若ハ改任シタルトキ、總社員ノ同意ヲ以テ代表社員ヲ定メタルトキ又ハ其ノ氏名ヲ變更シタルトキ

三　營業所又ハ事務所ヲ設置シ若ハ變更シタルトキ

四　事業ヲ開始シ廢止シ又ハ休止シタルトキ

第三十二條　樺太廳長官ハ必要ト認ムルトキハ吏員ヲ派遣シ電氣工作物若ハ其ノ工事中ノ狀況又ハ事業經營ノ實況ヲ監査セシメ又ハ現ニ使用シ若ハ使用セムトスル機械器具其ノ他ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第三十三條　樺太廳長官ハ電氣工作物カ他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ナリト認ムルトキハ其ノ改修、撤去、使用ノ停止又ハ保安上必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

電氣事業者前項ノ命令ニ從ハサルトキハ樺太廳長官ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第三十四條　電氣工作物ニ物品ヲ接觸シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタル者ハ二月以下ノ懲役又ハ七十圓以下ノ罰金ニ處ス

電氣事業者ノ承諾ヲ得スシテ濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル者ハ七十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前二項ノ場合ニ於テ刑法ニ規定アルモノハ各其ノ規定ニ從フ

第三十五條　本令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケテ爲スヘキ行爲ヲ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ爲シタル者又ハ第十七條、第二十四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ七十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條　本令ニ基キテ命シタル事項ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十七條　本令ニ依ル屆出又ハ通知ヲ怠リ若ハ第十九條、第二十二條、第二十四條第一項又ハ第二十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第三十八條　電氣事業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ事業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條　電氣事業者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ電氣事業者ヲ處罰ス

第四十條　法人ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ法人ヲ處罰ス此ノ場合ニ於テハ第三十四條ノ二月以下ノ懲役又ハ七十圓以下ノ罰金トアルハ之ヲ七十圓以下ノ罰金トス

前項ノ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ被告人トス

第四十一條　本令ハ電壓十「ボルト」以上ノ自家用電氣工作物ノ施設ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前既ニ電氣事業ヲ經營セル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス但シ本令ノ規定ニ依リ提出ヲ要スル書類又ハ圖面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

〔樺法〕

（第一號樣式）

工事費概算書

項目	單位	單價	數量	金額	小計	備考
創立費		圓		圓	圓	
水力工事費（各發電所毎ニ記載スルコト）	一キロワット					（水路ノ長サヲ記入スルコト）
發電所費（同上）	〃					
建設費	〃					（用地建物基礎等）
原動機費	〃					
電氣機械器具費	〃					
運搬据付其ノ他	〃					
變電所又ハ蓄電所費（各變電所各蓄電所毎ニ記載スルコト）	〃					
建設費	〃					（用地建物基礎等）
電氣機械器具費	〃					
運搬据付其ノ他	〃					
送電線路費	一哩					
發電所變電所間架空電線路	〃					
發電所變電所間地中電線路	〃					
配電線路費	〃					
架空配電線路	〃					
地中配電線路	〃					
需用者屋內工事費	〃					
電燈	一燈					
電力	一キロワット					
修繕工場費						
豫備費						
合計						

年　月　日　　主任技術者（擔當技術者）

氏　名㊞

〔出書〕

〔出書〕

事業上ノ收支概算書

（第二號樣式）

收入ノ部

項目	單位	單位ニ對スル金額	數量	金額	小計	備考
	十燭光一箇月	圓	十燭光換算燈數	圓	圓	
電燈料 定額	一燈					（電燈球ノ種類記入ノコト從量燈ニ在リテハ一燈一箇月平均使用「キロワット」時ヲ記入スルコト）
電燈料 從量	一キロワット時					
電力料 定額	一箇月一馬力					（從量ニ依ル場合ニハ一馬力一箇月平均使用「キロワット」時ヲ記入スルコト）
電力料 從量	一キロワット時					
電燈器具損料	一箇月一燈					
電氣計器損料	一箇月一箇					（電氣計器ノ「ワット」數ヲ記入スルコト）
電動機損料	一箇月一キロワット					
器具賣上金						
電氣工事ヨリ生スル益金						
雜收入						（利息掃除料其ノ他）
合計						

支出ノ部

項目	單位	單位ニ對スル金額	數量	金額	小計	備考
水路維持費		圓		圓	圓	（水路亙長ヲ記入スルコト）

項目	單位	單位ニ對スル金額	數量	金額	小計	備考
給料手當	人	圓		圓	圓	（水路工事費トノ割合ヲ記入スルコト）
修繕費						
其ノ他						（出力ヲ記入スルコト）
發電所運轉及維持費（各發電所毎ニ記載スルコト）						
給料手當	人					
燃料	斤					
油及襤褸						（發電所工事費トノ割合ヲ記入スルコト）
修繕費						
其ノ他						（出力ヲ記入スルコト）
變電所又ハ蓄電所維持費（各變電所又ハ各蓄電所毎ニ記載スルコト）						
給料手當	人					
油及襤褸						（變電所又ハ蓄電所工事費トノ割合ヲ記入スルコト）
修繕費						
其ノ他						（亙長ヲ記入スルコト）
送電線路維持費						（送電線路工事費トノ割合ヲ記入スルコト）
給料手當	人					（亙長ヲ記入スルコト）
修繕費						（配電線路工事費トノ割合ヲ記入スルコト）
其ノ他						（電燈、電動機、其ノ他電力竝置箇數ヲ記入スルコト）
配電線路維持費						
給料手當	人					
修繕費						
其ノ他						
需用者工作物維持費						
給料手當	人					
修繕費						
其ノ他						

〔裏面〕

〔裏面〕

項目	單位	單位ニ對スル金額	數量	金額	小計	備考
電力料		圓		圓	圓	（他ヨリ供給セラルル電力ニ依リ營業スルモノ）
本社費						（事務所出張所ヲ含ム）
給料及諸給	人					
旅費						
通信費						
稅金						
消耗品費						（修繕費等ヲ含ム）
雜費						
其ノ他						
合計						
差引純益金						

純益金內譯
- 法定積立金
- 賞與金
- 減損積立金（水路、發電所、變電所、蓄電所、送電線路、配電線路、需用者工作物ニ對スル割合ヲ記載スルコト
- 利益金
  利益金ノ資本ニ對スル割合

備考
1 電燈料金及電力料金竝電燈球ノ種類及賣價又ハ貸料等ヲ附記說明スヘシ
2 電氣供給以外ノ事業ヲ兼營スルモノニ在テハ其ノ兼營事業ノ收支及計算ノ大要ヲ附記說明スヘシ

（第三號樣式）

工費豫算書

項目	單位	單位スルニ對金額	數量	金額	小計	備考
準備費		圓		圓	圓	
設計費						
測量費						
工事監督費						
總掛費						
水力工事費（各發電所毎ニ記載スルコト）						
用地	坪					
堰堤						
取入口						
水路（開渠、木樋、水路管等ニ區別シ記載スルコト）	間					
水槽						
放水路						
水壓管	尺					
貯水地 用事	坪					
貯水地 工事費						
雜工事（餘水吐沈砂地土砂吐等ニ區別シ記載スルコト）						
發電所費（各發電所毎ニ記載スルコト）						
建設費						
用地	坪					
基礎工事	立坪					
建物	坪					
雜工事費						（地均シ、井戸、附屬建物、起重機及其ノ他ノ設備ヲ含ム）
原動機費（水力）	箇					
水車						

〔出書〕

〔出書〕

項目	單位	單位スルニ對金額	數量	金額	小計	備考
調速機		圓		圓	圓	
附屬器						（鐵管ヲ含ム）
其ノ他						
原動機費（蒸汽力）						
汽罐	箇					
給炭器	〃					
給水喞筒	〃					
汽機	〃					
凝汽器	〃					
溫水器	〃					
節炭器	組					
煙突						
煙道						
鐵管						
其ノ他						
原動機費（石油及瓦斯力）						
瓦斯發生裝置	組					（冷却器、洗滌器等ヲ含ム）
發動機	箇					
附屬機械						（起動裝置及喞筒類ヲ含ム）
其ノ他						
電氣機器費						
發電機	箇					
勵磁機	〃					
變壓器	〃					
蓄電池	〃					
配電盤一式						
其ノ他						（取附用電線等ヲ含ム）
運搬費						
据附費						

1水図

項目	単位	単位ニ対スル金額	数量	金額	小計	備考
雑費		圓		圓	圓	
變電所、蓄電所又ハ開閉所費（各變電所、蓄電所又ハ開閉所毎ニ記載スルコト）						
建設費						
用地	坪					
基礎工事	立坪					
建物	坪					
雑工事費						（發電所雑工事費ニ準ス）
電氣機器費						
變壓器	箇					
電動發電機其ノ他	〃					
配電盤一式						
蓄電池	箇					
其ノ他						（取附用電線等ヲ含ム）
運搬費						
据附費						
雑費						
送電線路費						
發電所及變電所間架空電線路	哩					（電線路亙長ヲ記入スルコト）
電線	封度					
碍子	箇					
電柱（木柱、鐵柱又ハ鐵塔）	本 箇					（腕水、ボルト、緋縛線、根掛鐵線等ヲ含ム）
其ノ他ノ材料						（運搬費ヲ含ム）
建設費						
交渉、路荒、伐木其ノ他損害賠償						
其ノ他						

〔裏面〕

〔裏面〕

項目	単位	単位ニ対スル金額	数量	金額	小計	備考
發電所、變電所間地中電線路	哩	圓		圓	圓	（電線路ノ亙長ヲ記入スルコト）
電纜	尺					
線渠	〃					
地中函	箇					
布設材料	電線一尺					
布設費	〃					（地中工作物移轉費ヲ含ム）
損害賠償						
其ノ他						
配電線路費						
架空配電線路費	哩					（亙長ヲ記入スルコト）
電線	封度					
電柱	本					
腕木碍子其ノ他ノ材料						
柱上變壓器	キロワット					
建設費						（開閉器保安裝置等ヲ含ム）
其ノ他						（亙長ヲ記入スルコト）
地中配電線路費	哩					
電纜	尺					
線渠	〃					
接續函	箇					
地中函（變壓函、配電函）	〃					
變壓器	キロワット					
布設材料	電纜一尺					
布設費	〃					（地中工作物移轉費ヲ含ム）
損害賠償						
其ノ他						
屋内工事費						

項目	單位	單位ニ滿スル金額	費率	金額	小計	備考
土地						
動力發電所工事費						
建設工事	キロワット	圓			圓	
修繕工事	坪					
用地	〃					
倉庫	一箇所					
其ノ他建設費						
計						

年　月　日

主任技術者（會社技術者）　氏　㊞

〔樣法〕

第四號樣式

電氣工作物竣工明細書

一、送電關係一覽圖第六號樣式ニ依リ調製スヘシ

二、發電工事ハ一發電所毎ニ記載スヘシ

(一) 發電所ノ位置及名稱

(二) 發電所ノ出力

(三) 原動力工事

(甲) 水力工事

(イ) 使用河川（又ハ湖沼）名

(ロ) 許可流水量及各水車ノ流水量

(ハ) 落差　取入口放水路間ノ高低落差及有效落差

(ニ) 水路　堰堤、取入口、制水門、隧道、開渠、蓋渠、木樋、水路路橋、水路管、水槽、放水路、沈砂地、土砂吐、餘水路、維工事等ノ別ニ從ヒ各部ノ構造、材料

(ホ) 貯水池　容量、堰堤ノ構造、材料、地形、地質

說明圖ヲ添附スヘシ

(ヘ) 水壓管　構造、條數、亙長、保安裝置、製造者名（水壓母管及吸出管ヲ含ム）

說明圖ヲ添附スヘシ

(ト) 水車　種類、馬力數、迴轉數、箇數（常用ト豫備トノ別）製造者名

(チ) 調速機　種類、製造者名

(乙) 汽力工事

(イ) 汽罐　種類、汽壓、蒸發量（一時間ニ付）、火爐面積、加熱面積、箇數（常用ト豫備トノ別）、製造者名

(ロ) 汽機　種類、馬力數、迴轉數、衝程、汽筒ノ徑、汽壓、調速機ノ種類、箇數（常用ト豫備トノ別）、製造者名

(ハ) 給水設備　唧筒ノ種類、給水量、製造者名、箇數（常用ト豫備トノ別）、原動機ノ種類、馬力數及箇數

(ニ) 凝汽器　種類、箇數、製造者名、空氣唧筒ノ種類、箇數、循環唧筒ノ種類、箇數、原動機ノ種類、箇數及馬力數

(ホ) 溫水器　種類、大サ、箇數、製造者名

(ヘ) 過熱器　種類、大サ、箇數、製造者名

(ト) 通風器　種類、箇數、原動機ノ種類及馬力數、製造者名

(チ) 煙突　構造、材料、口徑、高サ、製造者名

(リ) 其ノ他ノ設備

(丙) 瓦斯力工事

(イ) 瓦斯發生器　種類、燃料ノ種類、馬力數、箇數（常用ト豫備トノ別）、製造者名

(ロ) 洗瀝器　種類、箇數、製造者名

(ハ) 瓦斯溜　大サ、箇數、製造者名

(ニ) 機關　種類、馬力數、迴轉數、衝程、汽筒ノ徑、箇數（常用ト豫備トノ別）、製造者名、調速機ノ種類、點火裝置ノ種類、蓄勢輪ノ徑及重量

(ホ) 附屬機器　種類、箇數

(四)

電氣工事

(イ) 發電機　型、直流交流ノ別「キロワット」數又ハ「キロヴオルトアムペア」數（交流ニ在リテハ力率ヲ記載スヘシ）電壓、相、周波數、迴轉數、結線法、勵磁法、箇數（常用ト豫備トノ別）製造者名、電動機トノ接續方法

(ロ) 勵磁機　型、「キロワット」數、迴轉數、電壓、勵磁法、箇數、製造者名、原動機トノ接續方法、原動機ノ種類及馬力數

(ハ) 變壓器　型、「キロヴオルトアムペア」數、一次電壓、二次電壓、相、周波數、結線法、冷却法、箇數（常用ト豫備トノ別）製造者名

(ニ) 電動發電機　廻轉變流機、周波數變換機　種類、直流交流ノ別「キロワット」數、電壓（交流ニ在リテハ電流ヲモ）相、周波數、迴轉數、箇數（常用ト豫備トノ別）、製造者名

(ホ) 蓄電池　種類、放電時間、放電容量、箇數、製造者名

(ヘ) 保安裝置　種類、構造ノ大要（發電機、母線、變壓器、送電線等ノ保安裝置）製造者名

(五)

圖面

(イ) 水路平面圖　取入口ヨリ發電所、放水路ニ至ル一覽圖ニシテ水路工作物各部ノ位置ヲ記入セルモノ

(ロ) 發電所圖　面圖、縱斷面圖及配電盤正面圖（寸法ヲ記入スル建物及同所內機械器具ノ裝置ヲ示セル平面圖、側

（コト）

（ハ）電線接續圖

三、送電線路工事一電線路毎ニ記載スヘシ

（一）電氣方式直流、交流、相、線式

（二）最大電壓

（三）架空電線路ノ構造

（イ）電線線條數、回線數、太サ、電線及被覆絕緣物ノ種類、電線地表上ノ平均ノ高サ、電線相互ノ間隔、撚架ノ方法

（ロ）支持物平均柱間距離、最大柱間距離、木柱（木材ノ種類別）、鐵柱鐵塔ノ數竝其ノ構造ノ大要

（ハ）碍子種類、大サ、試驗電壓、試驗時間及製造者名

（ニ）其ノ他構造ノ大要柱間距離ノ大ナル箇所又ハ他ノ工作物トノ關係上施設シタル工事

電線路ノ亙長ヲ附記スヘシ

（四）池中電線路ノ構造

（イ）電線線條數、種類及構造、被覆絕緣物ノ種類、心線ノ種類、數及太サ、製造者名

（ロ）布設方法暗渠、線渠、直接埋設等ノ別ニ依ル布設方法ノ大要

（ハ）其ノ他構造ノ大要地中函、接續函等ノ構造竝他ノ工作物トノ關係上施設シタル工事

電線路ノ亙長ヲ附記スヘシ

（五）保安裝置（イ）地線、避雷器等ノ構造ノ大要

（ロ）保安上必要ナル電話設備（施設箇所、機械ノ種類及箇數、架空線、地下線、水底線ノ別、回線ノ方式、回線圖、線路ノ亙長及延長、電線及被覆絕緣物ノ種類、太サ、撚架方法竝保安裝置

送電線路ノ構造ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ說明スヘシ

四、變電所工事一變電所毎ニ記載スヘシ

（一）變電所ノ位置及名稱

（二）發電所ノ出力

（三）變電所內設備

（イ）變壓器發電工事（四）ノ（ハ）ニ準ス

（ロ）電動發電機、廻轉變流機、周波數變換機發電工事（四）ノ（ニ）ニ準ス

（ハ）蓄電池發電工事（四）ノ（ホ）ニ準ス

（ニ）保安裝置種類、構造ノ大要及製造者名

（四）圖面

（イ）變電所圖發電工事（五）ノ（ロ）ニ準ス

（ロ）電線接續圖

五、蓄電所工事一蓄電所毎ニ記載スヘシ

（一）蓄電所ノ位置及名稱

（二）蓄電所內設備

（イ）蓄電池發電工事（四）ノ（ホ）ニ準ス

（ロ）昇壓機「キロワット」數、電壓、廻轉數、箇數、製造者名

（ハ）附屬機器

（ニ）保安裝置種類、構造ノ大要及製造者名

（三）圖面

（イ）蓄電所圖發電工事（五）ノ（ロ）ニ準ス

（ロ）電線接續圖

六、配電工事

（一）電氣方式直流、交流、相、線式

（二）電壓

（三）架空電線路ノ構造

（イ）電線電線及被覆絕緣物ノ種類（高壓及低壓ノ別）

（ロ）支持物平均柱間距離、木柱（木材ノ種類別）鐵柱及鐵塔ノ概數

（ハ）其ノ他構造ノ大要

（四）地中電線路ノ構造

（イ）電線種類、心線及被覆絕緣物ノ種類（高壓及低壓別）、製造者名

（ロ）布設方法暗渠、線渠、直接埋設等ノ別ニ依ル布設方法ノ大要

（ハ）其ノ他構造ノ大要變壓函、配電函、接續函及其ノ他地中函ノ構造及圖面

（五）變壓器高壓又ハ低壓ノモノニ在テハ一次電壓、二次電壓、相、特別高壓ノモノニ在テハ其ノ位置及發電所內設備ノ（ハ）ノ事項

（六）電動發電機、廻轉變流機、周波數變換機特別高壓ノモノニ限リ其ノ位置及發電所內設備ノ（二）ノ事項

（七）需用者ノ端子電壓電燈及電動機ノ端子電壓

（八）保安裝置（イ）種類及構造ノ大要

（ロ）保安上必要ナル電話設備送電線路工事（五）ノ（ロ）ニ準ス

電線路ノ構造ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ說明スヘシ

七、他ヨリ供給セラルル電力ノ受電設備工事一地點毎ニ記載スヘシ

（一）電力ノ供給ヲ受クル地點ノ位置及名稱若其ノ地點カ發電所、變電所又ハ蓄電所內ナルトキハ發電所工事、變電所工事又ハ蓄電所工事ノ項ニ併記スヘシ

（二）供給電力

（三）送電上ノ責任ノ分界トナルヘキ開閉器又ハ其ノ他ノ設備

（四）保安裝置種類及構造ノ大要

電線ノ接續及責任ノ分界ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ說明スヘシ

第五號樣式
第六號樣式　凡例

落成	未落成（同符號ハ黃色）	名稱	備考

		發電所	
		變電所、開閉所、蓄電所	
Ⓖ	Ⓖ	發電機	三相 3P 二相 2P 直流發電機ハ D.C.ト記スルコト 相 ∞ 附
Ⓜ Ⓖ	Ⓜ Ⓖ	電動發電機	誘導電動機ハ M 同期電動機ハ M ∞ 附記スルコト
RC	RC	迴轉變流機	
		變壓器	テルタ、スター、ヴイヲ表示スルコト
		蓄電池	
		特別高壓送電線路	里ニテ百長ヲ附記スルコト
		高壓、低壓、送電、配電線路	送電線路ニハ百長ヲ附記スルコト
		開閉器	
		電電 力燈 都市供給區域	都市ノ一部ナルトキハ字名ヲ附記スベシ
		電力都市供給區域	同
		電電 力燈 町村供給區域	同
		電力町村供給區域	同

記事注意

一　增設變更若ハ撤去工事等ニ依リ全部業ノ一部若ハ全部ヲ調製シ新ニ添付スル場合ニ於テハ其ノ部分ノミノ圖面ヲ提出セス全工作物ヲ表示スル送電關係一供給區域、發電所、變電所、配電線ノ所在及M(電)ヲ以テ記入スルコト

二　送電線路ノ關係位置ハ適宜ノ色若ハ適當ノ色用ヲ以テ其ノ意味ヲ表示スルコト

三　送電線、發電所、變電所、配電線ノ所在及M(電)ヲ以テ記入スルコト

〔裏面〕

（第五號樣式）

送電系統圖

送電所名

發電所名
原動力種類
使用河川名
出力(キロワット)

事業者名

受電(若ハ供給)地名

送電線最大電壓、相、線式

最大電壓 相、線 式
○ 町名 (燈力)
○ 村名 (燈力)
市名 (力)

最大電壓 相、線 式
○ 町名 (力)
市名 (燈力)

蓄電所名
蓄電池アムペア
時放電時間箇數

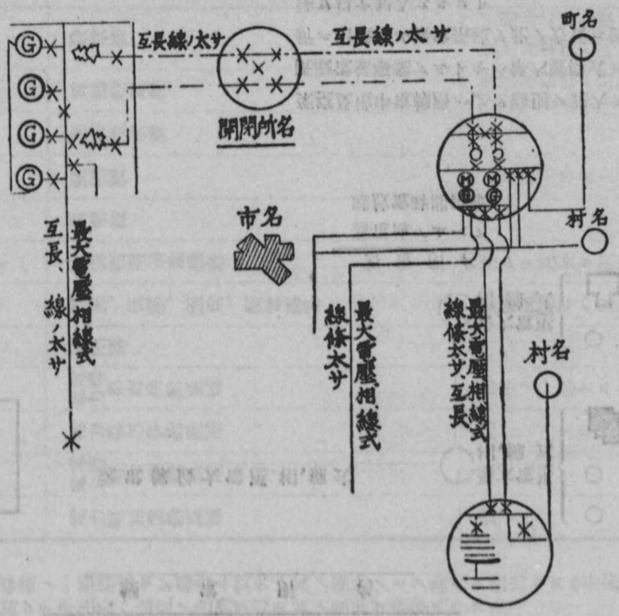
供給(若ハ受電)者名
供給電力
供給時間

架空及地中電線路ハ之ヲ區別シ記入スルコト
既設電氣事業アルトキハ第六號樣式ニ依リテ記載シ之ニ
新ニ出願セル送電系統ヲ此ノ方式ニ依リ色別其ノ他ノ方
法ヲ以テ記入スルコト

年　月　日
擔當技術者㊞

（第六號樣式）

送電關係一覽圖



發電所名

原動力種類
使用河川名
事業者名
供給用
- 出力（キロワット）
- 發電機種類
  - 電壓
  - 容量
  - 箇數
  - 周波數
- 變壓器
  - 容量
  - 變壓 一次 二次
  - 箇數

受電（若ハ供給）地名（責任分界點）
供給（若ハ受電）者名
供給電力
供給時間
年　月　日

變電所名

（供給用）
出力（キロワット）數
變壓器
- 容量
- 箇數
- 電壓 一次 二次

電動機
- 種類
- 馬力數
- 箇數

發電機
- 種類
- 電壓
- 容量
- 周波數
- 箇數

蓄電所名

蓄電池
- 種類
- 放電時間
- 同容量
- 箇數

工事施行申請ノ部分或ハ竣工明細書添附スルトキハ新ニ落成ノ部分ハ色別其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ區別スヘシ

主任技術者㊞

〔出輯〕

〔出輯〕

第七號樣式

大正　年　月　日

樺太廳長官宛

年　月中電氣事故屆

電氣事業者　氏　名㊞

事故ノ種類
發生ノ日時及天候
事故ノ場所
事故ノ狀況
事故繼續時間
事故發生ノ際ニ於ケル各部
保安裝置ノ指示又ハ狀況
事故ノ原因
事故發生前ニ於ケル關係工作物ノ狀態
應急ノ處置
復舊ノ日時又ハ其ノ見込
損害ノ概算高
備考

注意
一、事故ノ狀況欄ニハ事故ノ程度及範圍、損害ノ有無、死傷者アルトキハ其ノ員數、公衆又ハ操業者ノ別、致死又ハ負傷ノ原因等ヲモ詳記シ且感電死傷者ニ對スル醫師ノ診斷書又ハ檢案書ノ寫ヲ添附スヘシ
二、電線ノ切斷セル場合ニハ其電線ノ種類、太サ、電線支持點間ノ距離及斷線ノ直接原因等ヲモ各相當欄ニ記載スヘシ
三、電線ノ混觸又ハ他ノ工作物トノ接觸ヲ生シタルトキハ電線ノ種類、太サ、電線支持點間ノ距離及兩電線間又ハ電線ト工作物間ノ距離等ヲモ各相當欄ニ記載スヘシ
四、說明上必要アル場合ニ於テハ圖面ヲ添附スヘシ
五、事故ノ原因ノ欄ニハ機械器具其ノ他材料ノ不良又ハ施設方法ノ不完全ナルニ因ルヤ否、操業者又ハ其ノ他ノ者ノ過失若ハ故意、天災其ノ他不可抗力ニ因ルヤ否等ヲモ記載スヘシ

●電氣事業取締規則第二十八條ニ依ル標旗及標燈

大正六年十月二十一日
告示第百一號

大正六年九月遞信大臣令第三十五號電氣事業取締規則第二十八條ニ依リ使用スル標旗及標燈ハ左ノ樣式ニ依リ調製スヘシ

第一標旗ノ樣式

一　第二十八條第二項ニ依リ使用スルモノ

地色　白
縱　二尺
橫　三尺
標章色　赤

電氣事業者ノ商號ニハ名稱ヲ標章ノ下ニ黑書ス

二　第二十八條第四項ニ依リ使用スルモノハ縱一尺五寸橫二尺トシ其ノ他ノ樣式ハ總テ前項ニ準ス

第二標燈ノ樣式

一　第二十八條第二項ニ依リ使用スルモノ

地色　白
形狀　高張提燈
標章色　赤

電氣事業者ノ商號ニハ名稱ヲ標章ノ下ニ黑書ス

二　第二十八條第四項ニ使用スルモノハ通常丸形弓張提燈ノ形狀トシ其ノ他ノ樣式ハ總テ前項ニ準ス

●電氣測定法ヲ樺太ニ施行スルノ件

昭和六年八月十四日
勅令第二百十四號

朕電氣測定法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總、拓、大臣副署）

〔樺法〕

電氣測定法ハ第七條及第八條ノ規定ヲ除キ之ヲ樺太ニ施行ス

附　則

本令ハ昭和六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●電氣測定法

明治四十三年三月二十六日
法律第二十六號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル電氣測定法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總、遞、大臣副署）

電氣測定法

第一條　電氣ノ測定ニ於テハ電氣抵抗ハ「オーム」、電流ハ「アムペア」、電壓ハ「ヴオルト」、電力ハ「ワット」ヲ以テ單位トス

第二條　「オーム」ハ氷ノ融解溫度ニ於テ質量一四、四五二一「グラム」長サ一〇六、三〇〇「センチメートル」ニシテ均一ナル切斷面積ヲ有スル水銀柱ノ不變電流ニ對スル電氣抵抗ヲ謂フ

第三條　「アムペア」ハ硝酸銀ノ水溶液ヲ通過シ每秒〇、〇〇一一八〇〇「グラム」ノ銀ヲ分離スル不變電流ヲ謂フ

第四條　「ヴオルト」ハ一「オーム」ノ電氣抵抗ヲ有スル導體ニ一「アムペア」ノ不變電流ヲ發生セシムル爲要スル不變電壓ヲ謂フ

第五條　「ワット」ハ一「ヴオルト」ノ電壓ニ於テ一「アムペア」ノ不變電流ニ依リ每秒費サルル電氣勢力ヲ以テ表示スル電力ヲ謂フ

第六條　本法ニ依ル電氣單位ハ主務官廳ニ保管スル標準器ニ依リ之ヲ現示ス

第七條　電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ハ檢定ヲ受クヘシ

電氣計器ノ公差及檢定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル電氣計器ヲ電氣ノ取引ニ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　檢定ヲ受ケサルモノ

二　檢定ニ合格セサルモノ

三　檢定ノ效力ヲ失ヒタルモノ

第九條　電氣ノ取引ニ於テ其ノ計量ヲ詐ルノ目的ヲ以テ不正ニ電氣計器ヲ使用シタル者ハ罰前條ニ同シ

第十條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第十一條　電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱、不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法竝第一條ニ揭ケタル以外ノ電氣單位ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本法ハ第七條及第八條ヲ除クノ外明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス（明治四十四年十二月勅令第二百九十五號ヲ以テ同四十五年一月一日ヨリ施行）

第七條及第八條ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十四年十二月勅令第二百九十五號ヲ以テ同四十五年一月一日ヨリ施行）

第七條及第八條施行前ヨリ引續キ電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ニ付テハ別ニ勅令ヲ以テ定ムル期間第八條ノ規定ヲ適用セス（明治四十四年十二月勅令第二百九十五號ヲ以テ同四十五年一月一日ヨリ三年ト定ム）

第七條及第八條施行前ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ試驗ニ合格シタル電氣計器ハ本法ノ檢定ニ合格シタルモノト看做ス

〔樺法〕

●電氣測定法第十一條ニ依ル電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱、不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流、電壓及電力ノ計算方法竝同法第一條ニ揭ケタル以外ノ電氣單位ニ關スル件

昭和六年八月二十日
遞信省令第三十四號

電氣測定法第十一條ニ依ル電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱、不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流、電壓及電力ノ計算方法竝同法第一條ニ揭ケタル以外ノ電氣單位ニ關スル件左ノ通定ム

電氣測定法第十一條ニ依ル電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱、不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流、電壓及電力ノ計算方法竝同法第一條ニ揭ケタル以外ノ電氣單位ニ關シテハ明治四十三年遞信省令第百十七號ニ依ル

附　則

本令ハ昭和六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●電氣測定法ニ依ル計算方法及電氣單位

明治四十三年十二月二十七日
遞信省令第百十七號

電氣測定法第十一條ニ依ル電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱、不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法左ノ如シ

第一條　電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱左ノ如シ

「メグオーム」	「オーム」ノ百萬倍
「マイクロオーム」	「オーム」ノ百萬分ノ一
「キロアムペア」	「アムペア」ノ千倍
「ミリアムペア」	「アムペア」ノ千分ノ一
「マイクロアムペア」	「アムペア」ノ百萬分ノ一
「キロヴオルト」	「ヴオルト」ノ千倍
「ミリヴオルト」	「ヴオルト」ノ千分ノ一
「マイクロヴオルト」	「ヴオルト」ノ百萬分ノ一
「キロワット」	「ワット」ノ千倍
「マイクロクーロム」	「クーロム」ノ百萬分ノ一
「マイクロファラッド」	「ファラッド」ノ百萬分ノ一
「ミリヘンリー」	「ヘンリー」ノ千分ノ一
「マイクロヘンリー」	「ヘンリー」ノ百萬分ノ一
「ワット」時	「ジュール」ノ三千六百倍
「キロワット」時	「ワット」時ノ千倍

第二條　不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法左ノ如シ

一　不變電流以外ノ場合ニ於ケル實效電流ノ不變電流ニ及實效電壓ノ不變電壓ニ對スル等價ハ其ノ瞬時値ノ自乘ノ平均ノ平方根ヲ以テ定ム

二　不變電流一「アムペア」ニ相當スル實效電流ヲ一實效「アムペア」ト稱シ不變電壓一「ヴオルト」ニ相當スル實效電壓ヲ一實效「ヴオルト」ト稱ス

三　電力ハ其ノ瞬時値ノ平均ヲ以テ定ム

第三條　電氣測定法第一條ニ揭ケタル以外ノ電氣單位左ノ如シ

一　電量ハ「クーロム」ヲ以テ單位トス
「クーロム」ハ一「アムペア」ノ電流ニ依リ一秒間ニ輸送サルル電量ヲ謂フ

二　電氣容量ハ「ファラッド」ヲ以テ單位トス
「ファラッド」ハ一「クーロム」ノ電量ニ依リ一「ヴオルト」ノ電位ニ充電サルル蓄電氣ノ電氣容量ヲ謂フ

三　電氣仕事ハ「ジュール」ヲ以テ單位トス
「ジュール」ハ一「アムペア」ノ電流一「オーム」ノ電氣抵抗ヲ有スル導體ヲ通過スルトキ一秒間ニ爲ス仕事ヲ謂フ

四　電氣誘導ハ「ヘンリー」ヲ以テ單位トス
「ヘンリー」ハ毎秒一「アムペア」ノ割合ヲ以テ變化スル電流ニヨリ一「ヴオルト」ノ電壓ヲ發生スル電路ノ電氣誘導ヲ謂フ

附　則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●電氣計器使用規則

昭和二年六月二十二日
遞信省令第二十二號

改正　昭六年八月遞令三五號

第二十類　通信　電氣　瓦斯　第二章　電氣　瓦斯

電氣計器使用規則左ノ通定ム

電氣計器使用規則

第一條　電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ハ明治四十四年遞信省令第五十一號電氣計器檢定規則ニ依ル檢定ニ合格シ且ツ其ノ效力ヲ失ハサルモノナルコトヲ要ス

第二條　電氣ヲ供給スル者ハ現ニ電氣ノ取引ニ使用スル計器ノ檢定番號、檢定年月日、製造者名、番號及其ノ種類、格定竝使用場所ヲ記載セル帳簿ヲ備フヘシ

第三條　電氣ヲ供給スル者ハ毎年三月三十一日現在ニ於テ其ノ供給スル電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ノ箇數ヲ別記樣式ニ依リ四月三十日マテニ棒太廳長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆書ハ直接棒太廳ニ提出スヘシ

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル電氣計器ヲ電氣ノ取引ニ使用シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　檢定ヲ受ケサルモノ
二　檢定ニ合格セサルモノ
三　檢定ノ效力ヲ失ヒタルモノ

前項ノ場合ニ於テ刑法ニ規定アルモノハ其ノ規定ニ從フ

第五條　第二條又ハ第三條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第六條　前二條ノ罰則ハ刑法第三十九條及第四十一條ノ規定ニ依リ其ノ者ノ行爲ヲ罰セサル場合ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ適用シ商事會社其ノ他ノ法人ノ場合ニ在リテハ其ノ代表者ニ適用ス

附　則

本令ハ昭和二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式）

取引用電氣計器箇數調

在現日一十三月三十和昭　年

電氣供給者名　㊞

製造者名……

……年度檢定

計器ノ種類……

電氣方式	直流		單相交流「サイクル」			三相交流「サイクル」			
電壓 / 電流	低壓	高壓	低壓	高壓	特高	低壓	高壓	特高	計
5「アムペア」以下									
10「　同　」同									
20「　同　」同									
30「　同　」同									
50「　同　」同									
100「　同　」同									
200「　同　」同									
300「　同　」同									
500「　同　」同									
1.000「　同　」同									
1.001「　同　」以上									
計									

備考　本調書ハ現ニ使用中ノ電氣計器ノ檢定年度、製造者別及計器ノ種類（積算電力計、積算電量計、最大負荷示器、二種料金計器、差動積算電力計等ノ別）ニ付別紙ニ之ヲ調製スヘシ

〔樣法〕

第二節　瓦斯

●瓦斯事業取締規則

大正八年九月二十六日
勅令第三十號

瓦斯事業取締規則

第一條　本令ニ於テ瓦斯事業ト稱スルハ一般ノ需用ニ應シ瓦斯ヲ供給スルヲ謂フ

第二條　瓦斯事業ヲ營マムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ樣太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ第二號、第四號乃至第十號及第十二號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一、本籍、住所、氏名、生年月、法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ住所、氏名、生年月及定款

二、瓦斯製造所所在地及數地略圖

三、瓦斯製造所四隣二町以內ノ見取圖（建設物、道路等ノ距離ヲ附記スヘシ）

四、瓦斯製造所建物ノ坪數、構造仕樣書及瓦斯發生器、精成器、瓦斯槽、瓦斯メートル、コールター貯溜所其ノ他主要設備ノ位置ヲ示シタル平面圖

五、瓦斯槽、火爐、煙突ノ箇數及構造仕樣書（瓦斯槽ニ付テハ容量ヲ記載スヘシ）

六、汽罐汽機其ノ他原動機ノ種類、數量及馬力數

七、供給瓦斯ノ種類、製造及供給見積高

八、供給區域及線路ヲ記載シタル圖面（地下電話線、電燈用電壓等電氣工作物トノ關係及其ノ距離ヲ記載スヘシ）

九、瓦斯管ヲ河海、溝渠ニ埋設セムトスルトキハ其ノ埋設方法及平水面ニ對スル距離

十、埋設又ハ架設スヘキ瓦斯管ノ種類、厚サ、內徑、接合、屋內取付ノ方法及瓦斯遮斷器ノ種類、竝設置場所

十一、事業資金ノ總額、其ノ出資ノ方法、工事費豫算書及事業上ノ收支概算書

十二、工事着手期日及竣工期限

第三條　瓦斯事業ヲ讓渡セムトスルトキハ當事者連署ノ上樣太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ讓渡終了シタルトキハ當事者連署ヲ以テ遲滯ナク樣太廳長官ニ屆出ツヘシ

前二項ノ規定ハ瓦斯事業者タル會社ノ合併ニ之ヲ準用ス相續ニ依リ瓦斯事業ヲ承繼シタル者ハ遲滯ナク戶籍謄本ヲ添ヘ樣太廳長官ニ屆出ツヘシ

第四條　瓦斯事業者ハ事業着手前主任技術者ヲ定メ履歷書ヲ添ヘ樣太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ主任技術者職關シタルトキ亦同シ

前項ノ主任技術者其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ不適當ト認ムルトキハ樣太廳長官ハ何時ニテモ其ノ解任ヲ命スルコトアルヘシ

主任技術者疾病、旅行其ノ他ノ事故ニ因リ一月以上職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ瓦斯事業者ハ其ノ代務ヲ選任シ履歷書ヲ添ヘ樣太廳長官ニ屆出ツヘシ

第五條　本令ニ依リ官廳ニ提出スル書類圖面中技術ニ關スルモノハ主任技術者又ハ其ノ代務者之ニ署名捺印スヘシ但シ主任技術者選任前ニ在

〔樣法〕

リテハ其ノ設計ヲ擔當シタル技術者之ニ署名捺印スヘシ

第六條　工事竣工シタルトキハ十日以内ニ樺太廳長官ニ届出使用ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　瓦斯事業者ハ需要者ニ對シ正當ノ理由ナクシテ瓦斯ノ供給ヲ拒絶スルコトヲ得ス

第八條　瓦斯事業者ハ營業規程ヲ定メ事業開始前樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第九條　瓦斯管埋設及取付ニ關シテハ左記各號ニ從フヘシ

一、瓦斯管埋設ノ深サハ地表ヨリ三尺以上タルコト但シ引込線ハ此ノ限ニ在ラス

二、瓦斯管ハ地中鐵管其ノ他ノ金屬又ハ建設物ト接近シテ埋設スヘカラサルコト但シ特ニ危險豫防ノ裝置ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

三、瓦斯管ヲ地中電線路、水路、鐵管又ハ軌道等ト竝行若ハ交叉シテ埋設セムトスルトキハ工事着手ノ際其ノ管理人ト協議ノ上立會ヲ求ムルコト

四、屋内ニ於テ瓦斯管ト電燈、電力用電線ト交叉又ハ接近セムトスルトキハ五寸以上離隔スルコト但シ工事上已ムヲ得ス右制限以内ニ接近又ハ交叉スル場合ハ電氣事業者ト協議ノ上特ニ危險豫防ノ裝置ヲ爲スコト

第十條　瓦斯管ノ要所及引込口ニハ容易ニ瓦斯ヲ遮斷シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ

第十一條　瓦斯供給線ノ附近ニ出火其ノ他災害アルトキハ直ニ現場ニ技術員ヲ派遣シテ危險豫防ノ爲必要ナル措置ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官吏ニ届出シムヘシ

技術員ニハ現場ニ於テ標旗又ハ標燈ヲ携帶セシムヘシ技術員ハ警察官吏ノ許可ヲ受クルニ非レハ現場ヲ去ルコトヲ得ス

第十二條　左ノ場合ニ於テハ瓦斯事業者ハ直ニ其ノ日時、場所、原因、狀況被害ノ程度及應急處置等ヲ具シ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

一、瓦斯製造所瓦斯槽其ノ他ノ工作物ノ損壞又ハ瓦斯ノ作用ニ因ル災害アリタルトキ

二、瓦斯供給ヲ十時間以上停止シタルトキ

三、瓦斯製造、供給ニ關シ重大ナル事故發生シタルトキ

第十三條　樺太廳長官ハ必要ト認ムルトキハ吏員ヲ派遣シ瓦斯工作物又ハ其ノ工事中ノ狀況若ハ事業經營ノ實況ヲ監督セシメ又ハ現ニ使用シ若ハ使用セムトスル機械器具其ノ他ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第十四條　左ノ場合ニ於テハ瓦斯事業者ハ十日以内ニ樺太廳長官ニ届出ツヘシ但シ第三號ノ場合ニ在リテハ相續人又ハ精算人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一、第二條第一號又ハ第十一號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ

二、事業ヲ開始シ廢止シ又ハ休止シタルトキ

三、瓦斯事業者死亡シ又ハ法人ニシテ解散シタルトキ

第十五條　樺太廳長官ハ瓦斯工作物ノ他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ナリト認ムルトキハ瓦斯工作物ノ改修、撤去、使用ノ停止又ハ保安上必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

瓦斯事業者前項ノ命令ニ從ハサルトキハ樺太廳長官ハ營業ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

〔樺法〕

第十六條　樺太廳長官ハ公益上必要ト認ムルトキハ瓦斯事業者ニ對シ料金ノ制限其ノ他瓦斯供給ノ條件ニ關シ命令ヲ發スルコトアルヘシ

第十七條　瓦斯事業者ハ毎年二回瓦斯製造高、供給高（燈用、熱用、動力用ニ區別スヘシ）及需要者ノ增減ヲ調査シ六月及十二月末日迄ニ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

第十八條　瓦斯事業者ハ毎事業決算期ニ於テ事業概況報告書ヲ調製シ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

第十九條　本令ニ依リ提出スヘキ願届書ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二十條　自家用ニ供スル目的ヲ以テ瓦斯ノ使用ヲ爲サムトスル者ハ工事設計書ヲ付シ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ但シ瓦斯發動機ニ直接使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一、許可ヲ受ケスシテ瓦斯事業ヲ營ミ又ハ第二條第四號乃至第十號第十二號ノ事項ヲ變更シタル者

二、第八條第九條及第十條ノ規定ニ違反シタル者

三、第十五條及第十六條ノ命令ニ違反シタル者

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一、認可ヲ受ケスシテ瓦斯事業ヲ讓渡シ又ハ第三條第二項、第四項、第四條第一項、第三項、第五條乃至第七條、第十一條、第十二條、第十四條、第十七條及第十八條ノ規定ニ違反シタル者

二、第四條第二項ノ命令ニ違反シタル者

三、第十三條ノ規定ニ依ル當該吏員ノ職務執行ヲ拒ミタル者

四、認可ヲ受ケスシテ自家用ニ供スル目的ヲ以テ瓦斯ヲ使用シタル者

第二十三條　瓦斯事業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　瓦斯事業者ノ雇人其ノ他ノ從業者其ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ瓦斯事業者ヲ處罰ス

第二十五條　法人ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ法人ヲ處罰ス此ノ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔樺法〕

●瓦斯事業取締規則施行心得

大正八年九月二十六日
廳訓令第四十八號
警察部　警務課　〔警察分署〕

瓦斯事業取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第二條ノ願書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ樺太廳長官ニ進達スヘシ

一、出願人ノ經歷、資產、信用ノ程度

二、附近居住者及地主等ニ於ケル故障ノ有無

三、瓦斯製造所、貯藏所ノ附近ニ官公署、病院、公園、神社佛閣其ノ

他公共的建物ノ有無竝其ノ距離
四、出願人ノ供給區域ト他ノ同一事業者ノ供給區域トノ距離
五、規則第二條各號ヲ具備スルヤ否及其ノ適否
六、其ノ他參考トナルヘキ事項

第二條　瓦斯製造所、貯藏所ノ變更改築又ハ供給區域變更ノ願書ヲ受理シタルトキハ前條ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ

第三條　規則第三條、第四條、第六條、第八條ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ速ニ之ヲ進達スヘシ但シ事業讓渡ノ認可申請ニ係ルモノニ在リテハ意見ヲ具スヘシ

第四條　規則第十五條ニ依ル瓦斯工作物ノ改修、撤去、使用ノ停止其ノ他保安上必要ナル措置ニ關シ命令ヲ發シ又ハ許可ヲ取消スノ必要アリト認ムルトキ又ハ規則第十六條ニ依ル料金ノ制限其ノ他瓦斯供給ノ條件ニ關シ命令ヲ發スルノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事實ヲ詳細報告スヘシ

第五條　瓦斯製造所、貯藏所其ノ他ノ附屬工作物ニ對シテハ每月一回以上警察官吏ヲシテ監査ヲ爲サシメ瓦斯濃淺又ハ瓦斯成分試驗等ヲ行フ必要アリト認ムルトキハ其ノ旨報告スヘシ

第六條　災害其ノ他ノ事故ニ因リ瓦斯供給ヲ十時間以上停止シ又ハ瓦斯事業ニ關シ死傷其ノ他重大ナル事故アリタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ即報スヘシ

一、事故ノ種類
二、發生ノ日時、場所及狀況
三、原因
四、應急處置
五、復舊ノ日時又ハ其ノ見込
六、損害價格
七、其ノ他參考トナルヘキ事項

第七條　瓦斯事業ニ關スル犯罪ヲ檢擧シタルトキハ其ノ事實及結果ノ概要ヲ報告スヘシ

第八條　警察官署ニ於テハ左記樣式ノ瓦斯營業者臺帳ヲ調製シ異動アル每ニ整理スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺帳樣式　（用紙半紙）

許可番號第　號	營業者ノ本籍住所氏名生年月
許可年月日　大正年月日	法人ニ在リテハ名稱及代表者ノ住所氏名
廢業年月日　大正年月日	
取消年月日　大正年月日	
事業ノ目的	
瓦斯製造所ノ位置	
瓦斯ノ種類	
供給區域	
事業開始年月日	

〔縱法〕

資本金額	
事務所所在地	
社長及取締役ノ住所氏名	

瓦斯事業者臺帳

常時使用スル職工ノ概數	
使用料金	
作業時間	自　月　日午前（後）　時　分 至　月　日午前（後）　時　分
主任技術者ノ住所氏名年齡	
備考	

〔縱法〕

樺太廳法規輯覽 年別索引

明治四十年

廳令

一 樺太廳公布式設定……廢止 大七年廳令一二
二 種子貸付規則設定……廢止 明四一年廳令三八
三 牛、馬、豚種付規則設定……廢止 大九年廳令六
四 家畜貸付規則設定……消滅 明四一年廳令三九
五 代書業取締規則設定……廢止 昭八年廳令三〇
六 出入船舶ニ關スル屆出規則設定……全改 大一三年廳令三五
【六】二三二
七 宿屋營業取締規則設定……廢止 昭六年廳令一九
八 雇人口入營業取締規則設定……全改 大五年廳令一三
九 理髮營業取締規則設定……廢止 昭八年廳令二五
一〇 賣肉營業取締規則設定……廢止 明四三年廳令三三
一一 漁業ニ關スル屆出規則設定……【六】二五五
一二 馬車營業取締規則設定……
一三 牛馬ニ關スル屆出規則設定……廢止 昭三年廳令四
一四 料理店及飲食店營業取締規則設定……【六】二三五
一五 藝妓及酌婦取締規則設定……廢止 大九年廳令三八
一六 貸座敷及娼妓取締規則設定……【六】二七七
一七 船舶運送取扱營業取締規則設定……【六】二五九
一八 艀船、小廻船及渡船營業取締規則設定……廢止 明四三年廳令一三
一九 消防組規則設定……廢止 大八年廳令六

年齒索引 明治四十年

廳令

二〇　消防組規則施行細則設定……同　上
二一　屠獸場及屠獸營業取締規則設定……【七】二二
二二　湯屋營業取締規則設定……【六】二四六
二三　汚物掃除規則設定……【七】三五
二四　汚物掃除營業取締規則設定……【七】三六
二五　便所設置規則設定……【七】三七
二六　居住、移轉、出生及死亡ニ關スル届出規則設定……全改　明四一年廳令一九
二七　棒太逃警罪目設定……廢止　明四四年廳令二一
二八　明治四十年勅令第六十四號施行ニ關スル件……【一〇】一
二九　明治三十七年遞信省令第四十八號出納員現金取扱規則ヲ棒太廳郵便電信局ニ準用ノ件……【一〇】六八
三〇　郵便物ノ配達ニ關スル件……○
三一　鑛物探掘不許可ノ件……廢止　明四一年廳令二〇
三二　家畜島外移出不許可ノ件……廢止　明四〇年廳令六九
三三　森林原野産物賣拂規則……【九】三九一
三四　官有建物貸付規則……廢止　明四一年廳令三六
三五　棒太國有土地貸付規則……○
三六　從前漁業鑑札ヲ有スル者漁業從事許可ノ件……○
三七　免許以外ノ漁具使用罰則ノ件……【六】二八七
三八　興行場及興行取締規則……廢止　昭七年廳令一六
三九　市場取締規則……全改　明四〇年廳令八五
四〇　棒太漁業取締規則……廢止　大二年廳令八
四一　棒太漁業鑑札規則……廢止　明四〇年廳令八六
四二　搾粕制限ノ件……【棒法】

廳令

四三　醫師及齒科醫師假免許規則……【七】九〇
四四　醫師及齒科醫師開業取締規則……全改　昭七年廳令三二
四五　鍼灸術營業取締規則……廢止　昭七年廳令二一
四六　棒太廳警察官吏防寒外套制式ノ件……廢止　明四一年廳令三七
四七　漁業權者土地使用規則……廢止　明四三年廳令三〇
四八　死亡診斷書、死體檢按書及死產證書死體檢按書ノ樣式竝ニ記載例……【七】一一〇
四九　煙筒取締規則……【六】一二四
五〇　消火器及洋燈設備方ニ關スル件……【六】一二五
五一　租稅賦課徵收規則……消滅　大五年廳令一八
五二　墓地火葬場及埋火葬取締規則……【七】三八
五三　紀念繪葉書發行及發賣ニ關スル件……○
五四　墓地使用規則……廢止　大一四年廳令一七
五五　質屋取締規則法令施行細則……【六】二一二
五六　森林原野産物處分ニ用ユル極印使用規則……廢止　大六年廳令一六
五七　電話規則……廢止　大八年廳令一三
五八　棒太廳令第三十一號廢止ノ件……○
五九　棒太鑛業規則……廢止　大元年廳令二
六〇　砂鑛採取法施行規則……消滅　明四二年廳令二四
六一　鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手數料ノ件……廢止　明四二年廳令二五
六二　棒太鐵道規程……廢止　大八年廳令三一
六三　屠獸場及屠獸營業取締規則中ノ追加……○
六四　賣肉營業取締規則中追加……○
六五　棒太廳支廳令公布式……消滅　大七年廳令一二

【棒法】

廳令

六六　鑛物ノ分析檢定及鑑定規則……廢止　大二年廳令三九
六七　樺太廳コルサコフ棧橋使用規則……廢止　明四二年廳令四
六八　外國旅券規則……【六】三四五
六九　森林原野產物竇携規則……廢止　明四五年廳令三
七〇　免許漁業者山林伐採ノ件……○
七一　樺太廳令公布式中改正……○
七二　樺太廳支廳令公布式中改正……○
七三　砂鑛採取法施行細則中改正……○
七四　外國旅券規則中改正……廢止　大八年廳令三五
七五　赤痢等ノ患者診斷屆出ノ件……○
七六　樺太廳令公布式中追加……○
七七　樺太廳支廳令公布式中追加……○
七八　租稅賦課徵收規則中改正……○
七九　家畜貸付規則中改正……廢止　明四五年廳令二二
八〇　樺太鑛業登錄規則……【一四】八六
八一　共同放牧地貸付規則……廢止　明四四年廳令二〇
八二　樺太漁業免許規則……消滅　明四四年廳令六
八三　免許漁業ニ關シ差出ス申請書ニ要スル手數料ノ件……廢止　明四二年廳令一九
八四　樺太漁業綜札規則……全改　明四三年廳令一
八五　樺太漁業取締規則……○
八六　明治四十年四月廳令第四十二號廢止ノ件……廢止　明四二年廳令九〇
　　樺太廳分課規程……全改　明四二年廳訓令一六二【繰法】

廳訓令

一　樺太廳支廳事務分掌規程……五

六　第一部長　支廳長　郵便局長　徵收竝支拂命令分任……全改　明四二年廳訓令八九【繰法】
　　醫院長訓令例規書式……廢止　明四三年廳訓令一八六
一二　樺太移住民取扱規程……【一四】一二八
一七　巡查給與品支給規程……廢止　大五年廳訓令一二
三〇　樺太廳郵便電信局分課規程……消滅　明四二年廳訓令四
三一　樺太廳郵便電信局事務分掌規程……同　上
三二　通信雇員規則……廢止　大一四年訓令二〇
三三　通信手規則……【二〇】一三六
三四　通信工手同見習及通信技工規則……【二〇】一四一
三五　電信現業事務繁劇ノ局ニ信使ヲ置ク件……○
三六　郵便行囊整理規程……廢止　大一五年訓令一三一
三七　租稅外諸收入收納取扱手續心得方……○
四三　本年度歲入歲出科目……○
四四　樺太廳當直規程……廢止　明四二年廳訓令一六〇
四六　宿直食料支給規則……廢止　大三年廳訓令二五
四七　通信日附印ノ件……廢止　昭二年訓令二二八
五三　樺太廳郵便電信及同支局電報取扱種別……○
五六　樺太廳郵便電信及同支局電報取扱種別中改正……○
六二　郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話事務ニ關シテハ遞信省ノ規程令達通牒ニ準據スルノ件……【二〇】一
六三　郵便電信局特殊通信日附……○
六六　變死傷者檢視手續……【六】一七三
七〇　樺太廳物品取扱細則……【九】三七〇
七四

訓令

八三　日額及月額旅費規則……廢止　明四二年廳訓令四二
八五　徵收報告書調製ノ證憑書トシテ書類提出方……○　消滅　大五年廳令一八
八七　租稅賦課徵收細則……
八九　巡査給與品支給規程中改正……○
九〇　巡査宿料支給規程……廢止　明四一年廳訓令二三
九一　傭人被服給與及貸與規則……廢止　大元年廳訓令一
九三　船員被服給與及貸與規則……廢止　明四五年廳訓令一一
九四　經費支出規程……○
九五　宿直食料支給規則中改正……廢止　大五年廳訓令一二
九六　巡査賄料支給規則……
九七　電報取扱種別……○
九八　修路工夫設置規則……【一九】一
一〇二　樺太廳鐵道旅客荷物運送取扱手續……廢止　大一二年廳訓令二七
一〇三　樺太廳鐵道荷物運賃追徵及拂戻手續……廢止　大一二年告示八六
一〇四　旅費減額支給規程……廢止　明四三年廳訓令四一
一〇八　氣象局報取扱規程……廢止　明四四年廳訓令五
一一一　電話呼出規程第四條ノ取扱開始ノ件……自然消滅
一一二　遞信省令第四十號電話呼出規程第一條ノ請求ニ關スル件……○
一一三　電話又ハ郵便電信ニ關シ緊急ヲ要スル場合ニ限リ無料通話ノ件……【一〇】一三三
一一四　樺太廳鐵道收入手續……全改　昭五年訓令二〇三
一一九　鐵道事務所職制……消滅　大八年勅令一〇五
一二三　樺太廳鐵道用品取扱細則……廢止　大一四年訓令一二五
一二四　コルサコフ戶數割及營業稅雜種稅等級……○

【樺法】

訓令

一二七　通信屬員等ニシテ勤務手當及同加給ノ給與ヲ受クヘキ者ニ宿直食料ヲ支給セサル件……○
一二八　樺太廳醫院收入取扱規程……【九】二〇三
一三〇　名好海馬島支局電報取扱種別……○
一三二　樺太廳鐵道係員被服貸與規則……廢止　明四四年廳訓令二八
一三五　林產物處分ニ關スル件……廢止　明四五年廳訓令五
一三六　會計檢查規程……【九】三九四
一三七　支廳出張所經費支出ニ關スル件……○
一四〇　現業傭人制服規則……廢止　昭三年訓令三五五
一四二　樺太廳鐵道傭人規則……全改　昭七年訓令一四七
一四三　官舍貸渡規則……【九】三九二
一四四　巡查特別手當及宿料支給細則……廢止　大五年廳訓令一二
一四五　徵發令中町村長ノ職務ニ關スル件……【一三】八一
一四七　本年七月樺太廳訓令第百八號氣象局報取扱規程中改正……○
一四八　樺太鑛業登錄規則施行細則……廢止　明四五年廳令二二
一五一　防疫事務ニ從事セシ巡查ニ普通旅費支給……○
一五二　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……
一五四　同件……○
一六七　樺太廳特別會計歲入歲出中追加……
一七〇　同件……○
一七二　鐵道用品取扱細則中改正……○
一七三　關體乘車割引規程……【二】三三三
一七四　樺太廳支廳處務規程……廢止　昭六年訓令二七一
一一　違警罪即決處分手續……

訓令
一四　巡査休暇規則……廢止　昭八年訓令五九
一五三　署長以下貸與時計修理ノ件……【一九】三七〇
七　嘱託員雇員傭人給與規則……廢止　昭八年訓令四三
訓
一三　巡査訓授規則……【六】一一
一六　警察官吏稱呼令……【六】三五
一八　所在不明ノ徴兵終決處分未濟者ニ關スル件……○
二〇　宿屋營業取締規則施行心得……【六】二三四
二四　貸座敷及娼妓取締規則施行手續……【六】二八一
二五　留置場取締規程……【六】三二一
二六　藝妓及酌婦取締規則施行心得……全改　大九年廳訓令五三
四〇　巡査ノ事務分掌及動務命令委任ノ件……○
四五　馬車營業取締規則施行手續……【六】二五八
五〇　諸營業雇人名簿ノ件……【六】三七三
五四　湯屋營業取締規則施行心得……【六】二四八
六一　煙筒取締規則施行及宿屋營業等消火器設備ニ關スル件……【六】一二五
六五　墓地火葬場及埋火葬取締規則施行心得……【七】四一
六七　巡査敎習所規則……消滅　大一〇年廳訓令六五
六八　牛馬ニ關スル屆出規則施行手續……消滅　昭三年廳令四
六九　巡査敎習規程……廢止　大六年訓令一〇九
七二　戸口調査規程……全改　昭七年訓令二二八
八〇　質屋取締法令施行細則取扱手續……【六】二一六
九二　興行場及興行取締規則取扱手續……【六】二九一
一〇〇　屠獸場屠獸營業取締規則施行心得……【七】二四
一〇五　印鑑取扱手續……廢止　大一一年廳訓令三三
一一〇　囚人及刑事被告人押送順序……【六】三一三

【縡法】

一一六　鐵道運輸收入帳表類取扱手續……全改　大一二年廳訓令一三
一一七　樺太廳鐵道職務乘車證發行內規……廢止　大一三年訓令一七三
一一八　鐵道事故報告內規……廢止　大一四年訓令二二三
一二一　外國旅券規則施行心得……廢止　大一四年訓令二七〇
一五八　警察官吏警笛用方……【六】三五
一七　巡査部長採用內規……廢止　大一四年訓令二七八
一　消防組設置地域……○
二　便所設置地域……消滅　大一二年告示六二
三　大泊外二市街地及鈴谷外二縣野國有土地貸付區域ノ件……【一四】四二
四　軍事郵便局及同逓信所ヲ樺太廳ニ譲渡ノ件……○
五　貸座敷營業地域……【六】二八七
六　樺太廳支廳ノ名稱位置及管轄區域……○
七　樺太廳廳院「コルサコフ」ニ設置……○
八　樺太廳廳院分院、名稱及位置……○
九　測候所位置、名稱……○
一〇　樺太廳支廳出張所名稱位置及管轄區域……全改　大七年告示六五
一一　樺太廳郵便電信局位置及取扱事務……【二】七一
一二　樺太廳郵便電信局マウカ支局設置……【二】七一
一三　樺太廳郵便電信局支局取扱事務及時間……○
一四　樺太廳廳院入院料藥價等ノ件……全改　明四二年告示八八
一五　市街宅地貸付料ノ件……○
一六　營業ニ要スル土地使用料ノ件……○
一七　樺太廳支廳出張所名稱位置及管轄區域中改正……○

内訓
告示

告示

一八　コルサコフウラジミロフカマウカ共葬墓地位置及區域……消滅　大三年告示一〇九
一九　煙筒取締規則施行地域指定……○
二〇　樺太廳郵便電信局クスンナイ外三支局設置……【二】七一
二一　樺太廳開廳式記念郵便繪葉書種類發賣價格及期日……○
二二　鮭鱒ノ保護河川及翔沼……○
二三　租稅納期日ノ件……【二】七一
二四　クスナイ支局ニ於テ郵便爲替等事務取扱……廢止　明四三年告示八〇
二五　郵便私書函使用料ノ件……○
二六　本年告示第三號中追加ノ件……【二】七一
二七　豫戒命令……○
二八　郵便電信支局新設ノ件……【二】七一
二九　電話加入申込受理ノ件……○
三〇　電話加入區域……全改　大五年告示九二
三一　電話加入登記料電話加入名義書換料使用料……○
三二　明治四十年樺太廳告示第十四號中改正……○
三三　コルサコフ市街町名改稱……○
三四　コルサコフ市街ニ町名設定……○
三五　貸座敷營業地域改正……○
三六　工事請負及工用品竝職工人夫供給規則……【九】三七四
三七　支局移轉及取扱事務……【二】七一
三八　シララカ支局郵便事務取扱……【二】七一
三九　印鑑證明ニ關スル件……廢止　大一一年廳令二〇
四〇　鐵道旅客運賃荷物運賃及等級中改正……○

【樺法】

四一　郵便局出張所設置……【二】七一
四二　鐵道各驛業務取扱……【一九】四五
四三　樺太郵便電信局ニ電話交換事務開始……廢止　明四〇年告示七二
四四　樺太大泊出張所等ニ電話通話事務開始……廢止　明四一年告示五三
四五　初音町ニ電話所設置……○
四六　電話加入區域外電話通話區域竝電話料等中改正……【二】七一
四七　電話呼出規程ニ依ル呼出地域……【二】七一
四八　電話通信時間……○
四九　列車運轉時刻實施……廢止　大五年告示九三
五〇　停車場入場料制定……○
五一　コルサコフ測候所出張所名稱位置……【二】七一
五二　ナヤシヘ郵便電信支局設置……【六】三四七
五三　同一旅券ヲ以テ數次往復スヘキ地ノ件……○
五四　マウカ市街增設區劃地名稱……廢止　大七年告示一一八
五五　地方天氣豫報及天氣豫報信號ノ標式……同　上
五六　コルサコフ天氣豫報……○
五七　クスンナイ市街地町名……○
五八　マウカ分院廢止……○
五九　產婆名簿登錄……○
六〇　マウカ市街町名改正……○
六一　ウラジミロフカ電話交換業務開始……○
六二　コルサコフ市街ニ町名設定……廢止　明四五年告示一五
六三　新聞紙雜誌運賃割引……同　上
六四　本島農產物運賃割引……○

【樺法】

告示
六五　シスカ測候出張所事務開始……○
六六　鰊鱒鮭ノ建網漁業入札規則……○
六七　醫師假免許……○
六八　支廳出張所名稱位置管轄區域中改正……○
六九　普通試驗細則並同手續……○
七〇　マウカ及ガルキノウラスコエ測候出張所開始……○
七一　砂鑛採取許可……○
七二　列車運轉時刻改正……全改　明四一年告示三九
七三　鐵道貨物特別割引……廢止　明四五年告示一五
七四　砂金採取許可……○
七五　遡川魚類ノ蓄殖保護河川……○
七六　西海岸漁業鑑札下附出願方ニ關スル件……○
廳議決定
殖民地撰定及區劃施設規程……○
土地調査心得……【一四】七九
區劃測設調査員心得……【一四】八二
區劃地及既墾地一筆原簿調製ニ關スル件……【一四】八五
通牒樺長
一八　樺太廳員非常心得……廢止　昭七年訓令一八七
樺長
七七　租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託並受託ニ關スル件……【九】六五八

明治四十一年

廳令
一　郵便電信電話料金滯納者財產差押官吏證票雛形……【二〇】三五
二　種子貸付規則中改正……○
三　舊露國人カ其ノ租借漁場ニ付屬シテ建設シタル各種建物及其ノ他財產等ニ關スル件……廢止　明四三年廳令三
四　樺太廳立小學校教員俸給旅費及諸給與規程……廢止　大九年廳令二四
五　小學校ノ學期教授終始ノ時刻教授日數及休日ニ關スル規程……全改　大五年廳令三
六　赤痢腸窒扶斯及實扶拯利亞患者屆出ノ件……廢止　大八年廳令三五
七　市街地ニ於テ魚粕ノ製造又ハ乾燥ヲナスコト得サルノ件……【七】二二
八　私立小學校及幼稚園、盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ設置廢止ニ關スル規程……【一二】四三
九　私立小學校補助規則……全改　明四三年廳令一一
一〇　私立小學校施行細則……廢止　明四三年廳令一四
一一　醫師補助規則……廢止　大二年廳令二三
一二　公醫規則……全改　大二年廳令二四
一三　樺太國有土地貸付規則中改正……○
一四　樺太廳令公布式中改正……○
一五　樺太廳支廳令公布式中改正……○
一六　鑛業規則中改正……○
一七　砂鑛採取法施行細則中改正……○
一八　紀念郵便繪葉書發行ノ件……○
一九　居住者移轉出生及死亡ニ關スル屆出規則改正……消滅　大九年廳令三五
二〇　明治四十年四月廳令第三十二號廢止ノ件……○
二一　樺太廳鐵道事務所規程……廢止　明四四年廳令一六
二二　樺太廳水產試驗場規程……廢止　大七年廳令一一
二三　樺太廳農事試驗場規程……同　上
二四　樺太廳農事種畜場規程……同　上

勅令

二五　樺太廳測候所規程……同　上
二六　樺太廳支廳長委任事項……廢止　明四二年廳令二九
二七　樺太廳支廳出張所長取扱事項……全改　明四二年廳令三〇
二八　樺太廳立小學校准敎員ノ進退ニ關スル件……廢止　大九年廳令二八
二九　漁業料ノ納期ニ關スル件……廢止　大五年廳令六
三〇　有價貸付地賣拂規程……廢止　明四五年廳令一
三一　諸願屆提出方ニ關スル件……全改　大一一年廳令一七
三二　支廳委員事項中改正……○
三三　土地臺帳規則……廢止　昭三年廳令四〇
三四　支廳長委任事項中改正……○
三五　驛遞取締規程……廢止　明四三年廳令一六
三六　國有土地管理規則……廢止　明四五年廳令一
三七　樺太廳警察官吏防寒具制式圖……【三】二九七
三八　種子給與規則……全改　大七年廳令六
三九　家畜貸付規則……廢止　大四年廳令三
四〇　土人ノ共有スル漁業權貸付ノ件……【一六】四九

廳訓令

六　巡査考試規程……消滅　大五年廳令一二
一〇　材料渡被服給與品材料額ノ件……廢止　大元年廳訓令一
一三　樺太廳特別會計歲入歲出科目……○
一二三　巡査宿料支給規程改正……廢止　大五年廳訓令一二
一二五　明治四十年廳訓令第百八號中改正……○
一二八　樺太廳鐵道收入取扱手續中改正……○
一三一　囑託員雇員傭人給與規則中改正……○

【棒法】

一三三　四十一年度營業稅雜種稅及戶數割賦課等級……○
一三七　樺太廳立小學校長及敎員ノ職務及服務ニ關スル心得方……廢止　大九年廳訓令三九
一三八　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
一五〇　行旅病人行旅死亡人取扱手續……廢止　大一一年廳訓令四九
一五三　明治四十年廳訓令第百三十二號中改正……○
一五四　守備隊及樺太廳移廳紀念特殊日附印使用……○
一六九　明治四十年廳訓令第百四十三號中改正……○
一七〇　徵收竝ニ仕拂命令委任ニ關スル件中改正……○
一七一　支出計算書及證憑書提出ノ件……○
一七四　電報取扱種別……○
一七五　臨時調查係設置……○
一七六　囑託員雇員傭人給與規則中改正……○
一九五　樺太廳鐵道作業處務細則……○
一〇三　樺太廳鐵道收入取扱手續中改正……○
一〇四　樺太廳鐵道用品取扱細則中改正……○
一〇八　林產物處分ニ關スル心得中改正……○
一一四　大泊局電報取扱種別……○
一一七　ノダサン支局取扱電報種別……○
一二七　樺太廳歲入歲出科目中追加……○
一二八　明治四十年廳訓令第六號中改正……○
一三四　本年四月廳訓令第十三號中追加……○
一四二　罰遞取締規程……廢止　明四三年廳令一六
一四七　警察官吏定額旅費規則……全改　明四五年訓一〇

廳訓令

一四九　本年四月廳訓令第十三號中改正……廢止　明四五年訓六
一五二　樺太國有森林原野產物實査規程……廢止　大二年廳訓令六
一五三　巡査誓約年限……【三】一九三
一五五　巡査給與品ニ關スル件……○
一六二　郵便電信支局取扱種別……○

訓令

四　巡査給與品及貸與品取扱規程……廢止　大一〇年訓令九七
一四三　警察官吏非常召集規程……廢止　昭七年訓令一四五
三　巡査採用手續……全改　大一五年訓令一五
六　國境附近土地建物貸付禁止ノ件……【一四】九三
二七　巡査部長派出所巡査派出所巡査駐在所備品ノ件……【六】三六
三四　巡査精勤證書申請心得……【三】二七四
三五　在學兒童ノ出席簿樣式ノ件……廢止　大一二年廳訓令三九
四三　巡査服務心得……廢止　昭七年訓令一四四
九四　樺太廳醫院長專決事項……廢止　昭七年訓令三〇二
九九　刑ノ執行停止者ニ對スル取扱方ノ件……【六】三一三

告示

一　國際返信切手券賣捌ニ關スル件……廢止　大一二年告示四八
二　產婆名簿登錄……○
三　本廳巡査志願ニ關スル件……○
四　醫師假免許……○
五　明治四十一年一月及二月中鑛業權設定登錄及砂鑛採取業許可……○
六　手繰網及打瀨網使用場所指定ノ件……廢止　明四三年告示二一
七　醫師假免許……○
八　同件……○

〔樺法〕

一九　ノダサンニ郵便支局設置……【二】七二
一〇　樺太廳支廳ノ名稱改正……全改　明四一年告示八六
一一　樺太廳醫院分院ノ名稱改正……○
一二　コルサコフ測候所名稱改正……○
一三　郵便電信支局所名稱……○
一四　樺太廳立小學校名稱及位置……廢止　大一〇年廳令一〇
一五　マウカ測候所出張所改稱……○
一六　荷物運賃表中改正……○
一七　ナイブチ原野殖民區劃地貸付……○
一八　小學校教科書用圖書採定……廢止　明四三年告示二四
一九　コルサコフ、ウラジミロフカ驛名改稱……○
二〇　大泊町名告示……○
二一　鐵道旅客運賃荷物運賃及等級中改正……○
二二　地方暴風警報規程及地方暴風警報信號標式……廢止　大七年告示一一八
二三　中央高地所在暴風警報信號標……○
二四　小田井農村宅地其他國有土地貸付區域ノ件……【一四】四二
二五　樺太廳鐵道驛改廢……廢止　明四三年告示二七
二六　產婆名簿登錄……○
二七　樺太廳支廳出張所管轄區域中改正……○
二八　榮町驛業務開始……【一九】四五
二九　豐原、榮町間列車運輸賃及等級中改正……○
三〇　鐵道旅客荷物運賃及等級中改正……○
三一　私立小學校補助ニ關スル件……全改　明四四年告示五七

告示

三二　醫師補助規則第二條ノ場所及人員配置……全改　明四二年告示二一
三三　公醫規則第二條ニ依リ受持區域中改正……全改　明四二年告示二一
三四　醫師假免許……○
三五　醫師假免許……○
三六　醫師假免許……○
三七　醫師假免許……○
三八　醫師假免許……○
三九　列車運轉時刻改正……全改　明四一年告示七七
四〇　樺太廳眞岡支廳海馬島出張所廢止……○
四一　漁業鑑札下附願出ニ關スル件……○
四二　補助ヲ受クル私立小學校ノ設置場所並設置區域中ニ關スル件……全改　大三年告示八
四三　豐原支金庫出納事務取扱……○
四四　記念繪葉書發賣ノ件……○
四五　公醫設置場所追加……○
四六　公醫設置場所追加……○
四七　豐原消防組增員……○
四八　醫師假免許取消……○
四九　產婆名簿登錄……○
五〇　トンナイチヤ支局設置……○
五一　齒科醫師假免許……○
五二　市街地等級及貸付料金率告示……○
五三　停車場入場料廢止……○
五四　電話加入登記料電話使用料名義書換料及電話番號簿揭載料ニ關スル土地種別……廢止　明四二年告示四九

〔樺法〕

〔樺法〕

五五　樺太廳醫院ニ關スル件……全改　大五年告示三四
五六　水產試驗場設置……○
五七　農事試驗所設置……○
五八　種畜場設置……○
五九　測候所設置並支所名稱位置改稱……○
六〇　醫師免許區域變更……○
六一　漁業免許入札規則……廢止　明四二年告示七四
六二　廳令第三十號ニ依ル區域及價格……○
六三　本島沿岸漁業ニ關スル區域制定……廢止　大五年告示一〇
六四　野田寒泊尾兩市街區劃國有土地貸付區域ノ件……〔一四〕四二
六五　西海岸ノダサン及トマリオロ兩市街ノ町名及各町等級……○
六六　大泊本町出張所ヘ電報配達事務開始……○
六七　郵便電信局ヲ豐原ニ移シ豐原支局ヲ廢止……○
六八　郵便電信支局設置……〔二〕七一
六八　漁業區域ヲ定ムル件……廢止　大五年告示一一
六九　四十二年漁業願受理ニ關スル件……○
七〇　ノダサン支局電信事務開始……〔二〕七一
七一　建網漁業免許條件追加……○
七二　豐原市街區劃增設……○
七三　消防組人員增加……○
七四　漁業設備地數……廢止　大五年告示一二
七五　漁業組合模範規約……全改　大五年告示三九
七六　私立小學校補助規則第一條第二項ニ依ル告示中改正……○

告示

七七　樺太廳鐵道列車運轉時刻改正……全改　明四二年告示四六
七八　鐵道荷客扱所開始ノ件……○
七九　鐵道旅客運賃荷物運賃追加……○
八〇　鐵道哩程制定ノ件……○
八一　漁業組合免許漁場等條件……廢止　明四二年告示一一
八二　眞岡支廳構內警報信號揭卸開始……廢止　大七年告示一一八
八三　秩錄處分請願人申出方ノ件……○
八四　貸付土地區域箇所追加……○
八五　醫師假免許地域變更……○
八六　支廳名稱位置及管轄區域……全改　大七年告示六四
八七　漁業鑑札下付差出方……○
八八　本年告示第八十一號中改正……○
八九　內淵川及トマリオロ川沿岸里程……○
九〇　官制中事務分掌變更……○
九一　補助ヲ受クヘキ私立小學校設置區域……全改　大三年告示八
九二　驛遞所設置……廢止　昭四年告示四四
九三　測候所支所名稱改正……○
九四　徵兵身體檢查……○
三　小學校ニ於ケル儀式擧行ノ件……【一二】七一

通牒

廳令

明治四十二年

一　小學校ノ休業日ニ關スル件中改正……○
二　牛馬豚種規則中改正……○

【樺法】

三　紹ノ獵期ニ關スル件……廢止　明四二年廳令二八
四　樺太廳コルサコフ棧橋使用規則廢止……○
五　鐵道事務所規程中改正……廢止　大一三年廳令二四
六　水族蕃殖保護委員規程……全改　明四三年廳令一〇
七　農事奬勵補助規程……○
八　樺太廳支廳長委任事項中改正……全改　大一三年廳令三四
九　公獸醫規程……全改　明四四年廳令一四
一〇　林野火入取締規則……廢止　大九年廳令四二
一一　特定郵便局長手當ノ件……廢止　大五年廳令二〇
一二　特定郵便局長採用規則……廢止　明四二年廳令四四
一三　郵便切手及收入印紙賣捌ノ件……廢止　大三年廳令二二
一四　採炭試驗所設置規程……【一四】一九九
一五　家畜去勢規則……○
一六　郵便切手類及收入印紙等賣捌所追加……廢止　大一〇年廳令三五
一七　樺太土人戶口規則……廢止　明四五年廳令二三
一八　樺太砂鑛業登錄規則……廢止　明四三年廳令二
一九　漁業鑑札規則……○
二〇　樺太國有土地管理規則施行細則中改正……○
二一　樺太廳支廳長委任事項中改正……○
二二　風景繪葉書發賣ニ關スル件……○
二三　樺太鑛業規則中改正……○
二四　砂鑛法施行細則……廢止　大元年廳令三
二五　鑛業及砂鑛業ニ關スル手數料……廢止　明四五年廳令一九

【樺法】

逓令

二六　棒太鑛業登錄規則中改正……○
二七　郵便切手買受賣捌方ノ件……○
二八　棒太狩獵取締規則……廢止　昭六年逓令八
二九　棒太逓信長委任事項……全改　大一二年逓令四四
三〇　棒太逓信支廳出張所長取扱事項……全改　明四四年逓令二三
三一　部落總代規程……廢止　大一一年逓令一
三二　電報特別配達規則……【一〇】一一七
三三　郵便切手類及收入印紙ノ買受賣捌ニ關スル件中改正……○
三四　電話使用料同番號簿揭載料……○
三五　切手類及收入印紙賣捌ニ關スル件……○
三六　切手類及收入印紙賣捌ニ關スル件……○
三七　免許漁業建網場位置變更手數料……○
三八　消防組規則施行細則中改正……廢止　大一四年逓令四
三九　郵便爲替金居宅拂ヲ取扱フ區域ノ件……【一七】七七
四〇　松脂採取禁止ノ件……廢止　明四三年逓令三六
四一　纖詰製造取締規則……廢止　昭四年逓令四五
四二　棒太逓信水產試驗場傳習規則……○
四三　採炭試驗所規程中改正……廢止　大五年逓令一九
四四　郵便切手類割引賣捌ニ關スル件……○
一一　數香郵便電信支局電報取扱種別……全改　大九年逓訓令四一
四二　定額旅費規則設定　明治四十一年逓訓令第八十三號廢止……○
四三　鐵道土木分掌ノ件……○
四四　棒太移住民取扱規程中改正……○

逓訓令

五一　四十二年棒太逓信特別會計歲入歲出科目……○
七九　警察官定額旅費規則中追加……消滅　大七年逓訓令五四
八七　カルギノウラスコエ郵便局外六局特定郵便局指定……廢止　大四年逓令二三
八八　特定郵便局經費支給規程……○
八九　明治四十年逓訓令第六號改正……○
九〇　棒太逓信分課規程設定　明治四十年逓訓令第一號廢止……○
九五　四十二年逓訓令第五十一號中追加……○
一〇八　無料通常爲替取扱開始ノ件……廢止　大九年逓訓令五八
一〇九　特定郵便局長手當金給與ノ件設定……廢止　昭三年訓令三九五
一一〇　特定郵便局通信夫制服給與方ノ件……○
一一一　通信雇員規則中改正……○
一一二　通信夫規則中改正……○
一一三　通信工夫同見習通信職工規則中改正……○
一一五　トマリヨロ郵便局電報取扱ノ件……廢止　明四四年逓訓令四
一一八　明治四十二年逓訓令第八十七號中追加……廢止　大一〇年逓訓令五九
一二五　採炭試驗所係員歲夫被服給與及貸與規定設定……廢止　明四五年逓令二三
一三〇　棒太土人戶口規則取扱手續……廢止　明四五年逓訓令六
一四九　棒太鑛業登錄規則施行細則……廢止　大三年逓訓令三〇
一六一　部落宅地處分心得……○
一六二　支廳事務分掌規程設定　明治四十年逓訓令第五號廢止……○
一六六　特殊通信日附印使用ノ件……○
一七一　明治四十二年五月逓訓令第八十七號中追加……○
一七二　チベサン郵便局電報取扱區別……○

〔棒法〕

廳訓令

一九三　定額旅費規則中改正……○
一九五　樺太廳分課規程中改正……○
二〇〇　明治四十二年五月廳訓令第八十七號中追加……○
二一二　明治四十二年五月廳訓令第八十八號中改正……○
二三〇　樺太廳特別會計歲入歲出科目……○
二三四　樺太廳支廳出張所事務監査規程設定……○
二三八　明治四十二年五月廳訓令第八十七號中追加……○
二三九　明治四十二年五月廳訓令第八十七號中追加……○
二四八　明治四十二年五月廳訓令第八十七號中追加……○
二八〇　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
二八八　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○

訓令

三　林務監査心得……【二】四五

告示

一〇四　樺太廳郵便局長職務章程……全改　大一五年訓令四四
一四六　郵便集配度數及時刻規定……【二〇】八一
一八四　巡査練習規則……廢止　大一五年訓令一一九
二一七　電報特別配達料金徵收ノ件……【二〇】一一八
二三七　樺太廳支廳（及同出張所）事務監査心得……廢止　大一一年訓令二三九
二七四　中央氣象臺發氣象局報發受所名及分送表ノ件……全改　大一二年訓令一二二

一　郵便電信支局名改稱……○
二　漁業設置認可……○
三　國有土地管理規則貸付區域追加……○
四　私立小學校補助設置場所及區域中追加……○
五　土地貸付料金納入期日ノ件……【一四】一〇二

【棒法】

六　產婆假免許……○
七　煙筒取締規則追加施行……○
八　數香及北名好兩市街ノ町名……○
九　醫師假免許……○
一〇　同件……○
一一　明治四十一年告示第八十一號廢止……○
一二　產婆假免許……○
一三　鑛業權登錄中追加……○
一四　漁業組合設置認可……○
一五　徵兵身體檢查……○
一六　山形岩手火災ニ關スル諸願屆提出ノ件……○
一七　水族蕃殖保護委員證票……○
一八　鑛業權設定登錄中追加……○
一九　產婆假免許……○
二〇　豐原眞岡間里程……○
二一　公醫增設置ニ關スル件……○
二二　產婆假免許……○
二三　公獸醫配置場所及受持區域……○
二四　海軍水路部海流調查……○
二五　醫師假免許……○
二六　茨城縣新治郡新治村役場燒失ノ件……○
二七　醫師假免許……○
二八　砂鑛採取業許可……○

【棒法】

告示

二九　岐阜縣惠那郡東野村役場燒失ノ件……○
三〇　土地貸付區域追加……○
三一　三十七八年戰役損害ノ件ニ關シ救恤金請願……【二】七一
三二　郵便局名改稱……○
三三　福島縣火災……○
三四　採炭試驗所位置……○
三五　チカポロナイ驛遞所設置ニ關スル告示及補助指定……○
三六　西海岸驛遞所設置……○
三七　支廳出張所名稱位置及管轄區域中變更……【二】七一
三八　トマリオロ郵便局設置……○
三九　鐵鑛處分ニ關スル指令書居所不明者周知方ノ件……【一四】一〇一
四〇　土地貸付料ノ件……○
四一　建網漁業漁期延長竝曳網使用期限……廢止　明四五年告示一五
四二　驛遞所設置……○
四三　輕便鐵道運賃割引中改正……○
四四　驛遞所設置……○
四五　岩手縣郡部火災……○
四六　鐵道列車運轉時刻……廢止　明四五年告示一五
四七　鐵道旅客及荷物運賃ノ件……全改　明四三年告示一一七
四八　樺太廳鐵道哩程ノ件……○
四九　電話料金低減ノ件……○
五〇　醫師假免許區域變更竝醫師補助ニ關スル件中改正……○
五一　發賣期間及價格ノ件……○

【緯法】

五二　公獸醫配置……全改　大二年告示七四
五三　港灣調査ノ件……○
五四　驛遞所設置……○
五五　私立學校補助設置場所區域中改正……○
五六　公獸醫診斷料手術料藥價ノ件……○
五七　長濱郵便局設置ノ件……【二】七一
五八　鐵鑛處分指令書受領方……○
五九　保護鳥獸種類及保護期間ノ件……【六】一八〇
六〇　醫師及齒科醫師假免許……○
六一　醫師及齒科醫師假免許……○
六二　醫師及齒科醫師假免許……○
六三　市街地等級改正……消滅　大九年告示一四八
六四　驛遞所設置……○
六五　樺太國有未開地特別處分例第五條ニ依ル特定地指定……【一四】四二
六六　郵便局移轉……○
六七　電話通話區域名稱中改正……○
六八　採炭試驗場位置變更……○
六九　總代設置部落ノ件……全改　大二年告示九六
七〇　支廳出張所設置名稱位置及管轄區域中改正……○
七一　支廳出張所設置名稱位置及管轄區域中改正……【二】七一
七二　鵜城郵便局設置……○
七三　醫師假免許……○
七四　漁業免許入札規則中追加……○

【緯法】

告示
七五　郵便局名移轉改稱ノ件……○
七六　漁業ニ關スル件中改正……○
七七　輕便鐵道列車發著時刻改正……全改　明四四年告示一六
七八　樺太廳醫院眞岡出張所設置……全改　大五年告示三四
七九　貨物割引ニ關スル件中改正……○
八〇　貨物運賃ニ關スル件中改正……○
八一　イトナイ、コタンドル、チクナイ驛遞所設置……○
八二　齒科醫師假免許區域變更……○
八三　豐原驛移轉ノ件……○
八四　電話料低減ノ件……○
八五　天鹽村戶長役場類燒……○
八六　本斗郵便局設置ノ件……【二】七一
八七　ウラントマリ郵便局設置……【二】七一
八八　醫院入院料藥價其他料金ニ關スル件……全改　大八年告示三三
八九　眞岡局電話加入受理……○
九〇　眞岡局電話加入區域……全改　大五年告示九二
九一　眞岡局電話通話事務開始……【二】七一
九二　電話呼出地域追加……○
九三　電話料金追加……○
九四　ライチシカ、ウシヨロ驛遞設置……○
九五　補助醫人員配置……全改　大二年告示七四
九六　公醫受持區域……同　上
九七　亞庭灣遼濶區劃國有土地貸付區域ノ件……【一四】四三

〔樺法〕

九八　青森縣告示第三百八十七號……○
六九　土地ト森林トノ境界決定方針……【一四】九二

〔樺法〕

明治四十三年

廳令
一　樺太漁業取締規則……消滅　大二年廳令六
二　樺太漁業鑑札規則中改正……○
三　「セメノフ」「クレマンコ」漁場建物保管ノ件……廢止　明四一年廳令三一
四　郵便切手類及收入印紙賣捌方ニ關スル件……廢止　大三年廳令二一
五　郵便切手賣捌指定局中追加……○
六　牛馬豚種付規則中改正……○
七　鐵道事務所規則中改正……○
八　古物商取締法令施行細則……【六】二二〇
九　郵便切手類及收入印紙類賣捌方ニ關スル件中改正……○
一〇　農事獎勵補助規程……廢止　大三年廳令一五
一一　私立小學校補助規則改正……廢止　大三年廳令一五
一二　家屋建築費補助規程……廢止　大四年廳令二
一三　〔蜉船小廻船〕及渡船取締規則……【六】二六一
一四　私立小學校補助規則施行細則廢止……○
一五　傳染病豫防法施行細則……廢止　大一四年廳令一九
一六　驛遞規則……【一九】二
一七　儀產物、水產物、林產物賣拂代金延納規則……消滅　大一〇年告示一九六
一八　樺太廳立小學校代用教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程……廢止　大九年廳令二四
一九　樺太廳臨時工業調査所規程……廢止　大二年廳令二七

樺太關係法規索引　明治四十三年

關令

二〇　銃砲火藥類取締規則……【六】一一三
二一　銃砲火藥類製造販賣營業者竝銃砲火藥所有者ノ異出ニ關スル件……【六】一一四
二二　明治四十三年四月關令第八號中改正……○
二三　郵便切手賣捌ニ關スル規程中改正……○
二四　家屋建築補助規程中改正……○
二五　樺太廳立小學校職員俸給旅費及諸給與規程中改正……○
二六　第四回始政紀念繪葉書發行ノ件……○
二七　警察官吏防寒具制式圖例中追加……【一〇】八〇
二八　郵便私書函使用料ノ件……【一三】一〇
二九　社司社掌任用規則……○
三〇　漁業權者土地使用規則設定　明治四十年關令第四十七號廢止……廢止　大一〇年關令一〇
三一　關立小學校授業料規程……○
三二　明治四十年六月關令第五十號中改正……廢止　大一一年關令四八
三三　漁獲物異出規則……○
三四　樺太關支廳長委任事項中改正……○
三五　樺太關支廳出張所長取扱事項中改正……○
三六　纖詰製造取締規則設定　明治四十二年關令第四十一號廢止……全改　大一二年關令二一一
一　教恤委託金管理規程……【一二】一
二　樺太採炭試驗所關輕便鐵道乘車荷物運送手續……○
三　ウランドマリ局電報取扱開始……○
四　元泊局電報取扱開始設定……○
五　明治四十二年五月關訓令第八十七號中追加……○
六　樺太關特別會計歲入歲出科目中追加……【六】一一三

關訓令

七　警察官吏定額旅費規則中改正……○
八　明治四十三年度歲入歲出科目……○
九　當廳分課規程中改正……○
一〇　明治四十二年五月關訓令第八十七號中大谷郵便局指定……○
一一　大谷郵便局區域設定……○
一二　教恤委託金管理規程中改正……○
一三　租稅賦課徵收細則中改正……○
一四　樺太廳物品取扱細則中改正……○
一五　採炭試驗所係員被服給與及貸與規則中改正……○
一六　私立小學校補助規則施行方ニ關スル件……廢止　大三年關訓令七
一七　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
一八　鐵道事務所ノ一部事務改設……廢止　大八年關令三四
一九　租稅外收入收納取扱手續中改正……○
二〇　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
二一　郵便函及郵便切手類賣捌所配置手續……廢止　大一五年訓令二八〇
二二　明治四十二年關訓令第八十七號中追加……○
二三　モエビシ局郵便區域設定……○
二四　林產物處分ニ關スル件中改正……○
二五　鵜城局電報取扱種別……○
二六　林產物處分ニ關スル件中改正……○
二七　大泊外三局郵便區域設定……○
二八　巡査給與品支給規程中追加……○
二九　樺太關職員內國旅費規程……【三】三五

訓令

三〇　郵便區內巡視規程……廢止　昭四年訓令五九
三一　明治四十年七月廳訓令第百四號中改正……○
三二　數香局郵便區域設定……○
三三　第四回始政紀念繪葉書特殊通信日附印使用ノ件……○
三四　信使規程……○
三五　不能遞付郵便物處理手續……【二〇】一四七
三六　四十年廳訓令第二十七號外四件ヲ警部補ニ準用ノ件……廢止　大一〇年廳訓令六六
三七　四十一年廳訓令第百四十七號中改正……廢止　大五年廳訓令一二
三八　本斗郵便局電報取扱種別……○
三九　官舍貸渡規則中改正……○
四〇　棒太廳分課規程中改正……○
四一　四十年廳訓令第百四號廢止……○
四二　棒太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○

訓令

一　警察氣象規程……【六】三〇
八六　傳染病豫防法令執行手續……全改　大一一年廳訓令四五
六四　古物商取締法令施行細則取扱手續……【六】二二三
六九　種痘法令施行手續……○
一〇三　水雜救護法取扱心得……廢止　大一一年廳訓令四八
一二六　特別ノ取締勤務ニ服スル警察官吏旅費支給ニ關スル件……【三】六一
一六五　棒太廳職員赴任ノ場合ニ於ケル移轉料支給方ノ件……消滅　大九年廳訓令二八
一八九　棒太廳公文例式……全改　昭三年訓令三九七

內訓

四　判任官ノ加俸ニ關スル件……消滅　大八年廳訓二

告示

一　クスンナイ市街區劃增設竝トスリオロ、ノタサン市街區劃開設……○

【棒法】

二　西海岸唐佛區劃國有土地貸付區域ノ件……【一四】四三
三　醫師及齒科醫假免許……○
四　大泊初音町電話所ヲ廢止……○
五　徵兵身體檢查願書々式……○
六　運賃割引ノ件……全改　明四五年告示一五
七　鰊及鰮鮭養殖保護區域竝遡河魚類養殖保護河川……全改　大二年告示二五
八　眞岡郵便局ニ電話交換業務開始……【二】七一
九　エストル外一箇所驛遞取扱人變更ノ件……○
一〇　春日峠驛遞設置……○
一一　採炭試驗場輕便鐵道公衆便乘荷物積載……○
一二　採炭試驗場輕便鐵道運賃中改正……【二】七一
一三　チクナイ驛遞移轉改稱……【二】七一
一四　ウントマリ電信事務開始……○
一五　元泊郵便局設置……全改　大三年告示八
一六　產婆名簿登錄……○
一七　私立小學校ノ設置場所及設置區域中改正……○
一八　モエピシ驛遞所設置……○
一九　醫師假免許……○
二〇　補助ヲ受クルヲ得ル私立小學校設置場所改正……○
二一　手繰網及打瀨網使用區域……廢止　大二年告示二四
二二　徵兵身體檢查場開設日割ニ關スル件……○
二三　東京府國分寺村役場燒失……○
二四　小學校教科用圖書採定ノ件……廢止　大四年告示一〇二

告示

二五　小學校教科用圖書採定ノ件……廢止　大四年告示一〇二
二六　總代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落中改正……○
二七　ミツリヨフカ驛設置及ミツリヨフカ荷客扱所廢止ノ件(中里驛業務開始ノ件)……【一九】四五
二八　函館聯隊區徵兵檢査日割……○
二九　大谷郵便局設置……【二】七一
三〇　農事試驗所分場設置……廢止　明四四年告示九一
三一　茨城縣猿島新郷村役場燒失……○
三二　沿海未開地又ハ既墾地貸付ノ件……【一四】四三
三三　ノウアレキサンドルフスコエ驛選取扱人變更……○
三四　トンナイチヤ部落總代設置中改正……○
三五　採炭試驗所所屬機道乘車貨荷物運賃中改正……○
三六　西海岸武井田部落宅地貸付ノ件……【一四】四三
三七　ノダサン市街町名等級……○
三八　眞岡ニ公獸醫配置……○
三九　ナイロ驛選擇設置……○
四〇　眞岡驛選位置變更……○
四一　豐原眞岡間及眞縫久春内間道路附近未開地貸付ノ件……【一四】四三
四二　北海道千歳郡惠庭村役場燒失……○
四三　産婆名簿登錄……○
四四　産婆區域變更……○
四五　醫師假免許……○
四六　棒太廳醫院眞岡出張所改稱……全改　大五年告示三四
四七　醫師假免許區域變更……○

【棒法】

四八　醫師假免許……○
四九　臨時工業調査所位置……○
五〇　大泊支廳部落總代設置追加……全改　大二年告示九六
五一　モエビシ外一局郵便局設置……【二】七一
五二　私立小學校設置場所區域中追加……○
五三　タラカシナイ部落總代設置……全改　大二年告示九六
五四　齒科醫師假免許……○
五五　棒太廳郵便局郵便電報受付等取扱時間……全改　大九年告示四
五六　大泊驛運輸業務機關ニ於テ取扱ノ件……○
五七　總代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落中改正……○
五八　私立小學校ノ設置場所及區域中改正……【二】七一
五九　鵜城局電信取扱開始……○
六〇　カシホ、チリフサン、モイレトマリ、ライトマリ、サツーホ驛選設置……○
六一　醫師假免許……廢止　大七年告示一一八
六二　海馬島巡査部長派出所前ニ暴風警報揚卸開始……○
六三　鑛業權取消處分……○
六四　砂鑛法ニ依リ處分シタルモノ告示……○
六五　醫師假免許……○
六六　豐原市街增設區劃地町名及等級……○
六七　トイクシ驛選設置……○
六八　西能登呂驛選設置……○
六九　産婆名簿登錄……○
七〇　産婆假免許……○

告示

七一　第四回始政記念繪葉書種類等ノ件……○
七二　私立小學校ノ設置場所及設置區域中改正……○
七三　豐原市街增設區劃地町名及等級……○
七四　齒科醫師假免許……○【一四】四三
七五　大泊船見町市街區劃地ヲ部落宅地ニ編入ノ件……○
七六　產婆名簿登錄取消……○【一四】四三
七七　西海岸ウショロ部落宅地貸付ノ件……【一四】四三
七八　東海岸東白浦部落宅地貸付ノ件……○
七九　鑛業許可ノ件……○
八〇　四十年告示第二十五號廢止……【二】七一
八一　本斗郵便局電信事務開始……○
八二　漁業免許入札規則中改正……○
八三　醫師假免許區域變更……○
八四　總代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落中改正……○
八五　島取縣船舶檢疫施行ノ件……○
八六　北海道船舶檢疫施行ノ件……○
八七　島取縣船舶檢疫施行ノ件……○
八八　臨時工業調查所附屬大泊工場設置……○
八九　鑛業許可ノ件……○
九〇　大ヤマンベツ驛遞設置……○
九一　チビサン小オマンベツ驛遞廢止……○
九二　ノッサン驛遞廢止……○
九三　四十二年告示第四十三號中改正……○

【棒法】

九四　四十二年告示第四十七號中改正……○
九五　豐原榮演間通常列車運轉休止……○
九六　靑森縣船舶檢疫ノ件……○
九七　鑛業許可……○
九八　同件……○
九九　四十一年告示第三十一號中追加……○
一〇〇　ウリエム驛遞設置……○
一〇一　齒科醫師假免許……○
一〇二　內容證明郵便引受局指定……○
一〇三　醫師假免許……○
一〇四　ノコロ、元泊驛遞設置……【一四】四三
一〇五　東海岸皆別部落宅地貸付ノ件……【一四】四三
一〇六　西海岸泊居殖民地貸付ノ件……○
一〇七　齒科醫師登錄抹消……○
一〇八　齒科醫師假免許……○
一〇九　產婆名簿登錄……全改　大二年告示九六
一一〇　總代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落中改正……○
一一一　北海道廳檢疫廢止……全改　大三年告示八
一一二　私立小學校設置場所等……○
一一三　タラアンナイ驛遞設置……○
一一四　リストエラニ荷客扱所設置……○
一一五　四十二年告示第四十三號追加……○
一一六　四十二年告示第四十七號中改正……○

【棒法】

告示
一一七　四十二年告示第四十八號中改正……○
一一八　小學校設置場所及設置區域中改正……○
一一九　喜美内殖民區劃地轉貸付ノ件……【一四】四三
廳議決定　殺拓七五　牧夫旅費減額支給ノ件……【三】六四
通牒　殺保五　賭博事件微罪釋放處分ヲ爲シタル賭錢ノ處理方ノ件……【九】二三七

明治四十四年

廳令
一　樺太廳漁業取締規則中改正……○
二　明治四十年四月廳令第六號中改正……○
三　速達郵便物ヲ取扱ハサル件……全改　昭四年廳令四四
四　租稅賦課徵收規則中改正……○
五　樺太ニ於ケル漁業登錄令施行規則……【一六】三二
六　漁業ニ關スル出願申請及登錄手數料……【一六】四九
七　樺太漁業令ニ依ル保證金納付規程……廢止　大四年廳令一五
八　明治四十年八月廳令第六十八號中改正……○
九　警察ニ關スル人民諸願屆口頭申告方ノ件……【六】五七
一〇　營業者ノ營業許可失效及廢業ニ關スル件……【六】二七三
一一　農事奬勵補助規程中改正……○
一二　種畜貸付規則……全改　大七年廳令六
一三　警察賞與規則施行細則……【四】一四
一四　林野火入禁止ノ件……廢止　大二年廳令一一
一五　藥品營業竝藥品取扱規則施行細則……【七】一五〇
一六　樺太廳鐵道事務所規程……消滅　大七年勅令一九九

【樺法】

一七　電話規則中改正……○
一八　樺太廳豐原乾溜工場規程……廢止　大六年廳令二一
一九　樺太ニ於ケル漁業法施行規則……全改　大一五年廳令一二
二〇　樺太免許漁業規則改正……廢止　大九年廳令一八
二一　樺太警察犯處罰令……全改　大六年廳令一八
二二　樺太廳支廳出張所規程……○
二三　樺太廳支廳出張所取扱事項改正……○
二四　樺太漁業取締規則中改正……○
二五　樺太廳支廳出張所長取扱事項追加……○
二六　樺太農事試驗場試驗規程……廢止　大元年廳令一四
二七　農事奬勵補助規程中改正……○
二八　尋常小學校敎員講習規程……廢止　大八年廳令二〇

廳訓令
一　樺太廳職員旅費規則中改正……○
二　樺太廳立小學校職員旅費規則……全改　大九年廳訓令二九
三　大泊郵便區域中(ソーヤ)ヲ長濱郵便區ニ編入……○
四　四十二年七月訓令第百二十五號廢止……○
五　氣象局報取扱規程　明治四十年廳訓令第百八號廢止……廢止　昭六年訓令二〇五
六　氣象局報取扱規程ニ依ル發受所名設名ノ件……廢止　大八年廳訓令七九
七　樺太廳立小學校授業料收納取扱手續……廢止　大一〇年廳令一〇
八　豐原郵便局區内新場(舊名ゴールイムル)ヲ大泊郵便局區内ニ編入……○
一〇　四十年七月廳訓令第九十四號經費支出規程中改正……○
一一　樺太廳特別會計歲入歲出科目中改正……○
一二　樺太廳報告例……廢止　大三年廳訓令一

廳訓令

一三　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
一四　本年度特別會計歲入歲出科目設定……○
一五　通信夫逓信工夫同見習及通信職工規則中改正……○
一六　樺太廳分課規程中改正……○
一七　部落總代取扱事項設定……○
一八　官幣大社樺太神社宿直規程設定……○
一九　巡査部長派出所取扱事項……○
二〇　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
二一　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
二二　鵜城郵便區內「エストル、シツオマナイ」ヲ名好郵便區ニ編入……○
二三　氣象電報發信所名ノ部改稱追加……○
二四　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
二五　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
二六　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
二七　租稅賦課徵收細則中改正……○
二八　樺太廳鐵道現業員被服貸與規則廢止……○
二九　樺太廳鐵道現業員徽章佩用規程……○

訓令

一八　看護婦等ノ加給ニ關スル件……○
二〇　巡査駐在所口頭申告處理ニ關スル件……○
四三　電信事務用帳簿竝保存期間……○

訓

五　巡査懲罰內規……○
五四　移入鹽陸揚證明事務補助ノ件……○
六九　現金出納計算整理手續……○

內訓

一　樺太廳消防隊規則……○

【樺法】

一　徵兵身體檢查願書式……○
二　醫師免許區域改更……○
三　每日新聞發賣頒布禁止……○
四　アイバカナイボ驛遞設置……○
五　狩獵免狀遺失……○
六　狩獵免狀紛失……○
七　秩錄處分請願書類ニ關スル件……○
八　產婆假免許……○
九　公醫受持區域變更……○
一〇　醫師假免許……○
一一　同件……○
一二　函館聯隊區徵兵檢查日割……○
一三　古物商及質屋營業停止……○
一四　岐阜縣益田郡役所同郡萩原町役場火災……○
一五　鐵道驛名荷客扱所名改正……○
一六　列車發着時刻改正……○
一七　產婆名簿登錄……○
一八　狩獵免狀紛失……○
一九　齒科醫師假免許……○
二〇　四十二年告示第六十九號總代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落改正……大二年告示九六
二一　漁業令第二條ニ依ル漁業料年額……○
二二　樺太ニ於ケル徵兵身體檢查及開設日割……○
二三　私立小學校設置場所及設置區域中追加……○

告示

一　徵兵身體檢查願書式……○
二　醫師免許區域改更……○
三　每日新聞發賣頒布禁止……○
四　アイバカナイボ驛遞設置……○
五　狩獵免狀遺失……○
六　狩獵免狀紛失……○
七　秩錄處分請願書類ニ關スル件……○
八　產婆假免許……○
九　公醫受持區域變更……○
一〇　醫師假免許……○
一一　同件……○
一二　函館聯隊區徵兵檢查日割……○
一三　古物商及質屋營業停止……○
一四　岐阜縣益田郡役所同郡萩原町役場火災……○
一五　鐵道驛名荷客扱所名改正……○
一六　列車發着時刻改正……○
一七　產婆名簿登錄……○
一八　狩獵免狀紛失……○
一九　齒科醫師假免許……○
二〇　四十二年告示第六十九號總代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落改正……大二年告示九六
二一　漁業令第二條ニ依ル漁業料年額……○
二二　樺太ニ於ケル徵兵身體檢查及開設日割……○
二三　私立小學校設置場所及設置區域中追加……○

【樺法】

一　徵兵身體檢查願書式……○
二　醫師免許區域改更……○
三　每日新聞發賣頒布禁止……○
四　アイバカナイボ驛遞設置……○
五　狩獵免狀遺失……○
六　狩獵免狀紛失……○
七　秩錄處分請願書類ニ關スル件……○
八　產婆假免許……○
九　公醫受持區域變更……○
一〇　醫師假免許……○
一一　同件……○
一二　函館聯隊區徵兵檢查日割……○
一三　古物商及質屋營業停止……○
一四　岐阜縣益田郡役所同郡萩原町役場火災……○
一五　鐵道驛名荷客扱所名改正……○
一六　列車發着時刻改正……○
一七　產婆名簿登錄……○
一八　狩獵免狀紛失……○
一九　齒科醫師假免許……○
二〇　四十二年告示第六十九號總代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落改正……大二年告示九六
二一　漁業令第二條ニ依ル漁業料年額……○
二二　樺太ニ於ケル徵兵身體檢查及開設日割……○
二三　私立小學校設置場所及設置區域中追加……○

告示

二四　支廳名稱位置管轄區域中改正……○
二五　ガルキノウラスコエ驛還廢止……○
二六　西海岸唐佛殖民地貨付方ノ件……【一四】四三
二七　シララカ郵便局名稱改稱……○二年告示六
二八　補助ヲ受クルコトヲ得ヘキ私立小學校設置場所區域中改正……○
二九　四十二年告示第七十號支廳出張所名稱位置區域中改正……○
三〇　岩手縣九戸郡久慈町役場燒失……○
三一　產婆免許……全改　大一一年告示一四五
三二　產婆名簿登錄……○
三三　樺太博物館規程……○
三四　四十一年廳令第十一號ニ依ル醫師補助規則場所人員改正……○
三五　四十一年廳令第十二號ニ依ル公醫受持規則改正ノ件……○
三六　狩獵免狀紛失ノ件……○
三七　醫師齒科醫免許下付……○
三八　測候所支所名「ガルキノウラスコエ」ヲ落合ニ改ムル件……○第四回追加告示六二
三九　狩獵免狀紛失ノ件……○
四〇　官幣大社樺太神社徽章……【一三】一
四一　免許漁業名稱指定……【一六】一九
四二　部落總代設置場所變更……全改　大二年告示九六
四三　鐵道旅客貨物運賃規定中改正……○
四四　託送貨物輸送臨時列車料金……全改　明四五年告示一五
四五　本島產貨物運賃割引……○
四六　樺太廳豐原乾溜工場設置……廢止　大六年告示八四
【樺法】

四七　醫院醫員往診料規程中改正……○
四八　狩獵免許狀失……○
四九　穩番場移轉……○
五〇　モエビシ郵便局電信事務開始……【二】七一
五一　產婆名簿登錄……○
五二　產婆開業地變更……○
五三　狩獵免狀紛失……○
五四　大泊本町郵便局電信貯蓄證書ノ配達事務開始……○
五五　北海道島牧郡島牧村役場燒失……○
五六　部落總代事務取扱費補助等級……○第四回追加告示一一六
五七　私立小學校ノ設置場所及設置區域中改正……○第四回追加告示一一八
五八　新潟縣北石村役場燒失……○
五九　眞岡市街增設區劃地町名等級……○
六〇　樺太廳警察受持區域……廢止　大二年告示七一
六一　留多加河口驛還設置……○
六二　漁業登錄令ニ依ル登錄申請書式……【一六】四四
六三　醫師假免許證付與……○
六四　阿幸小學校設置區域中改正……○
六五　醫師及齒科醫假免許證下附……○
六六　數香水產物產品評會記念日附印ノ件……全改　明四四年告示八三
六七　草野、小沼荷客扱所新設……全改　明四四年告示八四
六八　鐵道哩程改正……○
六九　鐵道通常列車發著時刻改正……○
【樺法】

七〇　鐵道旅客貨物運賃中改正……四四
七一　四十三年十二月告示第百十四號中但書削除……
七二　醫師假免許證附與……
七三　退隱料扶助料年金證書檢閱依賴ノ件……
七四　落帆伊皿郡選擧設置……
七五　大泊水產品評會記念日附印使用……
七六　（唐松）部落總代設置場所中變更中改正……
七七　棒太廳第五回始政記念日附印ノ件……
七八　エベケナイ栗幌內保郡選擧設置……
七九　齒科醫師免許……
八〇　醫師開業場所追加……
八一　公醫設置ノ場所及受持區域中改正……
八二　富岡取扱所設置……
八三　鐵道哩程……
八四　鐵道發著時刻表……全改　明四四年告示一一八
八五　鐵道運賃中改正……全改　明四四年告示一一九
八六　免許地域變更……
八七　狩獵免狀紛失……
八八　有價貸付地賣拂區域追加……
八九　農事試驗場位置……
九〇　農事試驗場附屬農圃ノ位置……
九一　四十三年告示第三十號廢止……
九二　私立小學校設置區域中追加……

【棒法】

九三　宗谷支廳燒失ニ付通知ノ件……
九四　未開地既墾地及部落宅地料金中改正……
九五　產婆開業地變更……
九六　狩獵免狀遺失……
九七　齒科醫師免許ノ件……
九八　狩獵免許狀遺失……
九九　醫師假免許……
一〇〇　齒科醫師免許……
一〇一　東海岸野寒部落宅地及附屬畑貸付ノ件……
一〇二　醫師免許地域變更……
一〇三　補助ヲ受クルコトヲ得ヘキ私立小學校設置區域中追加……
一〇四　齒科醫師假免許……
一〇五　產婆名簿登錄……
一〇六　齒科醫師免許……
一〇七　同件……
一〇八　多來加驛選擧設置……
一〇九　狩獵免狀紛失……
一一〇　野寒驛選擧設置……
一一一　醫師假免許……
一一二　タランコタン河口中央水產試驗漁場設置……
一一三　漁業番號二一、名稱ノシケコタン追加……
一一四　產婆名簿登錄事項訂正……
一一五　狩獵免狀紛失……

【棒法】

告示

一一六　狩獵免狀紛失……○
一一七　榮濱驛外四荷客扱所設置……【一九】四五
一一八　鐵道哩程改正……全改　大八年告示一四一
一一九　列車發著時刻中改正……全改　大元年告示八
一二〇　旅客運賃中改正……○
一二一　小谷榮濱列車運轉休止……○
一二二　ウシノスケ巡査駐在所設置……○
一二三　バッコ沼驛遞營業開始……○
一二四　醫師假免許……○
一二五　海馬島驛遞設置……○
一二六　小谷榮濱列車運轉……○
一二七　免許スヘキ漁場漁業料……○
一二八　亞庭灣沿岸毘砂潜驛遞設置……○
一二九　西海岸チノヒラ部落宅地特定地ノ件……【一四】四三
一三〇　徴兵身體檢査出願ニ關スル件……○
一三一　旅客賃金規程制定……廢止　大八年告示一四三
四八　外國人土地貸付料ノ件……【一四】一〇二

通牒拓殺

明治四十五年

廳令

一　樺太國有未開地特別處分令施行規則……【一四】二
二　共同放牧地貸付規則中改正……○
三　樺太國有森林原野產物賣拂規則……廢止　大一四年廳令三一
四　重要製產品製造業者ニ關スル件……廢止　大六年廳令二四

〔樺法〕

一五　新聞紙特別取扱規則……廢止　大五年廳令七
一六　新聞紙特別取扱郵便料金算定方……消滅　大五年廳令七
一七　國有森林原野取締……廢止　大六年廳令一三
一八　樺太漁業令第三條ニ依ル山林伐採ニ關スル件中改正……○
一九　樺太廳看護婦養成規程……廢止　大八年廳令一七
一〇　樺太廳產婆養成規程……同　上
一一　樺太廳中學校規則……【全改昭六年廳令一五】【一二】八八
一二　藥品營業並藥品取扱規則細則中改正……○
一三　新聞紙特別取扱規則中改正……○
一四　郵便切手類ノ買受、賣捌ニ關スル件中改正……○
一五　廳立小學校授業料規程中改正……○
一六　樺太廳支廳長委任事項中改正……○
一七　私立小學校補助規則中改正……○
一八　郵便切手類賣捌局中追加……○
一九　鑛業及砂鑛業ノ出願申請及登錄等手數料　明治四二年廳令第二五號廢止……【一五】八〇
二〇　石炭採掘料競爭入札規則……廢止　明四五年廳令二四
二一　樺太漁業取締規則中改正……○
二二　鑛業登錄令施行細則……【一五】四九
二三　砂鑛業ノ登錄ニ關スル細則　明治四二年廳令第一八號廢止……【一五】七二
二四　明治四十五年法律第二十三號ニ依ル石炭採掘ニ關スル件……【一五】七七

廳訓令

一　林產物處分ニ關スル心得廢止……○
二　明治四十二年廳訓令第百八號中追加……○
三　樺太廳醫院收入取扱規程中改正……○

〔樺法〕

勅令

四　通信属員規則中改正……廃止　大二年勅令一一
五　森林原野産物賣拂手續設定　明治四十年勅令第百三十四號外二件廢止……廃止　大二年勅令一一
六　樺太國有未開地特別處分令施行規則取扱手續　明治四十一年勅令第百四十九號外一件廢止……【一四】一三
七　樺太廳報告例中改正……
八　樺太廳特別會計歳入歳出科目中追加……
九　四十五年度特別會計歳入歳出科目設定……
一〇　物品取扱細則中改正……
一一　明治四十年勅令第九十三號廢止……
一二　樺太廳特別會計歳入歳出科目中追加……
一三　數香郵便局指定……
一四　樺太廳特別會計歳入歳出科目中追加……
一五　警察官吏定額旅費規則改正……
一六　樺太廳特別會計歳入歳出科目中追加……
一七　特定郵便局經費支給規程中改正……
一八　租稅外諸收入收納取扱手續中改正……
一九　樺太廳特別會計歳入歳出科目中追加……
二〇　樺太廳特別會計歳入歳出科目中追加……
二一　樺太廳特別會計歳入歳出科目中追加……
二二　警察官吏定額旅費規則中改正……
二三　特定郵便局（敷江外二局）ヲ指定局ト爲スノ件……
二四　樺太廳特別會計歳入歳出科目中追加……
一九　樺太廳中學校長專決事項……廢止　大一一年勅令七〇【樺法】

訓

告示

七五　樺太廳及所轄官衙火氣取締規程……【三】一九八【樺法】
一　樺太國有未開地特別處分例第五條ニ依ル特定地指定……
二　古物商免許證紛失……【一四】四三
三　地名改正……
四　ウラントマリモエビシ兩局改稱……
五　有價貸付地賣拂區域及價格……
六　大泊榮町間通常列車運轉休止……
七　漁業令第二條ノ二ニ依ル漁場漁業料……
八　西海岸比良特定地ノ件……【一四】四三
九　産婆名簿登錄……
一〇　醫師免許地域變更……
一一　西海岸親鸞遞設置……
一二　函館驛隊區徵兵檢査ノ件……
一三　支廳管轄區域中改正……全改　大八年告示一四三
一四　入院料藥價中改正……
一五　鐵道貨物運賃ニ關スル件……廢止　大元年勅令一四
一六　醫師假免許……
一七　醫師免許區域……【一四】四三
一八　農事試驗場委託試驗施行手續……
一九　特別處分令五條ニ依ル特定地ノ件……
二〇　部落總代ヲ置クコトヲ得ル部落中追加……
二一　部落總代設置區域中改正……
二二　長崎縣金銀木杯賜與表彰方ノ件……

告示

二三　産婆免許證下付……○
二四　四十五年本島徴兵檢査日割……○
二五　住所及開業地變更……○
二六　警察受持區域中改正……○
二七　産婆名簿登錄……○
二八　長野縣市町村小學校敎員警部補巡査退隱料又ハ遺族扶助料受領手續……○
二九　林産物實携標準單價……○
三〇　醫師假免許……○
三一　漁業料改定……○
三二　狩獵免狀紛失……○
三三　棒太廳中學校ノ名稱及位置……全改　昭元年告示三
三四　北海道浦川支廳舍燒失ノ件……○
三五　鐵道事務所移轉ノ件……○
三六　私立小學校設置場所及設置區域中追加……○
三七　齒科醫師假免許區域變更……○
三八　眞岡北濱郵便局設置……【二】七一
三九　臨時工業調査所ヲ乾溜工場内ニ置ク件……○
四〇　私立小學校設置場所中改正……○
四一　醫師假免許地域變更……○
四二　醫師假免許地域變更……○
四三　福岡縣金銀木杯賜與表彰……廢止　大八年告示三四
四四　注射料金額……○
四五　地名設定……○

【樺法】

四六　官國幣社神職尋常試驗細則……○
四七　總代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落中改正……○
四八　鐵道貨物運賃中改正……○
四九　西海岸安別及赤敷部落宅地特定地ノ件……【一四】四四八
五〇　漁場及漁業料……○
五一　豐原榮濱間列車時刻改正……○
五二　狩獵免狀遺失……○
五三　農事委託試驗試作者氏名……○
五四　醫師假免許……○
五五　部落總代設置スヘキ部落中追加……○
五六　産婆開業地變更……【二】七一
五七　散江郵便局設置……○
五八　醫師假免許……○
五九　南名好裏須取郵便局設置ノ件……【二】七一
六〇　鐵道貨物留置料ヲ定ムル件……廢止　大八年告示一四三
六一　警察受持區域中改正……○
六二　醫師補助規則ニ依ル場所及人員……全改　大二年告示七九
六三　公醫受持區域……全改　大二年告示七四
六四　東海岸眞縫及輪荒部落宅地特定地ノ件……【一四】四四
六五　産婆名簿取消……○
六六　醫師假免許……○
六七　富山縣退隱料請求手續……○
六八　西海岸仁多須部落宅地及附屬畑區劃地特定地ノ件……【一四】四四

告示

六九　歯科醫師廃業……○
七〇　佐賀縣金銀木杯賜與表彰……○
七一　敷江郵便局集配事務開始……○
七二　歯科醫師假免許……○
七三　昆布採取期ノ件……○
七四　鐵道全通式當日列車發着時間等ノ件……○
七五　薩婆名稱取消……○
七六　驛遞廢止……○
七七　醫師假免許地域變更……○
七八　醫師假免許地域變更……○

大正元年

勅令

一　明治四十五年勅令第十九號中改正……○
二　鑛業法施行細則……【一五】一〇
三　砂鑛法施行細則……【一五】六二
四　明治四十五年勅令第二十二號中改正……○
五　紀念繪葉書發行ノ件……○
六　樺太酒類出港規則第四條ニ依ル船艙免狀ノ樣式……【九】五九八
七　樺太酒類出港稅法及間接國稅犯則者處分法ニ依リ樺太廳又ハ樺太廳支廳收稅官吏ノ携帶スル證票ノ樣式……【九】五九八
八　私設消防組補助規程……廢止　大八年勅令二九
九　樺太廳支廳出張所取扱事項中追加……○
一〇　出納員現金取扱規則……全改　大二年勅令二

【缺法】

一一　開墾地特別補助規程……○
一二　船入測取締規則……【一九】四五六
一三　農事試驗場規程中改正……○
一四　委託農業規程……【一四】一五六

勅令

一　樺太廳廳令被服給與及貸與規則外一件廢止……○
二　通信屬員及現業傭人被服貸與規則中改正……○
三　信使規則中改正……○
四　樺太廳特別會計歲入歲出科目中改正……○
五　樺太酒類出港稅法施行規則取扱手續設定……【九】五九五
六　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
七　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○

告示

一　豐原市街增設區劃地町名及等級ノ件……○
二　印鑑證明ニ關スル件中改正……○
三　支廳警察受持區域中改正……○
四　記念繪葉書ノ種類、價格及期日……○
五　薩婆假免許證附與……○
六　記念繪葉書ノ特種日附印使用……○
七　薩婆名稱取消……○
八　鐵道列車時刻改正……全改　大元年告示三五
九　南名好郵便局電信事務開始……【二】七一
一〇　公稱地名制定……○
一一　鉄鰹鮭蕃殖保護區域等中改正……○
一二　漁業ニ關スル區域中改正……○

告示

一三　免許スヘキ漁場及漁業料年額……○
一四　狩獵免狀遺失……○
一五　豐原市街宅地等級改正……○
一六　鐵道旅客貨物運賃ニ關スル件中改正……○
一七　出張所管轄區域中變更……○
一八　狩獵免狀遺失……○
一九　大泊市街地ニ町名ヲ設クル件……○
二〇　醫師假免許……【一一】一
二一　恩賜慈惠救濟資金管理ニ關スル件……【二】七三
二二　散江郵便局電信事務開始……○
二三　鐵道列車時刻繰下……○
二四　狩獵免狀遺失……○
二五　北海道金銀木杯賜與表彰……○
二六　鐵道旅費賃金中改正……○
二七　狩獵免狀遺失……○
二八　鐵道列車時刻繰下……○
二九　免許スヘキ漁場及漁業料……全改　大二年告示四一
三〇　農事試驗場移轉……【繕法】
三一　醫院入院料藥價其他料金中改正……○
三二　狩獵免狀遺失……○
三三　免許スヘキ漁場及漁業料……○
三四　產婆免許證附與……○
三五　鐵道列車時刻及列車番號改正……○

三六　醫師假免許證附與……○
三七　狩獵免狀遺失……○
三八　遠內驛遞設置……○
三九　醫師假免許證附與……○
四〇　告示及公告中錯誤ノ廉削除……○
四一　漁業料年額改定……○
四二　野田寒驛遞廢止……○
四三　十和田驛遞設置……○
四四　出張管轄區域中改正……○
四五　狩獵免狀遺失……○
四六　榮町驛運輸事務開始……○
四七　部落總代設置箇所中追加……全改　大二年告示四一
四八　鐵道列車時刻改正……○
四九　秋田縣村役場燒失……○
五〇　狩獵免狀遺失……○
五一　支廳出張所ノ管轄區域中改正……○
五二　醫師假免許證附與……○

【繕法】

大正二年

廳令

一　船入澗取締規則中改正……○
二　樺太廳出納員現金取扱規則設定　大正元年廳令第十號廢止……【九】三〇二
三　電話規則中改正……○
四　木材流送取締規則……廢止　大三年廳令三

勅令

五　樺太廳支廳長委員事項中追加……○　全改　大九年勅令一八
六　樺太漁業取締規則……○　廢止　大九年勅令一八
七　手繰網打瀨網漁業規則……○　消滅　大一一年勅令六五
八　漁業鑑札規則……【一六】五六
九　樺太漁業取締規則第一條ニ依ル出願手數料……○　廢止　大六年勅令一三
一〇　森野火入禁止ノ件……○　廢止　大一一年勅令五八
一一　閉墾地火入取締規則……○
一二　農事奬勵補助規程中改正……○
一三　官有建物貸付規程中改正……【一四】一六六
一四　工藝作物奬勵規程……○　廢止　昭八年勅令一三
一五　樺太編有森林原野産物竊携規則中改正……○
一六　極印使用規則改正　明治四十年六月勅令五十六號廢止……○
一七　水族蕃殖保護委員規程中改正……○
一八　國有森林原野取締ニ關スル件中改正……○
一九　木材流送取締規則中改正……○
二〇　樺太廳中學校規則中改正……○
二一　遊漉郵便局切手類賣捌指定……○　廢止　大一〇年勅令三六
二二　名好郵便局切手類賣捌指定……○　全改　大一〇年勅令三六
二三　醫師及齒科醫師補助規則……○
二四　公醫規則……○
二五　墓地火葬場及埋火葬取締規則中改正……○
二六　墓地使用規則中改正……○
二七　樺太廳工業調査所規程設定　明治四十三年勅令第十九號廢止……○　廢止　大五年勅令九

【樺法】

二八　行商取締規則……【六】二五四
二九　農事奬勵補助規程中改正……○
三〇　樺太廳支廳出張所長委任事項中追加……○
三一　紀念繪葉書發行ノ件……○
三二　小學校ノ學期、敎授日數及休業日ニ關スル件中改正……○
三三　尋常小學校敎員講習規程中改正……○
三四　樺太廳支廳長委任事項追加……○
三五　樺太廳支廳出張所長取扱事項中改正……○
三六　種子給與規則中改正……○
三七　牛馬ニ關スル屆出規則中改正……【一〇】一〇〇
三八　居住移轉出生及死亡ニ關スル屆出規則中改正……○
三九　【樺太廳工業調査所】分析檢定及鑑定規則……○
四〇　樺太廳中學校規則中改正……【全改　昭四年勅令三七】【一五】一〇六
四一　營業警察規則……○
四二　營業法施行細則中改正……○
四三　砂鑛法施行細則中改正……○
四四　郵便切手類及收入印紙買受代金取扱ノ件……【二〇】八六
四五　醫師及齒科醫師取扱規則中改正……○
四六　樺太廳廳舍事務所規程中改正……○

勅令

一　樺太廳立小學校授業料收納手續中改正……○
二　通信屬員規則中改正……○
三　特定郵便局經費支給規程中改正……○
四　大正二年度特別會計歲入歲出科目設定……○

廳訓令

五　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
六　樺太國有森林原野產物實查規定制定……【一七】三四
七　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
八　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
九　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
一〇　巡查月俸手當及宿料支給規則施行細則中改正……○
一一　樺太國有森林原野產物處分取扱手續制定　明治四十五年廳訓令第五號廢止……【一七】三四
一二　樺太廳特別會計歲入歲出科目中改正……○
一三　巡查給與品支給規程中改正……○
一四　巡查給與品代料支給規則中改正……○
一五　遺漏局ヲ特定指定局……消滅　大一一年廳令一
一六　郡落總代事務監查規程……○
一七　名寄局ヲ特定指定局……○
一八　巡查宿料支給規則中改正……○
一九　樺太廳特別會計歲入歲出科目中改正……○
二〇　樺太廳報告例中改正……○
二一　樺太國有未開地特別處分令施行規則取扱手續中改正……○
二二　樺太廳報告例中追加……○
二三　特定郵便局經費支給規程中改正……○
二四　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
二五　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
二六　四十二年五月廳訓令第八十九號中改正……○
二七　四十一年五月廳訓令第四十三號中改正……○

【樺法】

訓令

八九　通信統計報告規程……【二〇】三七
一一二　學校體操教授要目ニ關スル件……【一一】七〇
一三七　局舍ニ關スル件……【二〇】一四九　廢止　昭四年訓令四三

訓告示

一六　郵便區內地況調查ノ件……○
一　秋田縣由利郡岩谷村役場燒失……○
二　徵兵受檢者出願……○
三　狩獵免狀紛失……○
四　醫師假免許證變更……○
五　私立小學校設置場所中變更……○
六　北名好市街地町名新設……○
七　免許スヘキ漁場及漁業料……○
八　部落總代設置區域中改正……○
九　漁業料年額改正……○
一〇　狩獵免狀遺失……○
一一　公稱地名設定……○
一二　恩賜慈惠救濟資金引繼……○
一三　產婆假免許證附與……○
一四　醫師假免許證附與……○
一五　支廳出張所區域等中改正……○
一六　狩獵免狀遺失……○
一七　新潟市內埋葬墓地整理……○
一八　狩獵免狀遺失……○
一九　殖民區劃地特定地ノ件……【一四】四四

【樺法】

告示索引
二〇　國語檢定試驗區徵兵檢查日割……○
二一　朝鮮ニ移入スル果樹及樹苗ニ關スル件……○
二二　產婆名簿登錄……○
二三　總代ヲ置クヘキコトヲ得ヘキ部落……全改　大二年告示九六
二四　手繰網打瀨網ヲ使用シ得ヘキ場所廢止……○
二五　鰊雌蕃殖保護河川湖沼及鰊雌蕃殖保護區域……【一六】五六
二六　鰊雌蕃殖保護河川湖沼及鰊雌蕃殖保護區域……○
二七　支廳出張所ノ名稱位置等中改正……○
二八　總代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落中改正……○
二九　總代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落中改正……○
三〇　補助ヲ受クヘキ私立小學校ノ設置場所改正……全改　大三年告示八
三一　總代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落中改正……○
三二　林產實拂標準單價……○
三三　徵兵身體檢查日割表……○
三四　產婆免許……○
三五　產婆開業地變更……○
三六　產婆名簿取消……○
三七　補助ヲ受クヘキ私立小學校設置場所中改正……○
三八　宗仁郡遞設置……○
三九　狩獵免狀紛失……○
四〇　殖民區劃地特定地ノ件……【一四】四四
四一　鐵道列車時刻改正……○
四二　北海道廳金銀木杯賜與手續……○

四三　產婆名簿登錄……○
四四　醫師假免許……○
四五　產婆開業地變更……○
四六　產婆名簿取消……○
四七　補助ヲ受クヘキ私立小學校設置場所中改正……○
四八　宗仁郡遞設置……○
四九　狩獵免狀紛失……○
五〇　德島縣警部補巡查退隱料等……○
五一　產婆取消……○
五二　樺太時事發賣禁止……○
五三　部落總代設置區域變更中改正……○
五四　眞岡市街增設區劃地及等級……○
五五　總代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落中改正……○
五六　公務地名中「柏濱」削除……○
五七　樺太新聞發賣禁止……○
五八　產婆試驗受驗人心得……○
五九　產婆試驗施行期日、場所……【七】一三三
六〇　德島縣巡查退隱料等受領手續訂正……○
六一　和歌山市役所燒失……○
六二　醫師補助規則ニ依ル場所中改正……○
六三　公醫受持區域中改正……○
六四　醫院入院料藥價其他ノ料金中改正……○
六五　大泊桑町市街宅地增劃……○

六六　醫師假免許……○
六七　大阪府敎員竝ニ巡査退隱料……○
六八　元泊驛還屬止……○
六九　支廳名稱位置及區域中改正……○
七〇　支廳出張所名稱位置及區域中改正……○
七一　水產蕃殖保護委員證票……○
七二　警察受持區域改正……全改　大五年告示六一
七三　產婆名簿登錄……○
七四　公醫配置場所等改正……全改　大三年告示七五
七五　醫師假免許……○
七六　昆布採取期……○
七七　遠漏郵便局設置……【二】七一
七八　名寄郵便局設置……【二】七一
七九　醫師補助規則ニ依ル場所人員受持區域……全改　大六年告示三三
八〇　齒科醫師假免許地域變更……○
八一　工業調查所位置……○
八二　大泊驛ヲ南溪町驛ト改稱……○
八三　產婆地域變更……○
八四　煙筒取締規則施行地追加……○
八五　醫師假免許……○
八六　產婆名簿登錄……○
八七　記念繪葉書種類等ノ件……○
八八　記念繪葉書特殊日附印……○

八九　鐵道列車時刻表……【棒法】
九〇　醫師假免許區域變更……全改　大二年告示一三九
九一　醫師假免許區域變更……○
九二　產婆名簿登錄……○
九三　總代ヲ置クコトヲ得ル部落追加……廢止　大二年告示九六
九四　齒科醫師假免許地域……○
九五　名寄局電信事務開始……【二】七一
九六　總代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落改正……全改　大五年告示三一
九七　產婆名簿登錄……○
九八　警察受持區域改正……○
九九　森林保安林編入ノ件……【一七】三
一〇〇　醫師假免許證附與……○
一〇一　醫師假免許證附與……○
一〇二　驛遞改稱ノ件……○
一〇三　產婆假免許證附與……○
一〇四　警察受持中改正……○
一〇五　鐵道乘車賃割引ノ件……○
一〇六　醫師假免許……○
一〇七　委託農圃生產物額……○
一〇八　遠漏局電信事務開始……【二】七一
一〇九　補助ヲ受クヘキ小學校設置場所中ノ件……○
一一〇　眞岡市街區劃增設……○

告示

一一　漁業料改定……○
一二　大泊市街區劃增設……○
一三　齒科醫師免許……○
一四　免許スヘキ漁場漁業料……○
一五　漁業料改定……○
一六　舊柏濱部落地名變更……○
一七　西海岸沃内部落地貸付ノ件……○
一八　產婆名簿登錄……○
一九　大泊郵便局移轉……○
二〇　本町郵便局移轉改正……○
二一　眞岡市街區劃增設……○
二二　齒科醫師免許……○
二三　漁業料年額……○
二四　汽船車時刻表……○
二五　消防組特種被服著用ノ件……○
二六　驛遞設置……○
二七　驛代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落中改正……○
二八　產婆名簿登錄……○
二九　補助ヲ受クヘキ私立小學校設置場所區域中改正……○
三〇　南連古丹及大駒内部落宅地貸付ノ件……○
三一　齒科醫師假免許……○
三二　保呂驛遞設置……○
三三　鐵道貨物運賃ニ關スル件中追加……○

【棒法】

一三四　消防組ヲ設置スヘキ地域ヲ人員表中改正……○
一三五　醫師假免許……○
一三六　產婆名簿登錄……○
一三七　樺太廳醫院入院料藥價其他中改正……○
一三八　移民取扱所設置……○
一三九　通常列車運轉時刻及列車番號改正……○
一四〇　群馬縣上野村役場燒失……○
一四一　狩獵免狀紛失……○
　　鑛業用地使用料標準……○
　　鐵纜諸製造許可條件……○

【棒法】

廳議決定

大正三年

廳令

一　小學校教員檢定細則……【一二】七三
二　產婆補助規則……【七】一二五
三　木材流送取締規則……廢止　大一一年廳令五六
四　樺太廳支廳長委任事項中削除……○
五　樺太廳鐵道規則中改正……廢止　大一二年廳令三七
六　荷車取締規則……○
七　馬車營業取締規則中改正……○
八　明治四十五年三月廳令第七號中改正……○
九　樺太廳中學校規則中改正……全改　大一五年廳令五
一〇　水產製造物檢查規則……○
一一　廳立小學校授業料規程中改正……○

廳令

一二　樺太狩獵取締規則中改正……○
一三　樺太廳鐵道規程中改正……○
一四　樺太國有未開地特別處分令第一條第二號ノ重要製產品製造業者指定……【一四】四一
一五　私立小學校經費補助規則設定　明治四十三年四月廳令十一號廢止……廢止　大八年廳令七
一六　樺太廳支廳長委任事項中改正……○
一七　川上、落合郵便局郵便切手類其ノ他買受賣捌ニ關スル件……○
一八　雨龍外二局郵便切手類其ノ他買受賣捌ニ關スル件……廢止　大七年廳令五
一九　醫藥品輸出取締規則中改正……○
二〇　醫藥品輸出取締規則……廢止　大七年廳令五
二一　明治四十三年廳令第四號廢止……○
二二　樺太廳採炭試驗所規程廢止……○
二三　樺太廳支廳長委任事項中改正……○

廳訓令

一　樺太廳報告例設定　明治四十四年廳訓令第十二號廢止……全改　大一一年廳訓令三一
二　水產物檢查所規程設定……【二】三七
三　定額旅費規則中改正……○
四　樺太廳特別會計歲入歲出科目設定……○
五　水產物檢查ニ關スル件設定……【一六】一一〇
六　私立小學校補助規則ニ關スル件……廢止　大九年廳令二三
七　四十三年四月廳訓令第十六號廢止……○
八　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
九　落合川上兩局ヲ指定局……○
一〇　廣地外二局ヲ指定局……○
一一　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○

【樺法】

一二　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
一三　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
一四　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
一五　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
一六　樺太廳所管官有財產取扱規程設定……【九】三七八
一七　行旅病人行旅死亡人取扱手續中追加……○
一八　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
一九　樺太廳分課規程中改正……○
二〇　樺太廳臨時調查課設置設定……廢止　大七年廳訓令四
二一　樺太廳所管官有財產取扱規程中改正……○
二二　水產物檢查所規程中改正……○
二三　樺太移住民取扱規程中改正……○
二四　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
二五　樺太廳及所屬官署斷料支給規程　明治四十年樺太廳現金前渡官吏會計事務規程設定……【三】七九
二六　樺太廳現金前渡官吏會計事務規程設定……廢止　大一一年廳訓令九五
二七　租稅賦課徵收細則中改正……○
二八　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○

訓令

一〇　褒章事務取扱方心得……【四】四
四一　樺太廳文庫規程……廢止　大一〇年訓令七

訓告示

七　豐原水道非常時給水取扱ニ關スル件……○
一　徵兵檢查ニ關スル件……○
二　第二二四號(八)漁場漁業料年額改正……○
三　產婆名簿登錄取消……○

【樺法】

告示

四　醫師假免許……○【一四】四四
五　殖民區劃地貸付ノ件……○【一四】四四
六　產婆名簿登錄……○
七　狩獵免狀紛失……○
八　補助ヲ受クルコトヲ得ヘキ私立小學校ノ設置區域及位置指定……○
九　產婆名簿登錄……○
一〇　消防組設置區域及人員表中改正……○【一四】四四
一一　部落宅地區劃地貸付ノ件……○全改　大五年告示一三〇
一二　產婆補助規則第二條ニ依ル場所及其人員……○【一四】四四
一三　部落宅地區劃地貸付ノ件……○
一四　產婆名簿登錄……○
一五　總代ヲ置クコトヲ得ヘキ部落中改正……○【一四】四四
一六　西海岸大穗泊外一部落宅地新設……○
一七　北海道虻田郡虻田村役場燒失……○
一八　驛遞移轉改稱……○
一九　大泊部落宅地貸付ノ件……○【一四】四四
二〇　眞岡市街增劃……○廢止　大一一年告示一一四
二一　海馬島宗仁岬燈臺建設……○
二二　柏濱外六ヶ所驛遞廢止……○
二三　大泊榮町一丁目市街宅地增劃……○
二四　醫師假免許……○
二五　列車番號及運轉時刻表改正……○
二六　水產物檢查手數料……○全改　大四年告示四八

【樺法】

二七　水產製造物荷造其他ノ件……○全改　大四年告示四七
二八　川上外一ヶ所荷客扱所新設……○
二九　鐵道旅客賃金及哩程表中追加……○
三〇　豐原奧川上間旅客不定期列車運轉……○
三一　支廳管轄區域中改正……○
三二　警察受持區域中變更……○
三三　大泊局電話加入區域中追加……○
三四　小學校教員試驗檢查參考書……○全改　大五年告示九
三五　私立小學校位置及設置區域指定中改正……○
三六　部落總代受持區域中變更……○
三七　川上荷客扱所新設……○【一九】四五
三八　鐵道哩程表追加……○全改　大八年告示一四〇
三九　榮濱貨物線不定期列車運轉……○
四〇　產婆假免許……○
四一　敷香市街宅地增劃竝整理……○
四二　鐵道旅客賃金ニ關スル件中改正……○
四三　大正三年度林產物資拂標準單價……○
四四　假免許齒科醫師地域變更……○
四五　總代ヲ置クヘキ部落新設……○全改　大五年告示三一
四六　產婆名簿取消……○
四七　殖民地區劃測設追加……○
四八　醫師假免許ニ關スル件……○
四九　水產製造物ノ檢查標準改正……○

【樺法】

告示

五〇　小學校教員試驗檢定執行……七〇
五一　檢疫委員任命……廢止　大三年告示八四
五二　產婆名簿事項訂正……七〇
五三　總代ヲ置クヘキ部落中追加……七〇
五四　秋田縣手鹿郡阿氣村役場燒失……七〇
五五　休止中ノ列車運轉開始及普通列車ヲ汽動車ニ變更……七〇
五六　產婆名簿登錄……七〇
五七　補助私立小學校位置其他指定中改正……七〇
五八　產婆名簿登錄……七〇
五九　醫師假免許……【二】七一
六〇　川上、落合兩郵便局設置……【二】七一
六一　廣地、小能登呂兩郵便局設置……【二】七一
六二　雨龍郵便局設置……七〇
六三　產婆試驗施行……七〇
六四　大泊榮町市街宅地增創……七〇
六五　產婆名簿登錄事項訂正……七〇
六六　產婆名簿登錄……【一四】四四
六七　西海岸唐笛部落宅地及附屬畑貸付ノ件……【二】七一
六八　廣地郵便局ニ電信事務開始……七〇
六九　產婆假免許……七〇
七〇　支廳出張所ノ管轄區域中變更……全改　大五年告示六一
七一　常設巡查駐在所設置……【二】七一
七二　大谷外二局ニ電信事務開始……七〇

〔緯法〕

七三　眞岡品評會特殊日附印使用……七〇
七四　醫師假免許……七〇
七五　公獸醫配置場所及受持區域中變更……七〇
七六　狩獵免狀紛失……七〇
七七　下能登呂局電信事務開始……七〇
七八　齒科醫師假免許……七〇
七九　免許漁場……七〇
八〇　公醫追加設置……七〇
八一　醫師假免許……七〇
八二　昆布採取期日……七〇
八三　大泊榮町大通市街宅地區劃測設中追加……七〇
八四　檢疫委員廢止……七〇
八五　產婆名簿登錄……七〇
八六　同件……七〇
八七　大泊水產品評會特殊日附印使用……七〇
八八　醫師假免許……七〇
八九　汽車賃割引……【二】七一
九〇　始政記念特殊日附印使用……七〇
九一　產婆假免許……七〇
九二　小能登呂岬驛遞……七〇
九三　齒科醫登錄抹消……七〇
九四　汽車賃割引……七〇
九五　狩獵免狀遺失……七〇

〔緯法〕

告示

九六　産婆名簿登錄……○
九七　警察受持區域中追加……○　全改　大五年告示六一
九八　産婆名簿登錄……○
九九　産婆假免許……○　廢止　大七年告示四八
一〇〇　途中下車指定……○
一〇一　醫師假免許地域變更……○
一〇二　産婆名簿登錄……○
一〇三　雄吠泊驛還廢止……○
一〇四　汽車賃割引……○
一〇五　齒科醫師假免許區域變更……○
一〇六　警察受持區域中改正……○　全改　大五年告示六一
一〇七　恤兵品無償輸送……○
一〇八　豐原市街等級追加……○
一〇九　共同墓地區域指定……○　【七】四二
一一〇　醫師假免許……○
一一一　大泊市街宅地區劃增設……○
一一二　醫師假免許……○
一一三　産婆住所及開業地變更……○
一一四　諸津驛還設置……○
一一五　醫業停止……○
一一六　立木及木材積單位改正ノ件……○　【一七】五四
一一七　共同墓地區域指定……○
一一八　東海岸南北登帆部落宅地區劃地貸付ノ件……○　【一四】四四

告諭

一一九　産婆假免許繼續……○
一二〇　伏木港ニ移住民取扱所設置……○
一二一　委託農場生産物購入價格……○
一二二　通常列車時刻表中變更……○　全改　大四年告示三三
一二三　共同墓地區域指定……○
一二四　産婆名簿登錄……○
一二五　智來土人耕地區劃貸付ノ件……○　【一四】四四
一二六　智來土人共同墓地指定追加……○
一二七　産婆名簿登錄……○
一二八　公醫受持區域變更……○
一二九　漁業料改定……○　【一一】一
一　領賜慈惠救濟資金管理ニ關スル件……○　【一四】八三
一三　殖民地區劃測設調查員注意事項ニ關スル件……○　【一二】四四
一三三　勅語謄本奉置方ノ件……○　【六】一七三
一七　林野火災報告ノ件……○

議決定

議　通牒　照
通牒　發保

大正四年

令

一　小學校休業日中改正……○
二　明治四十三年四月勅令第十二號家屋建築補助規程廢止……○
三　家畜貸付規則廢止……○
四　閉墾地特別補助規程廢止……○
五　樺太廳支廳出張所長取扱事項中改正……○

廳令

六　醫藥品輸出取締規則中改正……○
七　工業原料及護謨製品輸出取締規則……廢止　大九年廳令四〇
八　水產製造物檢查規則中改正……○
九　樺太廳支廳長委任事項中改正……○

一〇　鑛產物、水產物及林產物賣拂代金延納規則中改正……○
一一　樺太廳及所屬官署經費渡切規則……全改　大一一年廳令七一
一二　產業組合施行規則……全改　大六年廳令二九
一三　明治四十五年廳令第二十四號中改正……○
一四　樺太漁業令ニ依ル漁業免許ノ競爭入札ニ關スル件……消滅　大一一年勅令六五
一五　樺太漁業令ニ依ル保證金納付規程廢止……○
一六　漁業取締規則中改正……○
一七　手繰網打瀨網漁業規則中改正……○
一八　免許漁業規則中改正……○
一九　漁業鑑札規則中改正……○
二〇　大字及字編成ニ關スル件……【八】三〇
二一　工業原料及護謨製品輸出取締規則中改正……○
二二　記念繪葉書發賣ノ件……○
二三　特定郵便局渡切經費支給規程設定　明治四十二年五月廳訓令第八十八號廢止……廢止　大一一年廳令七〇
二四　工業原料及製品輸出取締規則中改正……○
二五　畜犬取締規則……【六】一七〇
二六　樺太國有森林原野產物賣拂規則中改正……○
二七　樺太國有未開地土地處分令施行規則中改正……○
二八　賣藥取締規則……【七】一六〇

廳訓令

二九　繪葉書發賣ニ關スル件……【二〇】八七
三〇　無線電信法施行ニ關スル件……【二〇】一一五
三一　出納員現金取扱規則中改正……○
一　樺太國有森林原野產物實査規程中改正……○
二　行旅病人行旅死亡人取扱手續中改正……○
三　樺太廳報告例中改正……○
四　氣象局報發受所各中改正……○
五　樺太廳特別會計歲入歲出科目設定……○
六　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
七　樺太國有未開地特別處分令施行規則取扱手續中改正……○
八　水產物檢查所規程中改正……○
九　樺太廳報告例中改正……○
一〇　通信屬員規則中改正……○
一一　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
一二　巡查給與品支給規程中改正　明治四十年廳訓令第七十六號廢止……【一〇】二一〇
一三　產業組合法施行ニ關スル件設定……○
一四　樺太廳及所屬官署賄料支給規程中改正……○
一五　產業組合及產業組合聯合會ニ關スル取扱方心得……【一〇】二一一
一六　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○
一七　經費渡切ニ關スル心得……○
一八　樺太廳及所屬官署經費渡切規則施行細則設定……【九】二六六
一九　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……全改　大一一年廳訓令一〇〇
二〇　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……○

廳訓令

二一　樺太廳及所屬官署經費流用規則施行心得設定……【九】二六〇
二二　官幣大社樺太神社會計規則施行細則設定……【一三】九
二三　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……〇
二四　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……〇
二五　巡査部長派出所取扱事項中改正……〇
二六　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……〇
二七　畜犬取締規則取扱手續設定……【六】一七〇
二八　樺太廳及所屬官署會計事務規程……全改　大一一年廳訓令九三
二九　樺太廳及所屬官署會計事務規程帳簿計表類樣式……全改　大一一年廳訓令九四
三〇　出納官吏配置任命規程……【九】三〇二
三一　樺太廳現金前渡官吏會計事務規程中改正……〇
三二　租稅賦課徵收細則中改正……〇
三三　樺太廳鐵道收入取扱手續中改正……〇
三四　樺太廳立小學校授業料收納取扱手續中改正……廢止　昭二年訓令二三七
三五　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……【一〇】一一五
三六　樺太廳中學校授業料收納取扱手續設定……〇
三七　無線電信及電話事務取扱ニ關スル件……
三八　樺太廳特別會計歲入歲出科目中改正……
三九　樺太廳及所屬官署會計事務規程第四十三條第六號ニ依リ主務官吏ノ仕拂調書ニ依リ仕拂フコトヲ得ヘキ補助金……【九】一八三
四〇　樺太廳特別會計歲入歲出科目中追加……〇
四一　水產物檢查員心得……全改　大一一五年訓令二三
四三　樺太廳燈臺看守心得……消滅　大一一年告示一一四

【棒法】

告示

一一一　賣藥取締規則施行心得……【七】一六五
一四四　巡査身分表規程……〇
一一五　歲出金繰替拂證票及同通知書ノ記號ニ關スル件……
一　狩獵免狀紛失……【九】一一五
二　遠內驛渡廢止……
三　警察受持區域及巡査派出所名稱中改正……
四　古物商免許證遺失……
五　徵兵檢查ニ關スル件……
六　共同墓地區域指定中追加……
七　淺瀨驛遞設置……
八　小學校敎科書更定……全改　大四年告示一〇二
九　產婆住所變更……〇
一〇　醫師假免許……〇
一一　產婆住所變更……〇
一二　漁業年額中改定……〇
一三　遠洲外一驛遞廢止……〇
一四　齒科醫師假免許……〇
一五　海馬島燈臺明弧中改正……〇
一六　地名公稱告示……〇
一七　醫師假免許……〇
一八　大正四年度林產物賣拂標準單價……〇
一九　部落總代設置區域中變更……全改　大五年告示三一
二〇　免許漁場及漁業料……〇

【棒法】

告示

二一　藥賣漁場中改正……○
二二　免許漁場及漁業料……○
二三　問串漁場漁業料年額……○
二四　假免許醫師地域變更……○
二五　手牛漁場漁業料年額……○
二六　美保外十五殖民區劃地貸付ノ件……【一四】四四
二七　共同墓地指定中追加……○
二八　狩獵免狀遺失……○
二九　部落總代設置區域中改正……○
三〇　私立小學校設置區域及位置設置區域中改正……全改　大四年告示一二三
三一　共同墓地指定中追加……○
三二　醫師假免許繼續……○
三三　通常列車運轉時刻改正……全改　大四年告示七一
三四　公醫受持區域變更……○
三五　同件……○
三六　產婆名簿取消……○
三七　榮濱部落宅地附屬畑貸付ノ件……【一四】四四
三八　私立小學校位置及設置區域指定……全改　大四年告示一二三
三九　部落總代設置區域改正……全改　大五年告示三一
四〇　部落總代設置區域變更……同　上
四一　齒科醫師假免許……○
四二　產婆名簿取消……○
四三　產婆名簿登錄……○

〔樺法〕

〔樺法〕

四四　產婆試驗施行……○
四五　產婆名簿登錄……○
四六　醫師假免許……○
四七　水產製造物ノ荷造及結束ノ方法量目等級其他檢査標準……全改　大一五年告示一八
四八　水產製造物檢査規則第五條ニ依ル手數料改正……全改　大一五年告示二〇
四九　寄附者行賞……廢止　大七年告示一一四
五〇　小學校教員試驗檢定執行……○
五一　旅客運賃中改正……○
五二　久春內町名告示……○
五三　泊居町名新設及部落宅地廢止……○
五四　產婆名簿登錄……○
五五　醫師假免許……○
五六　產婆名簿登錄取消……○
五七　小學校設置區域中變更……全改　大四年告示一二三
五八　產婆名簿登錄……○
五九　樺太廳管內里程……【一一】一一
六〇　池月部落宅地區劃地貸付ノ件……【一四】四四
六一　本島產石炭運賃改定……○
六二　產婆名簿登錄……○
六三　各廳廨ニ交付スヘキ渡切經費ノ種目ニ關スル件……廢止　大一一年告示二二五
六四　產婆名簿登錄……○
六五　同件……○
六六　宅田土人部落宅地其ノ他貸付ノ件……【一四】四四